



サステナビリティレポート 2021

ALL for LONGLIFE

旭化成ホームズ株式会社



*Creating for Tomorrow*

昨日まで世界になかったものを。

# 「LONGLIFE」が導く サステナブルな未来

**AsahiKASEI** 旭化成グループ

**グループ  
理念**

私たち旭化成グループは、  
世界の人びとの“いのち”と“暮らし”に貢献します。

**グループ  
ビジョン**

「健康で快適な生活」と「環境との共生」の実現を通して、  
社会に新たな価値を提供していきます。



## 旭化成ホームズグループ CSR方針

# 『永く愛され続ける企業へ』

私たちは、時代のニーズを的確にとらえ研究し、新しいくらしや住まいを提案し続けてきました。その中で生まれた「LONGLIFE」という言葉は、「人びとのくらしに寄り添い、そのニーズに応えることで、永く愛され続けること」と考えています。

私たちは、商品・サービスを通じて快適な生活を将来にわたって約束することが社会的責任と考え、バリューチェーンを含む事業活動全体において、皆様の期待に応じて信頼される存在でありたいと願っています。

私たちは、人びとに必要とされ、感謝され、愛され続ける企業を目指します。

### 1. 事業を通じた社会への貢献

「LONGLIFE」を軸とした“くらし”や“住まい”に関わるさまざまな商品やサービスを通じて、人びとの安全・安心を守り持続可能な社会の形成に貢献します。

### 2. 誠実な業務遂行

法令および社会的な規範を含む企業倫理を遵守し、誠実な姿勢で責任を持って業務を遂行します。

### 3. 人権の尊重

事業に関わるすべての人びとの人権を尊重し、あらゆる差別を認めません。

### 4. 環境への配慮

事業活動において環境に対する配慮を行うとともに、顧客や地域社会と共に緑の創出を推進することによって豊かな環境づくりを行います。

### 5. 労働慣行及び労働安全

多様な人財が活躍できる公正で公平な雇用関係を維持し、安全で健康的な、働きがいのある職場づくりを目指します。

### 6. 社会とのコミュニケーション

情報開示を含む社会とのコミュニケーションを促進し、当社の知識や経験を活かした社会貢献活動を積極的に行います。

# 旭化成ホームズグループとSDGs

旭化成ホームズグループは、60年以上の長寿命を誇る「HEBEL HAUS」を提供し、居住されている方々の長期間にわたる快適で安全な暮らしを支援しています。

そしてそれは、SDGs (Sustainable Development Goals) の理念にも通じるものです。

旭化成ホームズグループはこれからも、多くの取り組みを通して、社会の持続的な発展に貢献していきます。

## 誠実な業務遂行

私たちは、すべての活動においてコンプライアンスを徹底し、社員一人ひとりが日常から社会規範を守り、企業の責任を全うすることを約束します。また、それをより確実にするために、内部監査の実施や、第三者機関の外部審査を取り入れて、適切かつ健全に業務が遂行されていることを確認し続けていきます。



## 環境への配慮

私たちは、気候変動への対応が急務であると考えます。その緩和策として再生可能エネルギー活用によるCO<sub>2</sub>排出抑制等を、適応策として防災力の高い住宅の開発や地域社会も含めたBCPの構築等を進めています。また、生物多様性の保全に関しても、経験・知見をもとに社会と協働しながら継続的に取り組んでいきます。



## 労働慣行及び労働安全

ともに働くすべての人の心身の健康と幸せを願い、適正な労働時間や作業環境の確保、健康管理の徹底、資格取得の支援等を行い、働きがいのある職場づくりを推進していきます。また同時に、重篤な労働災害を起こさぬよう、建築現場や工場の保安・防災を徹底し、地域社会の安全の確保に努めていきます。



## SDGs (Sustainable Development Goals)

持続可能な開発目標 (SDGs) とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs) の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成されています。

### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



## 編集方針

本レポートは旭化成ホームズ株式会社および関連会社の環境活動と一部の社会活動についてステークホルダーの皆様にご理解いただくことを目的としています。報告テーマの選定にあたっては、「当社が設定している環境・社会上の重要な課題」を前提としています。

## 参考とするガイドライン等

- 環境省「環境報告ガイドライン2018」
- ISO26000:2010
- GRIスタンダード

## 対象期間

2020年度 (2020年4月～2021年3月)  
なお定性的な情報に関しては、2021年4月～6月の情報についても一部掲載しています。

## 事業を通じた社会への貢献

私たちは、創業以来一貫して、都市での安心・安全・快適な住まいの提供を目指し、高耐久で災害に強い住宅と二世帯住宅等のソフト面での暮らし方提案を通じて、住まいの課題解決を追求してきました。これからも「LONGLIFE」の理念とともに、人びとの「いのち・くらし・人生」を支え続けていきます。



## 社会とのコミュニケーション

私たちは、地域社会の皆様とのコミュニケーションを深め、地域の発展に貢献する企業でありたいと願っています。そのために、自社施設を一般開放して行う地域イベントの開催や、出張授業等の学校教育への支援を積極的に行っています。これからも、地域の発展のために貢献していきます。



## 人権の尊重

私たちは、バリューチェーン全体においてさまざまな事業活動を繰り広げる過程で、世界中の人びとと協働しています。事業活動にあたって関連する、多様な場で働くすべての人びとの人権を尊重することを基本として、国際的に認識されているガイドライン等に基づき、その責任を果たすことを目指します。



# Contents

Creating for Tomorrow	2
旭化成ホームズグループとSDGs	4
Top Message	6
旭化成ホームズグループ概要	10
特集 LONGLIFEが導く未来に向けた 新ヘーベリアンネット	12
コーポレート・ガバナンス	
コーポレート・ガバナンス	18
CSRの取り組み	19
事業を通じた社会への貢献	
研究・商品開発	20
品質管理	24
誠実な業務遂行	
コンプライアンス	26
リスクマネジメント	30
取引先とのパートナーシップ	31
人権の尊重	
ダイバーシティの取り組み	32
社員の成長	35
働き方改革	39
環境への配慮	
環境理念・環境目標	40
気候変動への対応	44
循環型社会への貢献	48
自然共生の取り組み	52
労働慣行及び労働安全	
旭化成グループ全体での活動	56
現場での労働安全衛生への取り組み	58
工場での労働安全衛生への取り組み	60
オフィス等での労働安全衛生への取り組み	61
社会とのコミュニケーション	
地域貢献および、スポーツ・文化・教育への支援・協賛	64
お客さまとのつながり	66
第三者意見報告書	69

## 想定している読者対象

お客様・お取引先・地域社会・行政・社員・NGO・NPOなどステークホルダーの皆様

## 対象報告範囲

旭化成ホームズグループ全体について報告しています。グループの詳細については10ページをご覧ください。

〈旭化成ホームズグループ会社〉  
旭化成ホームズ(株)  
旭化成不動産レジデンス(株)  
旭化成住宅建設(株)  
旭化成リフォーム(株)  
AJEX(株)  
旭化成ライフライン(株)  
旭化成設計(株)

旭化成不動産コミュニティ(株)  
旭化成不動産サポート(株)  
旭化成ホームズフィナンシャル(株)  
旭化成ホームズ少額短期保険(株)  
リーシュライフケア(株)  
旭化成住工(株)  
旭化成住工ベトナム(AJV)  
Synergos Companies

## WEBサイトについて

WEBサイトも併せてご覧ください。

[https://www.asahi-kasei.co.jp/j-koho/environment\\_index.html](https://www.asahi-kasei.co.jp/j-koho/environment_index.html)

## お問い合わせ先

旭化成ホームズ株式会社 RC管理部(03-6899-3072)

## アンケートについて

下記URLまたはQRコードよりアンケートのご協力をお願いします。

<https://form.asahi-kasei.co.jp/homes/pub/j-koho/sustainable>



代表取締役社長

川畑 文俊



## 地球規模で進行する危機に対して住宅事業者として果たすべき役割

新型コロナウイルスによりお亡くなりになられた皆様に哀悼の意を表しますとともに、いまなお国民の命と生活を支え続けている、医療従事者をはじめとしたエッセンシャルワーカーの皆様へ、この場を借りて深く感謝を申し上げます。

最新の技術でも容易に抑え込めない新型ウイルスに対抗した「人と物理的距離をおく生活」によって、人々のライフスタイルや価値観は大きく変化しました。人々は多くの時間を自宅で過ごすようになり、その舞台となる住宅はどうあるべきか、住まいを提供する私たちは、この変化に最も敏感であるべきだと考えています。

当社は創業以来、都市に暮らす人々の暮らし方そのものを見つめ続けることで、住まい手の意識の変化をいち早くとらえ、そのニーズに特化した提案を続けてまいりました。今般のコロナ禍においては、2020年の春より継続的に暮らし方と意識の調査を行い、分析結果に合わせた提案を続けてきました。今後訪れるであろうアフ

ターコロナ時代に向けて、さらなる調査を続け、いつの時代も人々が幸せに人生を謳歌できる住まいの提供を続けていきたいと考えています。

一方で、地球規模の気候変動への対策も喫緊の世界的課題です。我が国では近年、激甚な風水災害が頻発しており、2021年に入ってから異常気象によって大きな被害をもたらしています。その原因とされるCO<sub>2</sub>について、我が国でも2050年までのカーボンゼロを目指すことを表明しており、脱炭素社会の実現と、自然災害から国民の命と財産を守る担い手として、私たち企業が負う役割はより大きくなっていくのは間違いありません。

旭化成グループは、「世界の人びとの“いのち”と“暮らし”に貢献する」という理念の下、グループ各社が連携して持続可能な社会の実現を目指しています。2021年5月には「2050年までにカーボンゼロを目指す」と宣言しました。我が国におけるCO<sub>2</sub>排出量の16%程度

# 変化の時代への対応を通して 世の中に大きく貢献する企業への 成長を目指します

を占めるとされる住宅に関わる事業を営む私たちは、ZEHや再生可能エネルギーの創出などを通して、持続

可能な社会の実現に向けて、より大きな役割を担える存在となるよう、安定的な成長を続けて参る所存です。

## 事業の安定的な拡大を通して持続可能な社会の実現に影響を与える存在へ

その成長を示す一つの指標として、当社は2025年までに連結売上高で1兆円の達成を目指しています。2020年度はコロナ禍の影響もありましたが、目標達成までの道筋をしっかりと見据えて成長を果たしてまいります。そのためには既存事業の強化と、新規事業への積極的挑戦が不可欠であると考えております。

既存事業、特に新築請負事業に関して、今般のコロナ禍を受け、住宅に対する新たなニーズが顕出していることは当社の調査においても明らかであり、今後も変化やニーズに合わせた商品・サービスを展開してまいります。さらにDXを活用した営業手法や顧客接点の構築も着々と進んでおり、新築時から入居後の先々まで一貫し

たフォロー体制を敷く中で、顧客満足度と新たなビジネスチャンスの創出を実現してまいります。

新規事業については、シニア、中高層、海外の3事業を軸に拡大を目指しています。シニア事業では、元気なシニア向け賃貸住宅「ヘーベル Village」に続き、要介護向けサ高住事業も開始し、人生100年時代を生き抜くお客様に切れ目のないサポートを行っていく体制ができつつあります。中高層事業では、8階建てまでを想定した「ヘーベルビルズ」が堅実に推移しており、高経年ビルオーナー様の安心品質ニーズに最大限応えていきます。海外については豪州、米国での事業が本格化しており、今後もシナジーを発揮しながら取り組みを強化していきます。

### ステークホルダーの皆様とともに幸せな生活を営む基盤をつくっていきます

当社の事業は、さまざまなステークホルダーの皆様との関わりによって成り立っています。私はこれまで、当社が関わるすべての方々から必要とされ続ける企業でありたいと考えてきました。例えば新築請負事業においては、まずはお客様に安心と希望に満ちた新生活をスタートしていただく、言い換えればお客様とともに、よいはじまりをつくることに全力を尽くしています。そして、入居後の長期保守・点検プログラムによってお客様のくらしと財産を守りながら、ゆくゆくは、その大切な資産を活かすサポートも続けていきます。

当社は2021年にWEB上の会員制クラブ「ハーベリアンネット」を大幅に刷新しました。これによりお客様と当社の双方向のコミュニケーションを強化し、生涯にわたりご満足頂くことを目指しています。取得した住宅

を長期にわたり満足しながらお住まいいただき、ライフステージの変化に合わせて活用していくことは、住宅の取得にかけたコストを長い目で見て最大限抑え、最終的に皆様に還元することでもあると考えております。

住宅には多くの部材が使われており、関連する多くの方々関わっています。当社が世の中から必要とされ続けることは、そうしたサプライヤーの皆様のご生活基盤を支えることにもつながっていることも忘れず、ともに成長を果たしてまいりたいと考えております。また当社には関連会社を含め1万名近い社員が在籍しております。その一人ひとりが日々お客様に感謝され、必要とされる仕事をしながら成長し、その総和として会社も大きく成長することで、結果として社員とご家族がいつまでも幸せな生活を営む基盤を作り続けていきたいと考えております。

### 持続可能な社会実現のために次世代に豊かな地球環境を引き継いでいきます

当社は2021年に環境方針を刷新し、「LONGLIFEな事業活動を通じて、持続可能な社会の実現に欠かせない豊かな地球環境を次世代に引き継いでいくこと」というたまたうえで、その実現のため三つの柱を掲げています。一つ目は「脱炭素社会とレジリエンスの推進」です。脱炭素社会の実現に向けては、過去5年で当社が提供した戸建住宅のZEH化率は飛躍的に向上しました。今後はさらに集合住宅でのZEH-M化を推進していく予定です。当社は2019年に国際的イニシアチブ「RE100」に参加しましたが、おかげ様で想定を大幅に超えるオーナー様が当社の意思に賛同の上、本活動に参加いただいたことで、当初の達成目標年度を2038年から2025年に繰り上げて取り組むことになりました。一方で頻発する自然災害に対しては、建物の頑丈さに加え、発災後のライフラ

インの確保や、迅速な建物の復旧に不可欠な保険やアフターフォロー体制の整備などを含む、トータルレジリエンスの提供を進めております。二つ目は「サーキュラーエコノミーの実現」です。当社は創業より、長寿命な建物を提供することで、建替えによる建築廃材の削減を目指してきましたが、近年では、中古住宅の流通促進や、新築・リフォーム工事現場での廃棄物削減及び3R活動によって、限りある資源の循環活用を進めております。今後はその活動をサプライチェーン全体に主体的に広げていくことで、さらなる循環型社会の実現を促進してまいります。三つ目は「ステークホルダーとともに進める自然共生」です。当社は静岡県富士市の研究施設敷地内にある「あさひ・いのちの森」にて生物多様性保全活動を続けており、そこで得た知見をもとに開発した植栽提案「ま



ちもり」を推進しております。今後は、戸建住宅やグループの工場敷地をはじめ、賃貸住宅やマンションの庭づくりにも採用を広げ、より広範囲なエコロジカルネットワークを形成していきます。さらに関連会社では、多数

の企業との協業による、地域の生物多様性保全を推進する活動も行っており、これらの活動を通して今後も地域の子供たちや、そこに生息する動植物など、声なきステークホルダーとの関わりを深めてまいります。

## 企業は“ひと”がすべて 多様な人財が活躍できる場をつくっていきます

当社がLONGLIFEな事業を継続していくためには、そこで働くすべての従業員が長く、安心して働き続けられる労働環境が不可欠です。当社は近年、より快適な職場環境を実現するために、IT設備への投資やDX技術の活用、さまざまな制度・組織改正を積極的に行ってきました。そして2020年より続くコロナ禍は、その流れを一気に後押しすることとなり、現在当社は職務に合わせてリモートワークなどを織り交ぜながら日々を過ごす環境がほぼ整っています。一方で季節により労働環境が

大きく影響を受けてきた建設現場においても、快適に職務を遂行できるよう、積極的な投資を行ってきました。さらに、社員一人ひとりが強みを活かして働き続けられるよう、社内公募人事制度の創設や、キャリア採用の強化などを行い、多様な人財が活躍できる場を創出しています。当社は海外での事業にも取り組んでおり、今後は相互の人財交流などを通して、当社で働く従業員がさまざまなキャリアパスを描きながら、夢をもって日々を過ごせる環境づくりに引き続き注力してまいります。

## LONGLIFEな事業活動そのものを通して世の中に必要とされ続ける企業を目指していきます

私たちの事業の根幹にあるのは、長く、安心して暮らし続けられる住まいを提供したい、という創業以来の想いです。それらは、人々の「いのち・くらし・人生」そのものを支え続けるLONGLIFEな商品・サービスの提供を目指す、

という現在の当社ビジョンへとつながっています。当社は今後もLONGLIFEな事業活動そのものを通して、持続可能な社会の実現に貢献することで、世の中に必要とされ続ける企業として成長してまいりたいと考えております。

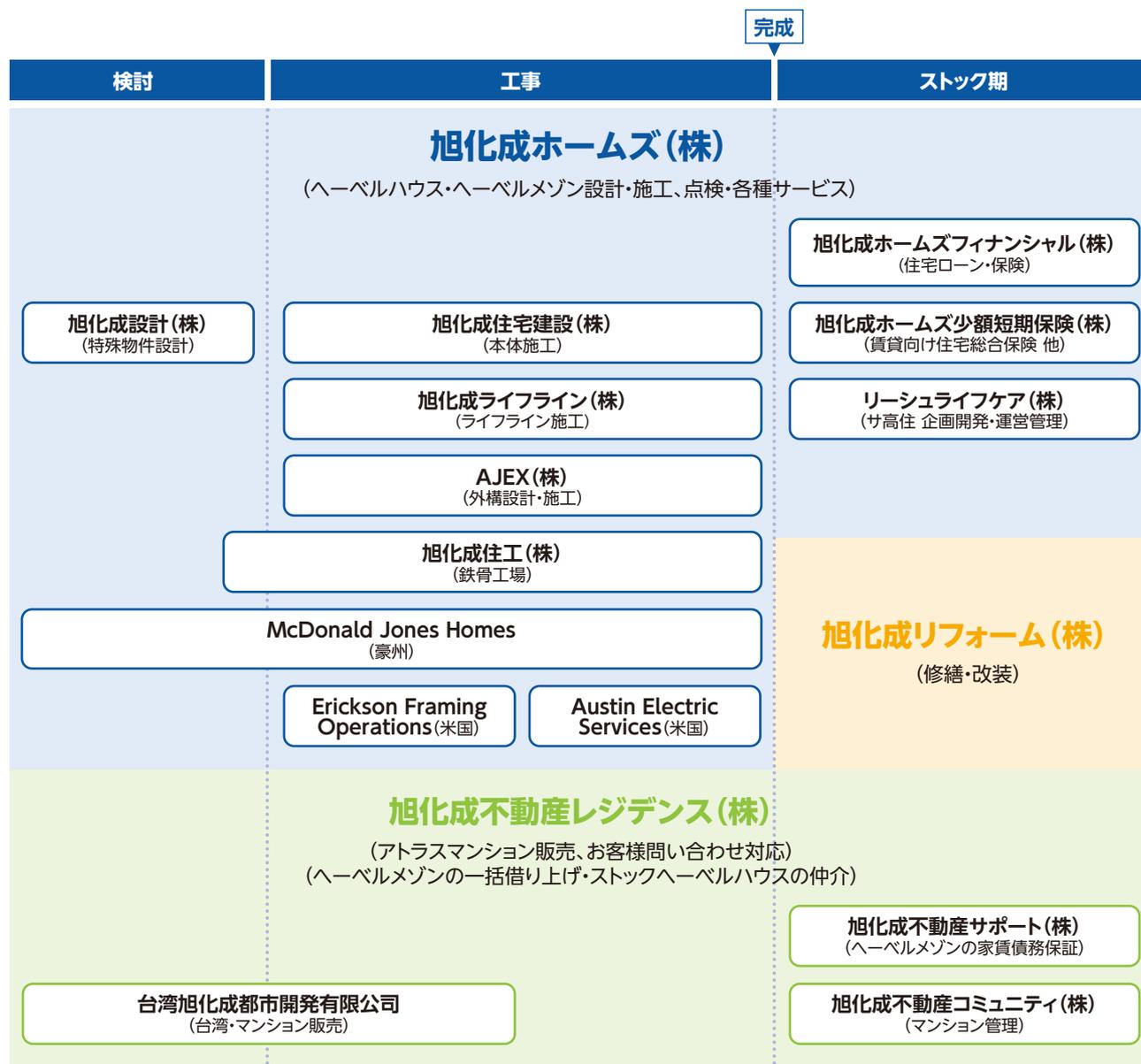
# 旭化成ホームズグループ概要

旭化成ホームズは、旭化成グループの住宅事業会社として1972年に設立されて以来、長く住み継がれる住まいの提供を目指し、都市部を中心に「HEBELHAUS」を供給しています。また、この理念実現のために不可欠な住まいの資産価値向上、美しい街づくり、豊かな住生活の支援という視点から多彩な関連事業を展開しています。



## 事業紹介

ご新築の検討から、ご入居いただいた後の長期にわたるメンテナンスやお住み替えのご相談まで、旭化成ホームズグループがサポートいたします。



## 会社概要

社名 旭化成ホームズ株式会社  
 所在地 〒101-8101  
 東京都千代田区神田神保町1-105  
 神保町三井ビルディング  
 設立 昭和47年(1972年)11月  
 資本金 32.5億円  
 売上高 6,448億円(令和3年3月期連結)  
 従業員数 7,418人(令和3年3月末現在・連結)

## 組織

事業所 営業本部……7、支店……53(令和3年4月現在)  
 主な工場 旭化成住工株式会社 滋賀工場、厚木製造部  
 旭化成住工ベトナム株式会社

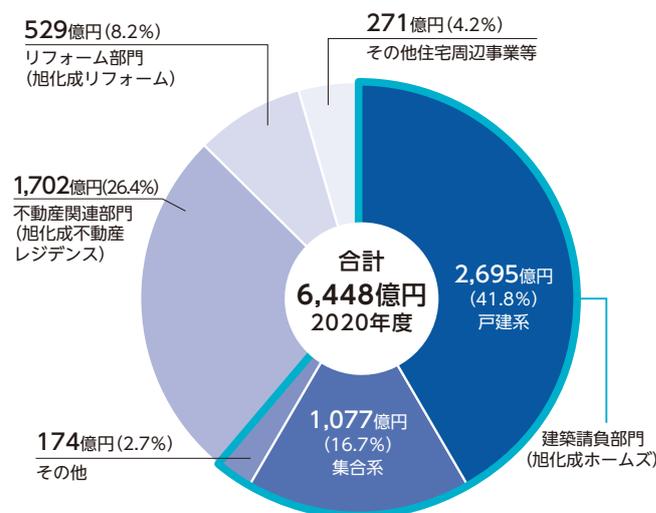
### 主な販売地域

東京、神奈川、千葉、埼玉、茨城、栃木、群馬、山梨、静岡、  
 愛知、岐阜、三重、大阪、兵庫、京都、奈良、滋賀、和歌山、  
 岡山、広島、山口、福岡、佐賀  
 (一部販売していないエリアがあります)

## 旭化成ホームズグループ売上高



## 旭化成ホームズグループ売上内訳



## 研究開発

旭化成ホームズグループは、住ソフト・ハードの両面からより良い住まい・暮らし方を研究しています。

### ▶ 旭化成ホームズ(株)

机上の空論でなく、実邸調査を通じた現場主義から生まれる  
 住ソフトで新しい暮らしをデザイン

#### 暮らしノベーション研究所

- 共働き家族研究所
- 二世帯住宅研究所
- シニアライフ研究所

旭化成グループが持つ、世界トップレベルの技術開発を背景に  
 住まいのLONGLIFEを実現

#### 住宅総合技術研究所

### ▶ 旭化成不動産レジデンス(株)

業界トップクラスのマンション建替え実績を持つ専門集団  
 マンション建替え研究所



暮らしノベーションフォーラム



住宅総合技術研究所

# 特集 LONGLIFEが導く未来に向けた 新ヘーベリアンネット

## ヘーベリアンのLONGLIFEに寄り添う 新ヘーベリアンネット

戸建て住宅ヘーベルハウス、また賃貸住宅ヘーベルメゾンのオーナー様のことを、私たちは敬意と親しみを込めて「ヘーベリアン」と呼ばせていただいています。ヘーベリアンネットは、ヘーベリアンとヘーベルハウスを結ぶ専用のウェブサイトです。この度、そのヘーベリアンネットを大幅に改定し、「新ヘーベリアンネット」としてリニューアルいたしました。

新ヘーベリアンネットでは、サービス内容が大幅に拡充するとともに、ご契約直後からご利用いただけるようになったことで、家づくりの段階からお客様との親密なコミュニケーションを実現しました。生活のあらゆるシーンでお客様に寄り添えるコンテンツをご用意し、新しく生まれ変わったヘーベリアンネットは、ヘーベリアンの暮らしを幅広くサポートしてまいります。

ヘーベルハウスを  
ご新築されるお客様

ヘーベルハウスに  
お住まいのお客様

賃貸オーナーの皆様と

オンラインでつながり、  
見守り、寄り添う

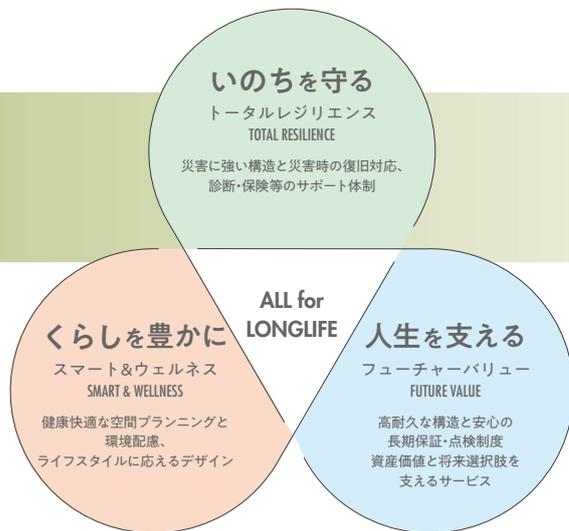


オンラインで密に深く、  
強くつながる！

**NEW**

# HEBELIAN NET.

<https://www.hebel-haus.com/net/>



新ヘーベリアンネットのメニューには、気候変動による災害の発生や、新型コロナウイルス感染症による大きな社会の変化など、現代におけるさまざまな社会課題の解決につながる機能があります。新ヘーベリアンネットは、ヘーベリアンの皆様の日々の生活、未来への不安や問題に常に寄り添い、世の中の変化に対応しながら末永く皆様を支えます。All for LONGLIFEの思想のもと、旭化成ホームズは、サステナブルな社会に貢献していきます。



### 私たちを取り巻く社会課題の例

- 新型コロナウイルス感染症による大きな社会の変化
  - 住まいの多様化
  - 働き方改革
- 日本固有の課題
  - 労働力の減少
  - 少子高齢化
- 人生100年時代
  - 生活の多様化
  - 老後を見据えた安心・安全な住まい
- デジタル化の加速
- 気候変動等による大きな社会の変化
  - 気候変動による災害の発生
  - 省エネの必須化
- 大規模な地震の発生

## 現代社会のニーズに応える 新ヘーベリアンネットのメニュー

### レジリエンス

- 災害危険度情報  
お住まいのエリアの警報情報を提供
- 災害が発生したら  
災害に対応するための情報を提供

### エネルギー

- ヘーベル電気  
電気使用量の確認・余剰電力の買い取り  
カーボンニュートラル推進に貢献

### 充実した人生

- ロングライフ事例集  
家族構成や年齢、ライフスタイルの変化に応じた  
お悩みへのサポート

### 情報の蓄積・継承

- マイページ  
ヘーベルハウス、ヘーベルメゾンの情報の蓄積・継承

### ニューノーマル時代への対応

- 非対面の打ち合わせ・設備提案  
非対面コミュニケーションツールの充実

# 現代社会のニーズに応える 新ヘーベリアンネットのメニュー

All for LONGLIFEでサステナビリティ時代をリードする旭化成ホームズは、新ヘーベリアンネットによって、さらに一步先へ進みます。充実した人生に寄り添う新ヘーベリアンネットでは、現代社会のニーズに応えるさまざまなメニューをヘーベリアンの皆様にご提供しています。

## レジリエンス

### 災害危険度情報

災害発生時に、お住まいのエリアの警報情報(気象庁発表)をヘーベリアンネットから閲覧でき、警報発令時には、スマートフォンで通知を受け取ることも可能です。



また、災害が発生した場合の初期対応についての情報も多数掲載しています。



## エネルギー

### ヘーベル電気でカーボンニュートラル推進に貢献

HEBELHAUSでは「ヘーベル電気」という電力供給も行っていきます。新ヘーベリアンネットでは、そのヘーベル電気への加入手続きも可能です。ヘーベル電気は電気料金がお得になるだけでなく、太陽光発電を搭載した場合、FIT制度による定額買取期間(10年)が終了した後、従来はFITで売電していた余剰電力の買い取りも行っています。



さらに、旭化成ホームズでは、ヘーベリアンの皆様より買い取らせていただいた太陽光発電由来の再生可能エネルギー(電力)を、国際的な脱炭素活動[RE100]への取り組み(P46参照)に活用させていただいています。ヘーベリアンの皆様がヘーベル電気にご加入いただくことが、世界のカーボンニュートラル推進につながっています。



「いのちを守る」

「くらしを豊かに」

「人生を支える」



## 充実した人生

### ロングライフ事例集

住まいの悩みは、家族構成や年齢の変化、ライフスタイルの変化に応じて変わります。皆様のLONGLIFEをサポートし、さらには高齢となっても元気な皆様を支える、さまざまなノウハウを公開しています。



### 5つの事例を公開中



#### ■ 新しい生活スタイルに合わせてリフォーム



年月が過ぎれば、ご家族のライフスタイルにも変化があります。例えば、お子様の独立で子供部屋が空いたのでご主人の書斎にしたり、ご両親がご高齢になられて椅子がある生活のほうが楽なので和室を洋室に改装したりと。そのようなライフスタイルの変化に合わせてリフォーム事例も多数ご紹介しています。

#### ■ サポート付きシニア向け集合住宅「ヘーベル Village」に住み替え



ご入居後数十年経つと、ご高齢者のお一人暮らしの世帯も増え、ご病気や体力の衰えで、戸建てでの一人暮らしに不安を感じている方も多くいます。そのような方向けに、見守り・緊急駆付け体制の整っているシニア向け賃貸住宅「ヘーベル Village」への住み替えのご提案もさせていただきます。

## 情報の蓄積・継承

### マイページ

ヘーベルハウス、ヘーベルメゾンの情報や履歴をここからご確認いただけます。過去の情報が蓄積されているため、オーナー様が世代交代しても情報を引き継げます。



## ニューノーマル時代への対応

### 非対面の打ち合わせ・設備提案

ご契約後のさまざまな打ち合わせを、すべてリモートでも可能としています。例えば「EST(エスト)」というシステムを使用すると、新築時の設備やインテリアについて、スマートフォンやPCから製品の特徴の確認や価格のシミュレーションが可能となります。



サポートチャットでさまざまなご相談にも対応しています。

## 充実した人生の 良きパートナーであり続けるために

家づくりの設計から、点検、修理、リフォームまで、お客様からの希望を新ヘーベリアンネットを介して早く、確実に入手することで、実際の対応に時間をかけ、従来よりさらに丁寧に取り組むことができるようになりました。デジタルを活用することで、お客様の生活ペースを大切にすると同時に、サービスの質を高め、これまで以上にお客様に寄り添える体制を整えてまいります。

### 初めての家づくりから保守・点検、そして未来

家づくりの開始から、お引き渡し後の長い将来にわたって、新ヘーベリアンネットはお客様にさまざまなメリットをもたらします。

#### ご契約からお引き渡しまで

- ・自分の都合に合わせて、仕様決めや変更をWeb上で検討することができます。
- ・担当者との意思の疎通がスムーズで、記録も残ります(打ち合わせ議事録や図面も閲覧可能)。
- ・工事の進捗状況が把握できます。



#### 毎日の暮らしの中で

- ・大型台風等、想定被害が予見可能な災害時に、早期段階でメールが届くため、すばやい避難につながられます。
- ・過去の点検履歴やリフォーム履歴を確認できます(他社で実施した場合も入力可能)。
- ・住まいにもしものことがあったときに、Webから修理を依頼できます。
- ・暮らしの中の「困った」を解決する、たくさんのコンテンツが用意されています。

ex., 壁に物を取り付ける方法  
サッシの開閉を軽くする方法  
給湯器が壊れる前兆や目安  
庭のお手入れサービス……など

#### 将来のために

- ・修理、リフォームの履歴が残っているので、売却のときも安心です。
- ・住まいの補償内容の閲覧や、定期点検の依頼ができます。
- ・確定申告や相続対策、土地の活用法など、さまざまなイベントやセミナーに参加することができます。
- ・相続や資産承継、認知症や健康不安時の資金管理等についてのサポートを受けることができます。

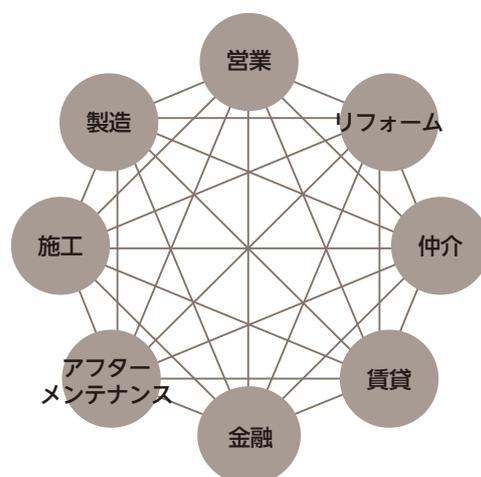


## 住まいの記録を 次世代につなぐ



### ネットにつながる効果 ニューノーマル、変化を効果へ

新ヘーベリアンネットによって、旭化成グループの各社、各セクション個々の部分的な情報共有から、グループが有機的につながった全社的な情報共有の実現によって、さまざまな相乗効果が期待できます。グループ全体で、ONE TEAMでお客様に寄り添い、最適なアドバイスができるように連携を進めてまいります。また私たちの強みである定期点検など対面での活動に加え、デジタルを徹底的に活用することで、お客様の興味関心に的確にお応えしてまいります。



#### お客様とのかかわりの中で

- お客様の悩みや相談に、迅速かつ的確に対応できます。
- 新築やリフォームでは、お客様に十分にご納得いただくための時間を確保することができます。
- 仕様等の打ち合わせについて、お客様と相互に確認ができます。
- Webベースでのやり取りが増えることで、移動時間や使うエネルギーの軽減につながります。

#### これからもヘーベリアンの皆様とともに

新ヘーベリアンネットに蓄積されるのは、住まいのライフログ。設計段階で検討した内容から、お子様のためにリフォームした記録、自分たちで行った改装や修理の記録は、「家の歴史と思い出の詰まったアルバム」に似ています。それらは、オーナー様が世代交代しても、その家の一部として次のオーナー様へ引き継がれ、次の物語を紡ぎます。

新ヘーベリアンネットはLONGLIFEを支えるプラットフォームとして、ヘーベリアンのために、LONGLIFEが導く未来に向けこれからもさらなる進化を続けてまいります。



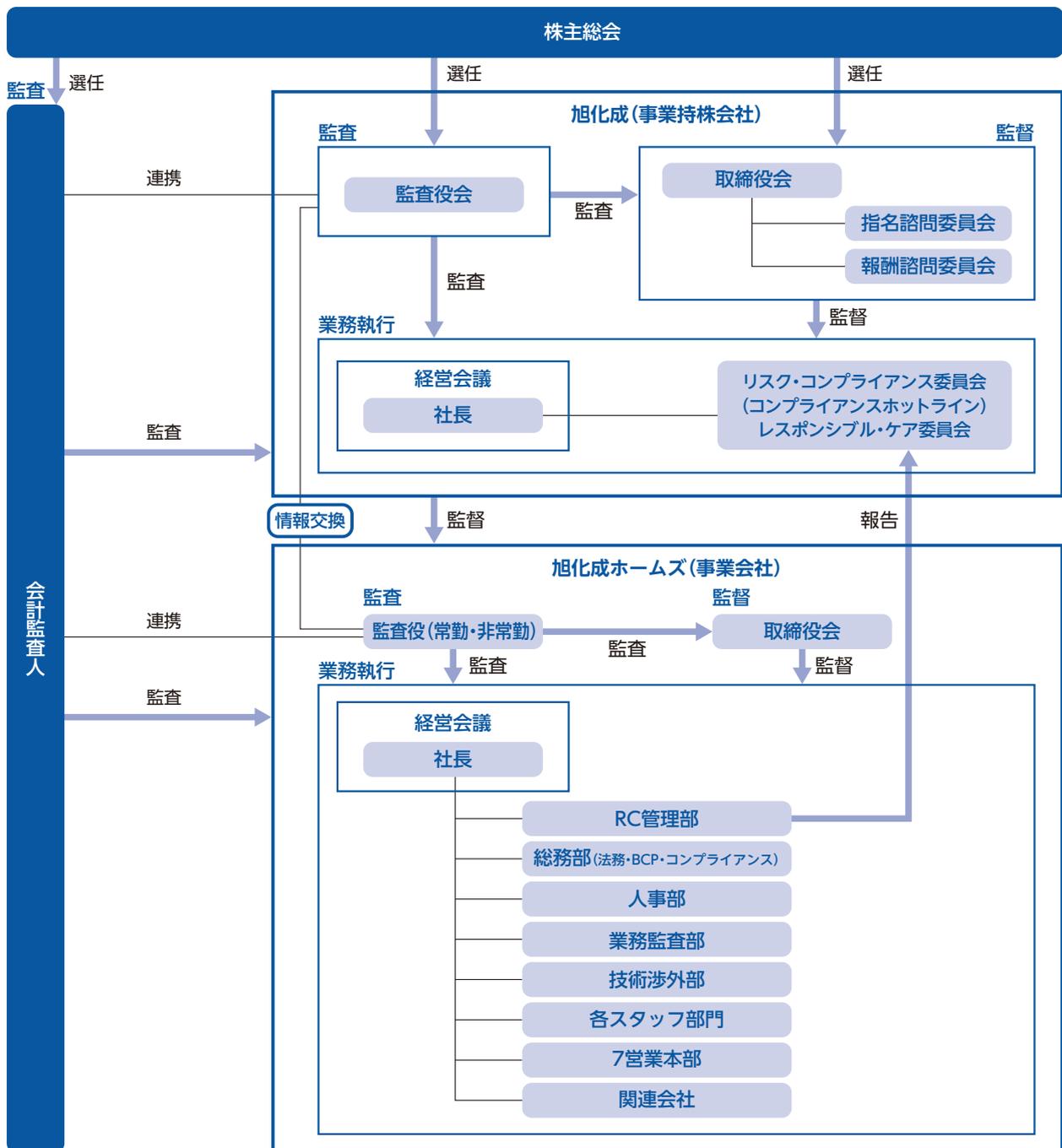
# コーポレート・ガバナンス

## コーポレート・ガバナンス

旭化成グループは、「世界の人びとの“いのち”と“暮らし”に貢献します」というグループ理念の下、「健康で快適な生活」と「環境との共生」の実現を通して、世界の人びとに新たな価値を提供し、社会的課題の解決を図っていくことをグループビジョン(目指す姿)としています。そのうえで、イノベーションを起こし、多様な事業の融合によりシナジーを生み出すことで、社会に貢献し、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指しています。

そのために、事業環境の変化に応じ、透明・公正かつ迅速・果断に意思決定を行うための仕組みとして、グループにとって最適なコーポレート・ガバナンスのあり方を継続的に追求しています。旭化成グループの3つの事業領域のうち、住宅事業領域を担う当社はグループのコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方を行動指針とした事業活動を展開していきます。

コーポレート・ガバナンス体制図



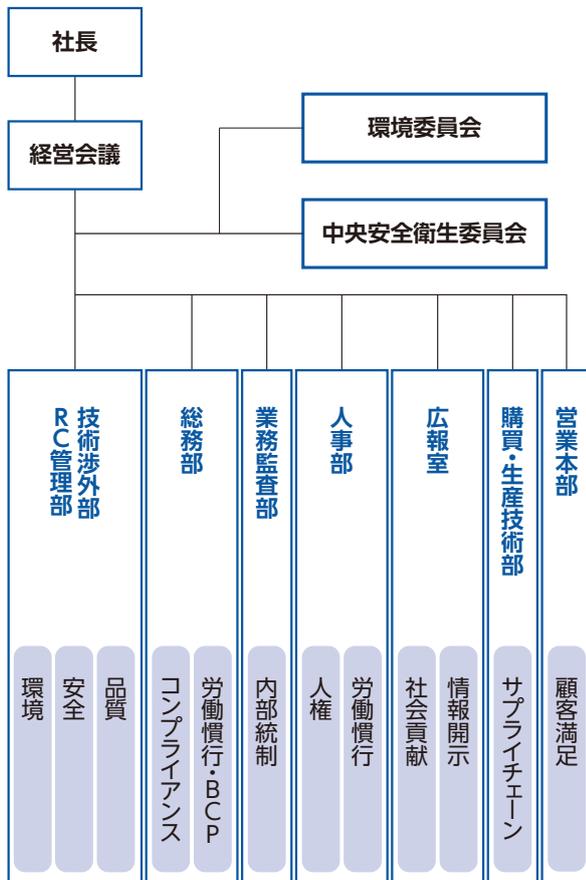
2021年4月現在

私たち旭化成ホームズグループは創業以来、さまざまな取り組みを通じて、お客様をはじめとするステークホルダーの皆様と「健康で快適な生活」「環境との共生」という視点から新しい価値の創出に注力してきました。当社が抱く「人びとの『いのち・くらし・人生』全般を支え続ける LONGLIFE な商品・サービスを提供し続けたい」という想いは、大きく変化する社会や環境の中でステークホルダーの皆様からの信頼を保ちつつ、新しい価値を提供し続けていくための基本的な考え方であり、原動力になっています。私たちは、この想いを次世代に伝え実現し続けていくために、より信頼される企業であることが必要であると考えています。法令や倫理などの社会的規範の遵守、人権・地域の文化・慣習の尊重、地球環境への配慮を行い、社員のたゆまぬ成長とともにステークホルダーの皆様さまざまな価値を提供していきます。

## CSR マネジメント

旭化成ホームズグループのCSR活動は各テーマを担当する専門部署を中心に実施されています。それぞれの活動計画および結果は責任者や経営層によって審議・承認され、必要に応じた指示が行われます。また、活動の進捗や結果について親会社である旭化成株式会社の各専門部門に報告されます。

### CSR マネジメント体制図



RCとは……レスポンシブル・ケア (RC) とは、主に化学物質を扱う企業がその開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄に至るまで「環境・安全・健康」を確保し、成果を公表することによって社会とのコミュニケーションを図る活動です。

## 旭化成ホームズグループのCSR活動の展開

旭化成ホームズグループは、さまざまなステークホルダーとの関わりを持ちながら事業活動を推進しています。CSR活動は、ステークホルダーの皆様と良好な関係を築き、信頼を得るための基本的な活動であると考えています。法令遵守、環境保全、人権の尊重、労働慣行や労働安全、社会とのコミュニケーション等のCSR方針に定めている活動をベースに社会課題を解決するための新たな商品やサービスを生み出すことによって、多くの皆様に新しい価値を提供していくことが当社の社会的責任です。「人びとに必要とされ、感謝され、愛され続ける企業」になるために、CSRマネジメント体制の下にCSR活動を積極的に推進していきます。



### 私たちの 想い

私たちは、創業以来一貫して、都市での安心・安全・快適な住まいの提供を目指し、高耐久で災害に強い住宅と二世帯住宅等のソフトウェア的な暮らし方提案を通じて、住まいの課題解決を追求してきました。これからも「LONGLIFE」の理念とともに、人びとの「いのち・暮らし・人生」を支え続けていきます。

### 主な 取り組み

- ・ HEBELHAUS を中心とした、安全・安心・快適な居住環境の提供
- ・ 新規事業の拡大と推進  
(海外事業展開、新規事業案の社内公募など)
- ・ 施工現場での徹底した品質管理
- ・ 工場や開発部門での、ISO等の第三者機関による厳密な監査の実施
- ・ お客様や現場で働く方々の声も取り入れた改善改良活動

## 研究・商品開発



耐震・耐火・耐久性に優れた「HEBELHAUS」は、日本の長寿命住宅のパイオニアです。私たちは、どこよりも安心・安全・快適な住まいの提案を行うとともに、「ALL for LONGLIFE」を推進しています。また、都市型住宅の先駆けとなった「3階建て住宅」や「共働き住宅」、業界初の「二世帯住宅」の発売など、家族構成や敷地環境に合わせた「住まい方」の研究も推進しています。

### レジリエンス認証

旭化成ホームズは事業を通じて、住まいと街のレジリエンス向上に努め、2019年に内閣官房国土強靭化推進室の第2回国土強靭化貢献団体認証「レジリエンス認証」において「事業継続および社会貢献」の認証を取得しました。



当社においては、大災害の発生時、通常のBCPの範囲である自社の事業継続や社員の安否確認の領域を超えて、被災されたお客様の生活の復旧までを含めた対応が必要であると考えています。その対応を如何に迅速にできるかが、住まいや街のレジリエンスの重要品質です。旭化成ホームズでは、いつか必ずくるであろう大災害に備え、2021年1月に災害対応ガイドラインの見直しを図りました。その内容の有効性を確認するため、2021年3月19日、神保町本社においてコロナ禍での大震災発生を想定した災害対応模擬訓練を実施し、更なるBCP体制強化に向け、改善活動を継続しています。

私たちはこれからも、大災害時の状況下において最善の初動をとり、だれよりも早くお客様と地域の復興に取り組んでまいります。

### レジリエンス・アワード

ジャパン・レジリエンス・アワードは、強靭な国づくり、地域づくり、人づくり、産業づくりに資する活動に取り組んでいる先進的な団体を表彰する制度です。

「ジャパン・レジリエンス・アワード(強靭化大賞)2021」

(2021年3月18日発表)において、旭化成ホームズは、「第7回ジャパン・レジリエンス・アワード 優秀賞」を受賞し、3年連続でのアワード受賞となりました。

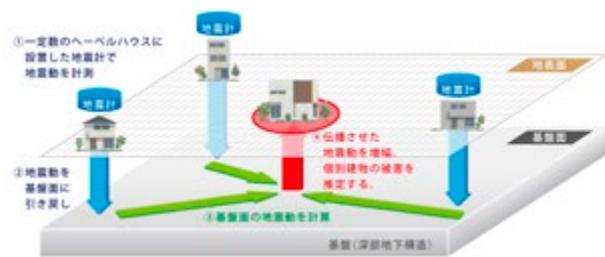
今回の受賞は、旭化成ホームズが静岡県で開発・分譲した「あしたの杜」に住む入居者3組の協力により実現しました。災害時で発電した余剰電力を、当社グループ会社所有の電気自動車を用いて隣接する旭化成社宅に提供する仕組みが、「住民の発電電力および社有施設を活用した、レジリエントな地域づくり」として評価されたものです。

私たちは、人びとの「いのち・暮らし・人生」全般に関わるLONGLIFE(ロングライフ)なサービス・商品の提供によって、持続可能な社会の実現を目標に掲げ、これからも長く愛され続ける企業を目指します。



## IoT 防災情報システム (LONGLIFE AEDGiS)

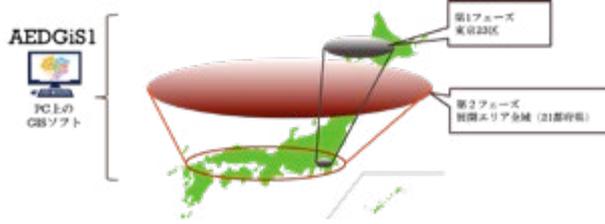
LONGLIFE AEDGiS(ロングライフイージス)は、旭化成ホームズが国立研究開発法人防災科学技術研究所(以下:防災科研)の協力を得て開発した防災情報システムです。一定数のヘーベルハウスに設置した地震計の地震動観測データと、高密度な地盤データベースおよび地震動伝達に関する高速演算手法を組み合わせ、地震発生後10分~2時間程度で、そのエリアに建つすべてのヘーベルハウスおよび・メゾンの邸別の建物被害レベルや液化化発生状況を推定することができます。



LONGLIFE AEDGiSの第1フェーズとして、東京23区に建つ166棟のヘーベルハウスへの地震計設置を完了し、2021年8月よりシステム試験運用を開始しました。

第2フェーズは2022年4月から、ヘーベルハウスを展開する全エリアでの運用開始を目指します。

### 【フェーズによって進行する運用予定エリアイメージ】



第1フェーズのエリア  
東京23区

●...地震計を設置したヘーベルハウス(約2キロ間隔)  
●...地震計を設置していないヘーベルハウス・メゾン  
(東京23区内:約4万棟)

地図使用承諾:©電文社第610074号

### 専門家による評価

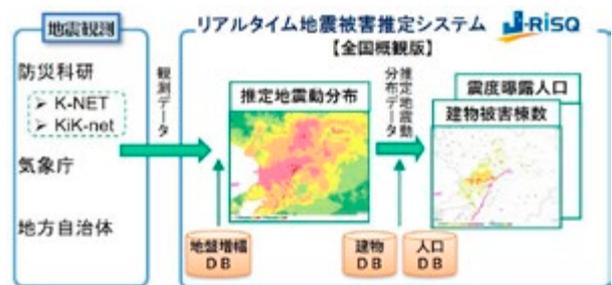
国立研究開発法人  
防災科学技術研究所  
マルチハザードリスク  
評価研究部門

ふじわら ひろゆき 部門長  
博士(理学)  
**藤原 広行**



災害に対する日頃からの備えは言うまでもないが、発災後の迅速確実な対応が大事である。それを援けるのが、災害時人々に何が起きているかを即座に知って、対応にフィードバックする防災情報システムである。旭化成ホームズのLONGLIFE AEDGiSは民間の先駆的な試みとして評価したい。同社が顧客に向けたような緻密な取り組みと公の広く社会へ向けた取り組みが相互補完することで防災は進化するだろう。その具体として国家レベルで運用される防災科学技術研究所のJ-RISQシステムとも連携する構想があると聞いている。将来旭化成ホームズが取得した防災情報が社会に提供されることになれば、より社会全体の防災に役立つだろう。その社会的貢献は大きい。

今後、防災科研が開発したJ-RISQの予測結果を取り込んで、システムの高度化を進め、個別建物等の即時被害推定や、将来の地震被害想定への応用を進める予定です。



J-RISQ: Japan Real-Time System for Earthquake Damage Estimation  
防災科研の強震観測網(K-NET、KiK-net)等の観測データに基づき、大地震のような広域災害時に被害全体をリアルタイムに推定、状況を把握するリアルタイム地震被害推定システム

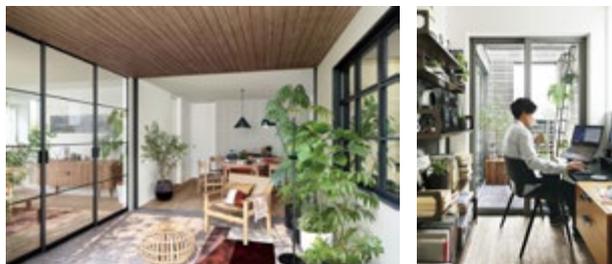
防災におけるSNS情報の活用に向けた共同研究も進めており、地震災害時の迅速な復旧・復興支援の強化並びに、レジリエンス向上に取り組んでいます。

### 新空間提案 onefitto (ワンフィット)

「onefitto」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の取り組みによる在宅時間の増加や、急速に注目された在宅ワーク、衛生意識の変化、インターネットによる購買の活発化など、ニューノーマル時代で変化した家族のあり方と暮らし方に合わせた空間提案を盛り込んで、2020年11月に販売を開始した新しい住まいの形です。

現在、家はただ「くらす」だけでなく、日々「働く場」、あるいは家族で「遊ぶ場」として、より多様で重要な役割を担うようになりました。2020年4月以降、くらしノベーション研究所では、家の新しい役割を明らかにする目的で、在宅ワークに付随したくらしの変化を調査してきました。9月の調査から、「完全に仕切られた場所在宅ワークをしたい(男性71%/女性49%)」「LDKと近い場所在宅ワークをしたい(女性70%/男性35%)」など、男女在宅ワークスペースへの異なる要望があることが分かりました。また、家事については「おうち時間が増えても、洗濯物の室内干しスペースは必要(YES:96%)」「以前よりも手を洗う機会が増えた(YES:89%)」といった意見が把握できました。そうした最新の調査結果から得られた「これからの住まいへの要望」が、onefittoの提案設計にはさまざまなカタチで盛り込まれています。

私たちは、時代を超えて人と街に愛される LONGLIFE な住まいの設計に、これからも取り組んでまいります。



左上: インナーテラス / 右上: クローズドワークスペース  
左下: スマートクローク / 右下: パーソナルベランダ



### ヘーベルハウスの長期優良住宅

長期優良住宅認定制度は平成21年6月より施工された「長期優良住宅の普及の促進に関する法律」に基づき、住宅の長寿命化を促進するための制度のひとつです。

この認定を受けるため、一戸建てでは劣化対策、耐震性、維持管理対策、省エネルギー性、維持管理の容易性の認定基準を満たす必要があります。

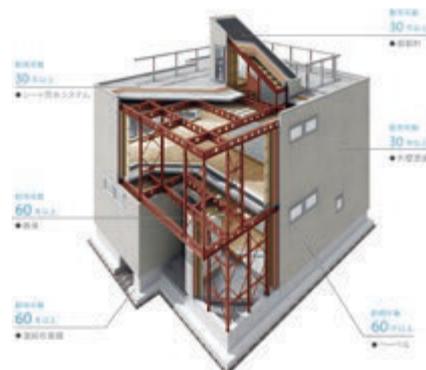
特に耐震性においては、大きな地震が発生した場合にも継続した利用を可能とすることを目的とした改修の容易化を図るため、損傷の低減を図ることが必要になります。それと同時に、必要な断熱性能等の省エネルギー性能が確保されていることも求められます。

ヘーベルハウスは、高耐久・高性能な躯体システムで構成されており、同時に、断熱等性能等級4[H25年規準相当]に適合する高い断熱性能を有しています。この制度の基準を満たす性能を持ち、2020年度は一戸建て住宅で4,000戸を超える「長期優良住宅」を供給しています。

これからも長期優良住宅の提供を通して、地震や気候変動に起因する災害にも耐え、長く快適に住み続けられる持続可能な家づくり・街づくりに取り組んでいきます。



ヘーベルハウスの内部

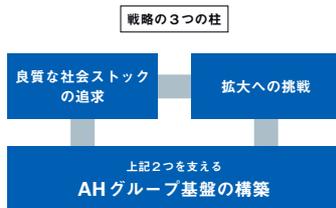


ヘーベルハウスの各部位の耐用年数

## 挑戦そして成長し続ける企業へ

お客様に真摯に向き合い、お客様の人生に寄り添い、お客様の生涯にわたり多様な商品・サービスを継ぎ目なく提供できることは私たちの願いあり、それを実現するための指針が「Challenge & Growth」です。

### Challenge & Growth



2020年は、市場環境や働き方も、お客様の価値観も大きく変化しました。この変化に対応するためにも、Challenge & Growthの3つの基本戦略である「グループ基盤の強化」「良質な社会ストックの追求」「拡大への挑戦」をグループ丸となって続けていくことが重要かつ不可欠と考えます。

私たちはこれからも、Challenge & Growthの指針のもと、自らも持続可能な成長を遂げながら、「LONGLIFE」の実現を目指します。

## 旭化成株式会社が「知財功労賞」経済産業大臣表彰を受賞

旭化成株式会社は2021年4月16日、「知財功労賞」（経済産業省特許庁主催）の経済産業大臣表彰を受賞しました。

「知財功労賞」は、知財制度を有効に活用し、円滑な運営・発展に貢献のあった企業等に対して行われる表彰で、今回は「知的財産権制度活用優良企業」として、特許分野での知財活動が評価されました。旭化成グループの一員である旭化成ホームズ株式会社も、知的財産権を有効に活用し、新規事業の創出や事業戦略の立案などに役立terことで、「持続可能な社会の実現」と「持続的な企業価値の向上」の双方を実現していくことを目指していきます。

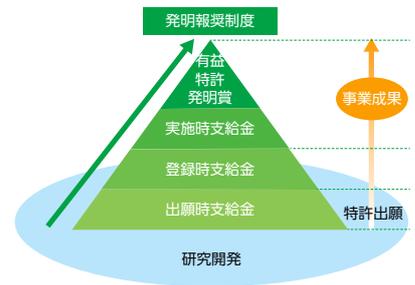


経済産業大臣政務官 宗清様(左)と旭化成 小堀社長(右)

## 知的財産と発明報奨

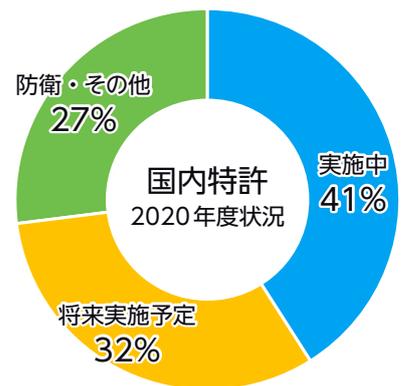
旭化成ホームズは、住宅事業に貢献すべく、グループ全体で技術改革に取り組み、知的財産活動を推進しています。工業化住宅の研究開発から、生産技術、設計および施工技術の開発、さらには現場の改善・改良活動まで、事業活動から生まれた新技術や新工法などを積極的に知的財産化しています。

この知的財産活動を支援しているのが旭化成グループの発明報奨制度であり、報奨金の上限撤廃や実施時にも報奨金を支給するなどの大幅な制度改定を2005年に実施しています。この制度によって、知的財産の価値に関する理解度を高め実用的な発明の促進を図られています。また、この制度そのものを時代の変化に対応させることによって、技術者の知的財産マインドを向上させ、発明意欲を高めてより多くの優れた発明が生まれるような公平なものとなるように努めています。



また、知的財産は事業利益を生み出す根幹であるとの認識の下、「旭化成グループ知的財産権管理規程」を基準とし、知的財産権の取得・管理・行使も行っています。

特にLONGLIFEを支えるコア技術の研究開発の成果について、主力商品のヘーベルハウスを中心とした、住宅のシェルター技術である「安全性」「耐久性」「居住性」「環境対応性」の特許や、住まい方などの「住ソフト技術」、住環境の「評価・シミュレーション技術」、および「ビジネスモデル」などの実施技術を中心に優先的な特許出願を進め、2020年度現在で800件以上の多くの権利を取得しています。



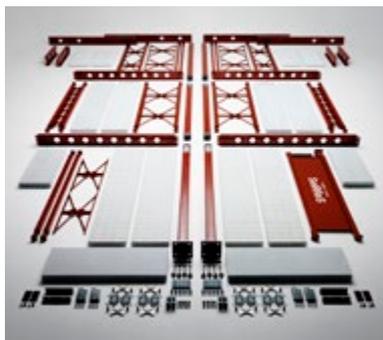
### 品質管理



安心・安全な住まいを実現するためには、提供した商品やサービスについて、設定どおりの品質が確保され、常に期待したとおりの基本性能が発揮されていなければなりません。そのために私たちは、工場や工事現場をはじめとするさまざまな場面で品質管理を行っています。また、ご入居後のお客様や施工現場からの声を取り入れる「改善改良提案制度」も品質向上に貢献しています。

#### 商品・技術開発での品質管理

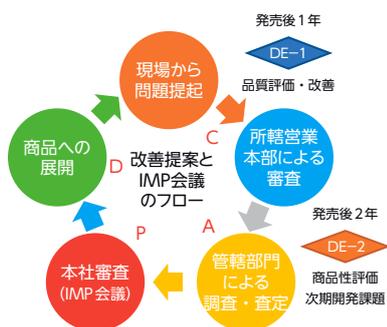
建築関係の制度では、「安全性を確保した建蔽率の緩和」「既存建築ストックの活用」などの規制合理化が進む一方で、大臣認定や型式認定・製造者認証の審査では、第三者機関確認が定期的に必要となる厳格化も図られています。旭化成ホームズでは、ISOの規程に従って高い品質を確保すべく商品や技術を開発してきました。



今後も、規程に沿った管理とともに第三者機関の審査を受けることにより、認定・認証の運用品質を高く保っていきます。

#### 総合品質管理の為のIMP会議

製品の不具合解決事例や改良・改善設計システム(A-KAIZEN)からの提案案件を評価し改善するためのIMP会議(IMProvement会議)を半年毎に開催し、改善活動の軸としています。中でも開発・発売した製品や商品の売れ行き、初期不良の有無、お客様評価、営業現場の声などを、発売1年後(DE-1)・2年後(DE-2)に確認し、商品開発の妥当性評価を行い、よりよい商品の開発や、品質の改善につなげていきます。



#### 改善提案システム(A-KAIZEN)

旭化成ホームズでは、製品やサービスなどのさまざまな不具合を解消・改善するための提案をオンラインで受け付ける「A-KAIZEN」を活用しています。各担当者がお客様からのご指摘や、施工現場での気づきなどに基づく提案をシステム入力すると、自動的に責任部署に提案が届き、迅速に不具合の解消や製品の改善を行える仕組みです。約半年以内に提案採用可否の判定(回答)をし、採用の提案は、その後の商品の改良や新商品・新仕様の開発に活かしています。

改善提案提案件数と回答数の推移



#### 施工現場での品質管理:LLQCS

ヘーベルハウスの品質管理は、独自の「ロングライフ住宅品質管理システム規定」、通称LLQCS (LONGLIFE-Quality-Control-System)により実施されています。

これは本社主導による品質管理で、検査項目や実施時期、検査者のスキル等を厳格に制定しています。検査手順と検査内容を明確にし、マニュアルや動画を整備し教育を行い、一連の動作の中で無理なく漏れのない検査が確実にできるようなっています。施工現場での確実な検査を行うために、重要項目の検査は検査員制度を設けており、資格取得者のみが実施することになってます。



## 第三者的な現場品質検査

ヘーベルハウス各物件の品質管理活動は、本社直轄の部署である施工管理部を統括組織として、独自のロングライフ住宅品質管理システム規定LLQCSに従い、各工事課によって実施されています。施工管理部は第三者的な立場で、工事課がLLQCSを実践し、現場品質が確保されていることの確認を目的に、実際に施工を担当する全施工チームを対象として、重要工程である基礎、躯体の抽出検査を行っています。これらの検査結果も踏まえ、一発良品を作り込む「施工プロセス」と「品質確保」を兼ね備えた施工チームを「優良認定」と位置付け、施工チームの品質向上も図っています。



## 取引先の品質管理

生産技術室では、ヘーベルハウスに供給される部材の品質向上活動を生産メーカーと協働で行っています。年度初めに活動の振り返りと目標・活動計画の立案をします。その後は活動計画に沿って実際に生産現場を確認し、進捗状況の把握や工場監査による確認・指導などを行っています。2020年度は収納部材において製造工程内での品質作りこみの強化に取り組みました。製造工程表や作業標準書をもとに、想定される品質リスクを洗い出し、予防対策を行うことで不具合発生未然防止を図りました。また、海外を含めた外注先に対してもリモートによる品質会議・監査を継続し、コロナ禍にあっても安定供給と品質確保に努めています。



実際の工場内での品質確認の様子(2020年10月)

## 工場における品質管理

旭化成住工は、住宅部材の《総合生産会社》として、お客様に信頼される製品の提供のため、ISO9001品質マネジメントシステムに基づき品質管理を徹底しています。

### ● 日常の品質管理

工場では、まず入荷した鋼材・材料の「受入検査」を行い、その後複数の工程で、溶接内部の欠陥を超音波で確認するUT検査などをはじめとする、加工ごとの「工程内検査」を実施します。いくつもの品質検査にすべて合格し、最後に出荷責任者による「最終出荷検査」で合格判定をされ、製品は完成します。



溶接内部の欠陥を超音波で診るUT検査

### ● 定期的な信頼性試験

日常の品質管理とは別に、定期的な信頼性試験で製品ごとの品質特性を確認します。製品の強度(構造試験)、溶接部の性状および組織検査(マクロ試験)、制震フレーム構造試験(変位振幅増履歴載荷試験)、塗膜性能試験(塩水噴霧試験)等があります。

下の写真は、実際の制震フレーム構造試験中の様子です。(制震デバイス中央にある極低降伏点鋼の変位を診ています。)制震フレームに圧縮と引張の力を交互にかけて、変位の状況が設計条件等で決められた通りか、基本性能が発揮できているかなどを確認しています。



加力前の制震フレームの形状  
(写真は塗装済)



最大変位中の制震デバイス

### 私たちの 想い

私たちは、すべての活動においてコンプライアンスを徹底し、社員一人ひとりが日常から社会規範を守り、企業の責任を全うすることを約束します。また、それをより確実にするために、内部監査の実施や、第三者機関の外部審査を取り入れて、適切かつ健全に業務が遂行されていることを確認し続けていきます。

### 主な 取り組み

- ・ 内部監査（経営ヒアリング、監査役監査、RCヒアリング）の実施
- ・ 建築業法、建築士法への適切な対応
- ・ 全社でのBCPの推進
- ・ 取引先との安全活動の推進と啓発活動の継続
- ・ 社外も含めた内部通報制度の導入

## コンプライアンス



旭化成グループは、旭化成の社長を委員長とする「リスクコンプライアンス委員会」を設置し、グループ全体のコンプライアンスの推進に努めています。旭化成ホームズグループにおいても、その委員会の定める方針に準じ、旭化成ホームズおよび関係会社におけるコンプライアンスの社内浸透やコンプライアンスリスクの把握と管理、教育等の展開を行っています。

### 三現主義と旭化成グループ行動規範

旭化成グループは、「現場」に赴き、自らの目で「現物」を確認し、「現実」を知るという「三現主義」を徹底し、社会から常に信頼される企業を目指すとしています。

#### “三現主義”の実践



また、社員一人ひとりが旭化成グループの一員として正しく判断し、行動するための基準を示した「旭化成グループ行動規範」があります。これは、コンプライアンスを重視し事業を遂行するうえでの行動上の判断基準を具体化したものであり、基本行動の拠り所となるものです。

今後も全社員への定期的な教育をはじめ、実践のための活動を継続して行っていきます。

#### 旭化成グループ行動規範の概要

1. “いのち”と“くらし”に貢献するために安全・環境・高品質を確保する
2. 私たちを取り巻く様々な関係者の皆さまとの“誠実”な関係を維持する
3. 経営資源を適正・有効に活用する

旭化成グループ行動規範（冊子）



### 施工管理部の活動

#### 工事監理業務

旭化成ホームズは「工事監理ガイドライン」に加え、令和元年10月1日に国より発出された「賃貸共同住宅に係る工事監理ガイドライン」および「大手賃貸共同住宅供給事業者において対応が望まれる品質管理の高度化指針」に対応した工事監理者の業務標準を制定し遵守しています。特に「設計図書に照らした共通仕様書等の検討及び報告」の厳格化への対応については、現場と本社とで連携をとりながら万全の管理体制を敷いています。

また各営業本部の工事監理者との定期的な会議では、現場からのさらなる品質向上に向けた提案に対する議論を行うだけでなく、働き方改革や感染症対策など、世の中の変化に対応するために適時意見交換を行い、建築現場の作業環境の改善も推進しています。

#### 建設業法監査

旭化成ホームズは建設業法が守られていることを、定期的な本社業務監査で確認しています。監査では、下請業者との工事における契約書面（発注書や請書）、支払いの状況、現場の監理技術者等の配置状況とその管理状況、工事報告書の確認等を定期的に確認しています。その結果を営業本部と共有し、より確実な法令遵守が効果的にできるよう、本社の主導の改善活動を行っています。また、2020年より開始したリモート監査は、監査の効率化や働き方改革の一助につながる取り組みになっています。

## 監査(RCヒアリング)

旭化成ホームズの品質方針と5つのRCテーマに基づき、全国7営業本部、7関連会社のヒアリングを年に1~2回実施し、全社のRC活動のPDCAを確認することで、リスク低減を図っています。本部や関連会社が作成したRCの年間計画書を基に、昨年度の実績とその評価、およびそれらを踏まえた今年度の活動計画につき質疑を交えながら、課題抽出や情報共有、好事例の水平展開を実施しています。2020年度は新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言により外出・出張の制限があり、オンラインでのリモート監査となりました。そこで、資料の事前送付を徹底するなどして、オンラインでも直接面談と遜色のない監査が実施できるよう工夫し、健全な組織づくりと業務改善を推進しています。

### \* 5つのRCテーマ

- |                |         |
|----------------|---------|
| 1. 労働安全衛生      | 4. 健康   |
| 2. 保安防災        | 5. 品質保証 |
| 3. 環境保全 (地球環境) |         |

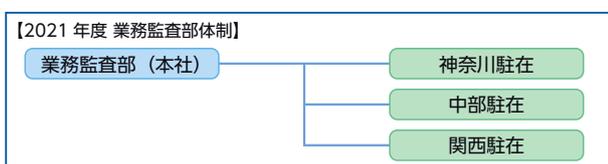
## 業務監査部の活動

内部監査については、監査役・公認会計士・業務監査部が密接に連携し、それぞれの担当領域でモニタリングや往査を行っています。

内部統制については、旭化成ホームズグループ各社の統制に関して、業務フローを整備し、リスクとそのコントロール状況をテストすることで評価し、金融商品取引法および会社法における有効な内部統制制度を構築しています。

今年度はエリアとの連携を強化する体制を敷き、リモートを活用することで監査頻度と質の向上に努め、信頼される企業経営に寄与していきます。

このように、不正を防止することで、企業価値の向上と発展に努めています。



## 啓発活動

旭化成グループでは、RC(レスポンシブル・ケア)に関する啓発活動として「RC大会」を年1回開催しています。2020年度は、11月30日に旭化成本社ビル(日比谷)からのLive配信で開催され、海外を含めた約2,300名が参加しました。当日は、旭化成の小堀社長から旭化成グループ全社員に向けて「従業員が自主・自律的に、組織が一体となってRC活動を再点検することが重要である」との啓発がなされました。さらに、旭化成RC担当役員の高山副社長からは、全社での安全推進活動の基本となる「ライフセービング・アクション(命を守る安全活動)」の開始が宣言され、RC活動への決意を新たにしました。



RC大会の様子(新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底して開催しています)

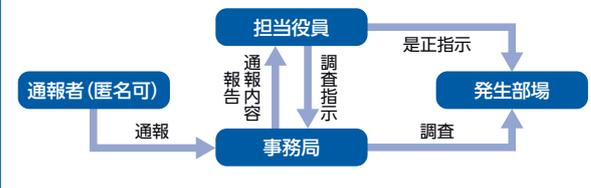
## 内部通報制度

旭化成グループは、コンプライアンス違反に関する情報を速やかに把握し対策を講じることを目的として、内部通報制度をグループ内共通の制度として運用しています。

通報・相談は匿名・実名どちらでも受け付けており、通報・相談先として、外部の弁護士事務所も窓口としているほか、通報の方法もメールや電話、封書など、通報しやすい環境を整えています。また、通報者に対して通報を理由とした不利益な取り扱いが行われないための措置を講じています。この制度は、旭化成グループの社員だけでなく、部材メーカー、物流会社、工事店などのすべてのお取引先の従業員の方も利用ができる仕組みとなっています。

### 内部通報制度の運用例

匿名でイントラネット通報し、通報内容が事実であった場合



## Cs Talk(コンプライアンス意識の向上)

旭化成グループでは、行動規範の周知と理解の促進、コンプライアンス意識の向上、職場内コミュニケーションの向上を目的として、「Cs Talk」(シーズトーク)という活動を、全社員を対象に毎年実施しています。日常業務の中で起こりうる法令関連、人事関連、情報管理などのコンプライアンス問題について独自に作成した事例と解説を使い、部署ごとに読み合わせや意見交換を行うことで、身近にある問題に気づく機会としています。2020年度は、緊急事態宣言下で在宅勤務を余儀なくされる中でも、事例や解説をデジタル化しオンライン開催とすることで、効果的に実施をしました。

### ●事例集と解説(例)

**10 熱心な指導も人間性を否定すると...**

**【事例から学べること】**

- ✓ PPAの社内規定は必ずしも、1. 職務上の責任を伴うものではない。2. 指導が職務上必要な指示・注意、指導であるか否か、業務に阻害する内容がポイントです。
- ✓ 上司による注意・指導が、業務上の正当な目的によるものでなく、部下への威嚇であれば、当然に許されず、その指導も指導として承認されず違法となります。
- ✓ PPAの社内規定は必ずしも、1. 職務上の責任を伴うものではない。2. 指導が職務上必要な指示・注意、指導であるか否か、業務に阻害する内容がポイントです。

### グループ行動規範のおさらい

#### (10) 人権・多様性の尊重

旭化成グループは、個人の基本的人権と多様性を尊重し、誰もがいきいきと活躍できる職場を提供します。

- 1 基本的人権と多様性の尊重**  
私たちは、個人の基本的人権と多様性(ダイバーシティ)を尊重し、あらゆる事業活動において、国籍・出自・人種・民族・宗教・性別・思想・年齢・身体的特徴・性的指向・雇用形態・契約形態その他の理由とする差別を行わず、また容認しません。
- 2 ハラスメントの禁止**  
私たちは、セクシュアル・ハラスメントなど、精神的、肉体的であるかを問わず、相手をおびやかすような言動を行わず、また容認しません。
- 3 非人道的な労働行為の禁止**  
私たちは、基本的人権を尊重する考え立ち、強制労働・児童労働・奴隷行為など非人道的な行為を容認しません。また、調達先がこれらを行っていたりも容認しません。

さらに、関連する最新動向は別資料で紹介

### ■テレワークハラスメント

#### 「プライベートへの介入」

- \* 互いが自宅にすることで、プライベートと仕事の垣根が崩れやすいリスクも。
- \* パソコンの向こうに私生活が見えたり新鮮さを感じる一方、オンラインでは相手の表情が伝わりにくく、また周囲の目というものもない。それだけに、普段対面では出ない言動も出やすい。

#### 「行き過ぎた過度な監視」

- \* 部下の勤務状況を把握するため、上司がビデオ会議を常時稼働させるよう指示
- \* 過度な頻度で報告を求められ、部下が全く信頼されていないと感じる状況に

オンラインマネジメントの「3密」?!

- ・上司が仕事について密に説明を求める「密説」
- ・上司がリモート上でも密に監視する「密視」
- ・上司が密にテレビ会議集まる「密会」

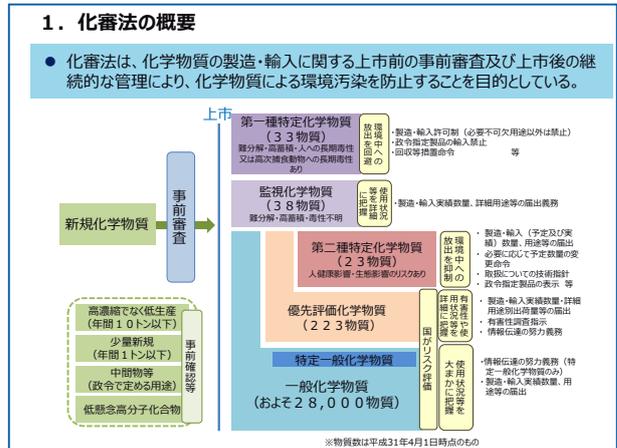
## 化審法・安衛法・毒劇法の基本教育

旭化成グループでは、化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律(化審法)、労働安全衛生法(安衛法-新規化学物質の有害性調査)、毒物及び劇物取締法(毒劇法)などの化学分野に関する専門的法規について、その理解を深めることとコンプライアンスの徹底を目的とし、2020年11月26日、旭化成グループ全社に対して、旭化成(株)の品質保証部を講師役として基本教育(勉強会)を実施しました。

旭化成ホームズグループからもRC管理部および工場、研究所の代表者がこの勉強会に参加し、その後、その代表者が自らの部署の社内講師となって、部内の化学品を取り扱う社員に対し実務に則った教育を改めて展開し、迅速かつ適正に遵法対応できるように取り組んでいます。

### ●化審法・安衛法・毒劇法の比較

	化審法	安衛法	毒劇法
所管省庁	厚生労働省、経済産業省、環境省	厚生労働省	厚生労働省 (各都道府県の保健所)
制定	S48/10/16公布 (S49/4/16施行)	S47/6/8公布 (S47/10/1施行)	S25/12/28公布 (同日施行)
目的	化学物質による環境汚染を防止	職場における労働者の安全と健康を確保	毒物、劇物の保健衛生上の見地での取締
規制化学物質	第一種特定化学物質、 第二種特定化学物質、 監視化学物質、 優先評価化学物質	製造禁止/許可化学物質、 表示/通知対象物質、 強い変異原性化学物質、 特定化学物質等	毒物、劇物、特定毒物
主な制度	新規化学物質 事前審査 製造・輸入数量報告 有害性情報報告 輸入通関報告	新規化学物質有害性調査 SDS、表示 健康障害防止指針	営業登録 取扱、製造、貯蔵、設備、 譲渡等の基準 SDS、表示



経産省資料(2019年4月発行)「改正化審法の施行状況について」より  
[https://www.meti.go.jp/policy/chemical\\_management/kasinhou/files/todoke/19info/20180412\\_kaisei\\_sekou.pdf](https://www.meti.go.jp/policy/chemical_management/kasinhou/files/todoke/19info/20180412_kaisei_sekou.pdf)

## 品質月間(第61回品質月間)

「品質月間」とは、1960年(昭和35年)から続く品質向上に関する活動で、毎年11月に行われており、2020年で61回目を迎えます。(主催団体:一般財団法人日本科学技術連盟・一般財団法人日本規格協会・日本商工会議所)

この活動に旭化成グループも参加しています。



### 【品質月間の主な目的】

- ・全社員の品質意識の高揚
- ・顧客満足、従業員満足の徹底
- ・品質保証体制の確認
- ・製品、サービスの質向上
- ・ISO9000 認証取得後の品質レベル向上
- ・協力企業の体質強化
- ・経営方針の展開と成果の確認



<品質月間委員会作成>

第61回品質月間にあたり、旭化成 小堀社長からは、全社員に対し「ぜひこの期間に、自分たちの組織は、確信のもてる品質をつくり込んでいるかを考えてほしい。(中略)全員が日々、誇りをもってグループ行動規範に準じた誠実な仕事を行い、事業特性に応じ充実した「確信の品質」の製品・サービスを創り上げ、世界の人びとの“いのち”と“くらし”に確信をもって貢献し続けましょう。」というメッセージが発信され、全社をあげて品質月間の推進に取り組みました。

その中で旭化成ホームズは「私たちがお客様にお届けする“品質”とは、“建物の出来栄え”だけではなく、お客様への接客マナーや約束の確実な履行、コンプライアンス、ご要望を叶える設計内容、安全で確実な施工、万全のアフターサービスなど、“お客様に満足していただくためのすべて”を指す。」という旭化成

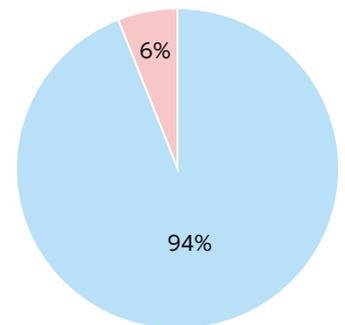
ホームズ 川畑社長のメッセージの発信とともに、2020年度は以下の2つの活動を実施し、品質月間の推進に取り組みました。

### 【旭化成ホームズの取り組み】

#### 1) 品質に関する教育(全社員のeラーニング受講)

旭化成グループでは2020年11月の第61回品質月間の開催に伴い、グループの全社員が利用できるオンライン教育「eラーニング」の中に、品質に関する講座を開設しました。旭化成ホームズグループではこの講座を、品質月間の目的のひとつである「全社員の品質意識の高揚」を達成するための必須教育として位置づけ、全社員へ受講を促し、基礎教育の徹底を図り、品質向上に努めてまいりました。その結果、8,000名超の社員(病気・産育休などの休暇取得中社員を除く)が11月中に受講を終えました。

### 旭化成ホームズグループ 品質Eラーニング受講者



■ 受講者 ■ 未受講者

未受講者は病気・産育休などの休暇取得中社員

#### 2) 旭化成ホームズの品質目標設定

前述の川畑社長のメッセージにある「私たちがお客様にお届けする“品質”とは、“お客様に満足していただくためのすべて”を指す。」という言葉の通り、営業部門、設計部門、工事部門のそれぞれの活動がすべて品質向上につながっています。そこで2020年度は、受注・設計・施工の3部門の品質に対し、それぞれ重点的に取り組む主要な3つの品質目標を掲げ、全社で品質向上に取り組んできました。

営業品質	打ち合わせ品質の向上
	顧客満足向上のためのルール順守
	契約品質の向上
設計品質	引継ぎ後変更なし率向上
	プランFIX後の申請・一次引継ぎ承認厳格化
	入居一年時CS向上
施行品質	工程管理と完成検査の充実
	基礎、躯体監査による品質確認と現場指導 全員でのKY(危険予知)活動の実施

これらの品質目標については、2021年度以降も継続して取り組んでいきます。

## リスクマネジメント



旭化成グループでは、化学業界で一般的な「Responsible Care (レスポンシブル・ケア:通称RC)」というリスクマネジメントを用いています。旭化成ホームズグループにおいても、そのRC方針に従い活動を行っています。また、大地震や大型台風等の自然災害や、新型コロナウイルス感染症の拡散の危機の中にあっても、影響を最小限に抑えて事業を継続できるように、BCPも推進しています。

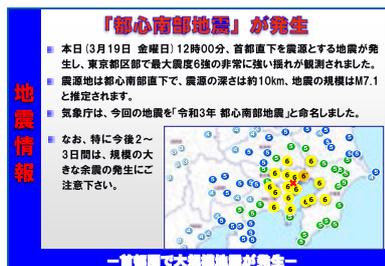
### 迅速な災害時対応に向けて

「住まい」にかかわる事業を展開する旭化成ホームズグループでは、自然災害の発生時には、お客様の生活の復旧・復興に貢献することが大きな社会的使命であり、被災したお客様に「1日でも早く快適な生活をお届けする」ことが、グループの重要な責務であると考えています。

そのためには、まず私たちが災害時に、可能な限り速やかに事業を再開する必要があります。旭化成ホームズグループでは、大規模災害を想定したグループ全体の災害対応マニュアルを整備し、そのマニュアルに沿った災害模擬訓練を定期的実施しています。

#### ●災害模擬訓練

2021年3月19日に実施した災害模擬訓練では、本社の対策本部に埼玉・北関東営業本部を現地対策本部として加え、コロ



ニュース映像に見立て、災害情報を共有

ナ禍において震度6強の首都直下地震が発生した想定で、発生当日～2日目の初動対応の確認・整備強化を行いました。

当日はWithコロナを意識し、在宅勤務者を含めたオンラインでの対策会議や情報共有を行うなど、リモートでの災害対応を試みるとともに、実際の災害時に想定される、大小さまざまなアクシデント情報を訓練中に随時追加し、それぞれの関係者が対応を検討する場面をつくることによって、臨場感のある訓練となりました。一定の手応えとともに、今後に向けた新たな課題も浮き彫りとなり、あらためて訓練をはじめとした「自然災害への備え」の重要性を認識する機会となりました。

今後も旭化成ホームズグループでは、継続的に災害模擬訓練を実施し、グループ全体の災害対応力の向上および、事業継続性の強化を図り、旭化成グループの理念でもある、“いのち”と“くらし”への貢献を続けていきます。



リモートでの対策会議の様子(2021年3月19日)

### 防災備蓄

昨今多発している災害に備えて、災害備蓄品を準備しています。災害備蓄品には、復旧作業用のスコップ・はしごなどの工具やブルーシートなどの資材を用意しているほか、被災された方へのお見舞い用ミネラルウォーターやサララップも確保して、エリアからの要望に応じて出荷します。また、



配送拠点で管理している緊急備蓄品

定期的に災害備蓄品の棚卸・点検を実施し、必要な交換・補充を実施して提供する災害備蓄品の品質を維持しています。

災害備蓄品は、ヘーベルハウスの物流拠点倉庫の内の4カ所に保管して、ヘーベルハウス販売エリアすべてにおいてすみやかに対応できるようにしています。また分散することにより被災リスクを低減しつつ、被災地外の倉庫からも出荷できるよう、確実な供給体制を確保しています。

## 取引先とのパートナーシップ



私たちが行うさまざまな事業活動は、自社の社員だけでなく、部材を提供するメーカーや流通を支える物流会社、建築現場を請け負う工事店など、多くの取引先の支援によって成り立っています。そのような取引先の皆様とのつながりを大事にし、ネットワークやコミュニケーション活動を充実させることにより、信頼できる品質と商品をエンドユーザーの皆様へお届けできています。

### 「緑の会」連合会

旭化成ホームズ「緑の会」連合会は、良質な建物を、長期的かつ安定的に供給するという方針のもと、「会員相互の親睦」「建築意欲の高まる環境づくり」「自然災害発生時の応援体制構築」を目的として、旭化成ホームズの全国8営業本部の技術部長と地区の工事店代表者を中心に活動しています。2020年度の「緑の会」連合会総会(2021年1月26日)は、感染防止対策のため、初のリモート方式で開催しました。各地区と本社会議室をつなぎ、次の2テーマを中心に関連な意見交換が行われました。

#### ●テーマ1:「今後の施工人材の育成について」

2021年3月に開設された、旭化成ホームズ建築技術教育センターを活用し、旭化成ホームズが主体となって、工事店責任者や主要職方の教育を実施する研修(P-TECs: プロセス技能研修)の提案を行い、各地区よりご賛同をいただきました。



旭化成ホームズ建設技術教育センターの研修スペース

#### ●テーマ2:「Smart Buildの推進」

Smart Build「へーベルハウスの現場が、快適に自ら率先して建築できる」を目標としたDX(デジタルトランスフォーメーション)技術の導入について提案を行いました。当日にはA-SMIL(動画教育システム)や、A-Smart(現場入退場管理システム)などのDXを取り入れたシステムが紹介され、今後の活用について議論が交わされました。



(A-Smartイメージ図)

### パートナー会社との協力による品質向上

旭化成ホームズの購買・生産技術部では、2020年度のコロナ渦においても製造委託先の工場に対して、(感染防止対策を徹底したうえで)定期的に訪問もしくはWeb会議を開き、材料・生産・品質の管理や法令遵守の状況などを確認するとともに、パートナー会社との信頼関係構築を通じて品質と安定供給の確保に努めてきました。特に重要な部材については、原材料の調達から当社で取引先を指定し、その品質を確認することで品質レベルの維持・向上を果たしています。

また、毎年実施している購買先調査の中で、経営・品質だけでなく、BCP(事業継続計画)についても評価しています。水害や感染症といった新たな災厄に対する対応力の強化に取り組み、住宅を購入いただいたお客様に対して、良いものを確実に供給するための体制を整備しています。

### 物流労働環境の改善

旭化成ホームズでは、安全・品質・信頼の維持のためには、快適な労働環境の確保が重要と考え、ライフセービング・アクションの指標に則り、安全かつ高品質な作業を行えるドライバーを「優良ドライバー認定者」として認定し、継続して働いてもらうための職場環境の整備に取り組んでいます。また、委託する物流会社とともに熱中症予防活動を行うなど、労働環境の改善にも取り組んでいます。これからも、ドライバーの皆さんに働き続けたいと思ってもらえる「安全・健康」で「魅力ある」職場と制度づくりに取り組んでいきます。



「優良ドライバー認定シール」

### 私たちの 想い

私たちは、さまざまな事業活動を繰り広げる過程で、バリューチェーン全体において世界中の多くの人びとと協働しています。事業活動にあたって関連する、多様な場で働くすべての人びとの人権を尊重することを基本として、国際的に認識されているガイドライン等に基づき、その責任を果たすことを目指します。

### 主な 取り組み

- ・ダイバーシティ(女性管理職への積極的採用、男性社員の育児休暇支援)の推進
- ・海外自社工場(ベトナム)での現地採用
- ・キャリアチャレンジ(公募人事)制度導入
- ・生涯学習(自己研鑽支援制度、公募留学制度、海外トレーニング制度)の支援
- ・さまざまな働き方改革の推進

## ダイバーシティの取り組み



旭化成グループでは、個人の基本的な人権と多様性を尊重し、あらゆる事業活動において国籍・人種・出自・人権・民族・宗教・性別・思想・年齢・身体的特徴・性的指向・雇用形態・契約形態その他を理由とする差別を行わず、また容認しないという会社方針を旭化成グループ行動規範に明記しています。旭化成ホームズグループもこの方針に則り、事業活動を推進しています。

### 女性社員の活躍の推進

女性活躍推進法に基づき、女性の管理職数を2021年3月末時点で2015年3月末時点の2倍にするという目標を定め、管理職数については2018年度に目標を達成しました。今後は2026年3月末時点で、2021年3月末時点と比較して女性の管理職数を40%増加するという新たな目標を掲げ取り組んでいきます。

女性が活躍するための支援策として、育児・介護の両立支援制度の充実のほか、コース転換(総合職転換)制度の活性化や女性総合職(1年目～5年目)を対象とした職種別(営業・設計・工事)のエリアミーティングの開催などの取り組みを行っています。

2020年度のエリアミーティングはオンラインで開催され、2020年12月8日(工事担当)、2021年1月15日(営業担当)、2021年1月15日(設計担当)の3回で総勢146名が参加しました。先輩社員の事例紹介やエリアの垣根を越えて同じ職種の社員同士の情報交換が行われ、参加者には大変好評でした。エリアミーティングは今後も継続して開催し、ゆるやかな女性社員同士の関係をつくっていくことで、若手の定着、活性化につなげたいと考えています。



オンラインでのエリアミーティングの様子

#### 【参加者の声】

- ・支店を超えた縦・横のつながりができるのでこういう機会はとてもありがたいです。
- ・同じエリアで活躍している女性営業が多いことが分かり、いざというとき相談に乗っていただける方が多そうだと安心しました。
- ・先輩社員の話を聞いて、日々の業務における工夫やモチベーションUPの方法などを活かせそうだと思います。

## キャリアチャレンジ制度

旭化成ホームズでは、人生100年時代の到来や、世界的なカーボンニュートラルの推進など、近年急加速する時代の変化に対応するための事業の多角化や、それに伴うグループの人財基盤強化を推進しています。

より主体的・意欲的に業務に取り組める人財を登用することを目的として2020年度より、「キャリアチャレンジ制度(公募人事制度)」を開始しました。

この制度は、半期に一度、社内の各部署が公募を行い、社員が自ら手を挙げる制度です。応募の際には、制度の趣旨に鑑みて、上司承認を必要としない仕組みになっています。

例えば、本社部門の商品の企画や、新規事業、海外事業部門の公募がある場合、募集資格を満たせば、現在の所属や業務に関係なく自由に別の業務にチャレンジし、新たなキャリアを自ら形成することができます。

また、この制度はグループ全体に適用しており、旭化成ホームズの社員だけでなく、旭化成不動産レジデンスや旭化成リフォーム等のグループ会社も含めて横断的な人財登用を可能にしています。

過去3期の公募求人数は以下の通りであり、制度開始以降順調に推移しています。

**2020年度 上期:13件 / 下期:15件**

**2021年度 上期:12件(2021年5月現在の情報)**

本制度利用者からは「自分のやりたいことを見直すきっかけになり、仕事のモチベーションが上がるのでとても良い制度だと思う。」「自分の意志で、希望の部署に行くことで非常に高いモチベーションで業務に臨んでいる。」といった意見がよせられています。

今後もキャリアの複線化を示すことで、より一層、現業務における社員の成長を促すとともに、将来に向けた自己研鑽に対するモチベーションの向上につなげ、「主体的・意欲的に業務に取り組める人財」をさらに増やしていきたいと考えています。

## シニア社員の活性化

2020年度は旭化成ホームズで106名の社員が60歳定年を迎え、うち約8割が再雇用制度を利用し継続して活躍しています。2021年4月1日時点で再雇用の社員は280人である一方、2021年度中には119人が定年退職となる予定で、再雇用数は今年度中に320人を超える見込みです。人事部制度企画グループでは再雇用者をはじめシニア社員にいきいきと働いてもらうため、活躍の場を広げていくための支援、制度の運用、キャリア研修などを実施しています。そのひとつが「50歳キャリア研修」です。

「50歳キャリア研修」とは、50歳を迎えた社員を対象に、これまでのキャリアを振り返り、今後のイメージを持てるようにするために行う研修です。2020年度は127名が受講し、2014年度にこの「50歳キャリア研修」が開始されて以来、受講者は累計で1,100名を突破しました。

受講者からは、仕事重視の人生の見直しやさらに仕事に向かおうと思う気持ちを強く持てる時間が取れたという声が聞かれました。

### 【50歳キャリア研修の狙い】

- (1) 50歳以降の目標を設定し、今後のありたい姿を考え描いて、その達成に向けての心構えを持ってもらう。
- (2) 自分のキャリアの特性や価値観を考え、自身の働き方を展望し、その実現に向けてのシナリオを描いてもらう。

### ＜研修で伝えたいこと＞

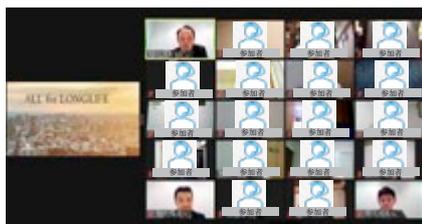
1. 今の仕事、役割をとことんやって、その分野での専門能力や担当力を強化すること。
2. 状況に応じて、新たな分野にチャレンジし、学び、能力をつけること。
3. 転機は必ずやってくる。転機を学びの場として自己成長につなげる(転機⇒異動・出向・昇進・ポストオフなど)。

### ● 2020年度50歳キャリア研修 参加者アンケート結果(5点満点)

設問内容	第一回	第二回	第三回	第四回	第五回	平均
①「自己紹介」「自己認知(ジョハリの窓)」は、いかがでしたでしょうか。	4.10	4.41	3.93	4.00	4.32	4.15
②「自己理解(価値観)」は、いかがでしたでしょうか。(充実曲線など)	4.70	4.53	4.11	4.24	4.35	4.39
③「自己実現と組織貢献(50代らしい働き方)」は、いかがでしたでしょうか。	4.20	4.35	4.11	4.28	4.19	4.23
④「ライフキャリア(8つの役割、ライフキャリアシミュレーション)」は、いかがでしたでしょうか。	4.50	4.76	4.04	4.66	4.35	4.46
⑤「キャリアプラン(自己実現に向かって)」は、いかがでしたでしょうか。	4.40	4.71	4.14	4.38	4.16	4.36
⑥オンラインZoomでの研修は、いかがでしたでしょうか?	3.95	4.53	4.04	4.17	4.16	4.17
平均	4.31	4.55	4.06	4.29	4.26	4.29

### キャリア採用の取り組み

旭化成ホームズのキャリア採用では、建築以外の専門性を持った多様な人財の採用に力を入れています。2020年度は応募者の新型コロナウイルス感染防止も考慮し、オンライン転職セミナー（毎月2回開催）を開催し、キャリア採用制度の周知と会社・事業の紹介を行い、他業界の方にも住宅の仕事の魅力をお伝えしています。今後は、IT分野のプロジェクトマネージャーや、海外事業の業務監査の経験者など、これからの旭化成ホームズの発展に必要な、さまざまな知見と経験を持った人財の採用も増やしていく予定です。キャリア人財と現社員とのシナジー効果が生まれ、相互のさらなる成長につながることを期待しています。



※個人情報保護のため、参加者の画像はアイコンにさせていただきます

### インターンシップの受け入れ

旭化成ホームズでは毎年、全国の大学生、大学院生を対象にインターンシップを開催しています。2020年度は感染拡大防止に配慮し、「1day仕事体験イベント」をオンライン形式で実施（2020年9月～2021年2月の期間に、営業系29回、技術系13回開催）し、全国から1,437名が参加しました。

「接客ロールプレイング」「住まいの提案を考えるグループワーク」等、実際の仕事を再現した体験型コンテンツを準備し、「LONGLIFE」の思想のもと、お客様に価値をご提供するやりがいやおもしろさを体感いただけるようプログラムを工夫しました。このインターンシップの経験を通して、旭化成ホームズの仕事の魅力や社会人としての働くことの意義を感じ取っていただくことを期待しています。



オンラインでの1day仕事体験イベント

### 旭化成住工ベトナム

旭化成住工ベトナム（ベトナム国ドンナイ省）は、ヘーベルハウス・ヘーベルメゾンの各種鉄骨部材の海外生産拠点として2015年に設立されました。ベトナム人約90名と日本人3名の社員構成です。ベトナム人社員は皆、日本の「品質管理」に高い関心を持っており、勉強熱心です。日本語を習得したベトナム人社員を通じ、旭化成ホームズ社員などの日本人スタッフとも言葉の障壁のないコミュニケーションを行っており、日本の旭化成住工の技術基準や安全基準を手本として技術力向上に励んだ結果、いまでは日本製の部材と同じ品質レベルに達しています。将来は日本のレベルを超えることを目標にベトナムでの技術伝承を行い、ヘーベルハウス・ヘーベルメゾンのさらなる品質向上に貢献していきます。



品質管理の社内勉強会



鉄骨部材加工ライン（ベンダーマシン）

### ベトナム人技能実習生の受け入れ

旭化成住工では、2016年からベトナム人実習生を受け入れ、2021年6月現在3期生4名、4期生3名、5期生3名の計10名が日本で働いています。受け入れ人数は延べ18名になり、2021年10月には6期生の受け入れを計画しています。卒業生はそれぞれが夢に向かって母国で活躍しています。そのうちの数名は旭化成ベトナムで現在も活躍しています。

これからも旭化成住工の技術やモノづくりの考え方を実習生に伝承し、日本とベトナムのさらなる成長と技術の発展に貢献していきます。



## 社員の成長



企業には「健全で、成長し続ける会社風土を構築すること」が必要です。そのためにも、人材育成は重要な課題です。すべての社員が、いきいきと働き、個人の持つ才能や能力を十分に発揮できるように、一級建築士や宅地建物取引士、インテリアコーディネーターなどのさまざまな資格取得の支援制度を整備するとともに、能力開発に向けた社員研修などを積極的に行っています。

### 旭化成ホームズの人財活性

旭化成ホームズが求める人材像は「目標を達成するために、ひたむきに努力し、自らの人間力を磨き続けられる人」です。住宅という人生最大の買い物安心して任せてもらうために最も重要なことは、住まいづくりに携わる者が、お客様にとって信頼できる存在であるということです。当社への信頼感とは、社員である担当者の信頼の積み重ねの上に成り立っています。人格や魅力、人間力といった、人としての力がとても大切であると考えます。人事部のミッションはこのような人材が育つ風土を構築することです。社会、環境の大きな変化、価値観の多様化、それに伴う人生のステージや生活スタイルの変化等、さまざまな変化をお客様に最適な提案に結び付け、新しい価値を提供できる人材の育成のために、一人ひとりが尊重され、いきいきとした、働きやすい環境をつくり、成長を手助けすることによって、求める人材の育つ風土の実現を目指しています。

#### ●振り返りと上司との対話

経営管理職・総合職にはWHAT制度、実務職（一般職）にはSTEP制度と称して、年に1度の査定評価面談と半期の中間評価面談を実施し、自己の業務の振り返りと上司との対話を実施しています。期初には上司との対話の中で、価値観や考え方をすりあわせ、中長期目標と短期目標の設定、および目標達成のために努力する項目を設定します。期中には目標への進捗状況をお互いに確認し、期末には立てた目標の達成度や次年度への課題を共有します。これらをもとにOJT（On the Job Training）を行い、今の課題克服のための方針を掲げ、努力を続けることで、一人ひとりの活性化を図っています。

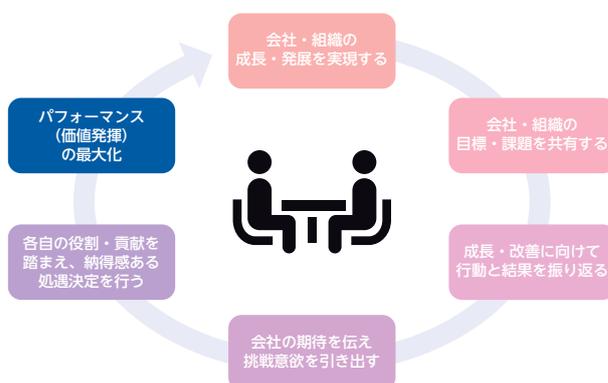
#### ●活力と成長アセスメント(KSA)の導入

一人ひとりの活性化は組織内の関係性も重要です。そのため組織の中で人の活性化をもたらすための指標を設け、組織診断する「活力と成長アセスメント(KSA)」を導入しました。このアセスメントの結果を組織で振り返り、対話を重ねることで、より一人ひとりが活性化する組織の構築を目指しています。

#### ●中堅営業インストラクター研修の導入

2020年度より新たに中堅営業インストラクター研修をスタートしました。これは、営業の若年社員を指導する中堅社員のインストラクターを対象として、次期課長を目指すための学習を提供する研修です。複数の中堅社員が実際の後輩との関わりの事例を持ち寄って考えていくことによってより効果的な関わり方を学んでいきます。指導を受ける後輩社員に変化が見られたことに加え、インストラクター自身にとっても今後の在りたい姿の形成の機会となりました。2021年度も対象者を変えて継続実施していきます。

#### <上司との対話の概念図>



## 旭化成ホームズ建設技術教育センター開所

旭化成ホームズは、建設技能者の継続的な確保と育成を目的とした研修施設として、「旭化成ホームズ建設技術教育センター」を茨城県つくば市に開設しました。

(開所式:2021年3月23日、運用開始:2021年4月より)



旭化成ホームズ建設技術教育センター 外観

### ■施設概要

名称	:旭化成ホームズ建設技術教育センター
所在	:茨城県つくば市片田491-1
敷地面積	:6,120.80㎡
延べ床面積	:2,462.25㎡
構造・規模	:鉄骨造2階建て

旭化成ホームズ建設技術教育センターは、近年減少傾向が続いている建設技能者の継続的な確保・育成を目的として、独自の教育プログラムを行う研修施設です。延床およそ2,500平米の研修施設には、木工事や設備工事の施工研修、施工品質検査などの訓練ができる6棟のヘーベルハウス、基礎配筋や鉄骨建方などの実技研修ができる4棟分のスペースを配置した



6棟のヘーベルハウスが並ぶ、屋内研修スペース

実習ゾーンを設置しています。さらに1階部分に事務所や会議室、サンタリー、2階に約100名が座学で学ぶことができる研修室(60名用/40名用)を配置した研修棟を併設しています。

基礎・躯体・木工や配管、そして施工管理まで、さまざまな工程・職種の技能訓練に対応するほか、当社を含め関連会社、協力工事店など、ヘーベルハウス・ヘーベルメゾンに関わる幅広い人材をカバーする研修施設であることも大きな特長です。



60名収容の研修用ホール(上)



リモート会議対応の会議室(左)

日本の建設就業者数は、1997年をピークに減少に転じ、建設投資が回復傾向となった2014年以降も状況は変わっていません。また、建設業就業者の高齢化が進む一方で、29歳以下の若年層の入職が少なく、建設業の若年者の入職促進・定着も大きな社会課題となっています。

こうした背景を受け旭化成ホームズグループは、2015年に木工技能工の早期育成と定着を主な目的とした技能研修所を川崎市に設立しました。今回開設した旭化成ホームズ建設技術教育センターは、そこで蓄積したノウハウをもとにして、木工事にとどまらず、多岐にわたる建設技能者に対応できる施設へと進化しています。

技能習得だけでなく、コンプライアンスやCSなどを含む社会人としての総合的な基礎スキルを学べる充実した教育プログラムを用意することで、新卒者が安心して建設業へ入職できる体制を整えました。

確かな教育プログラムと豊富な実技研修によって、質の高い技量を持つ建設技能者を育成し続けることで、今後も高品質な住まいを提供するだけでなく、建設技能者が長く働き続けられる環境づくりに努めます。

## 職種別年次研修

旭化成ホームズの社員は、専門知識を有した各人がお客様の担当として、住宅建築にかかわります。その成長の道標として、担当する職種、年次ごとに求められる専門知識・スキルなどの細目とレベルを一覧表にしたスキルナビゲーションを使用しています。各人がスキルナビゲーションで表されている成長の全体像を俯瞰しながら、該当年次に求められているレベルに達していない専門知識・スキルなどの課題を常に把握することができます。年次研修では、自らの成長を客観的に振り返り、同期とのディスカッションを行うことで、成長のための課題を再認識します。年次研修終了後は、その結果に基づき上司との面談を行い、成長目標を設定します。

時代の変化とともに求められる知識・スキルも変化しているため、それに合わせてスキルナビゲーションの見直しを行っており、研修の実施方法も刷新しています。2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、年次研修はほぼすべてオンラインで実施しました。そういった変化にも迅速に対応し、最大限の研修効果を得ることのできる研修をつくり続けることで、社員の成長を支援していきます。

### 職種別年次研修(概要)

職種	年次	概要
営業	3年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>1・2年次の内容がより短時間でできる。</li> <li>営業活動が自分一人の判断で推進できる。……</li> </ul>
	2年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>スケジュール管理ができるようになる。</li> <li>一人でも折衝・引継ができるようになる。</li> <li>引渡を経験し、仕事の流れを掴んでいる。……</li> </ul>
	1年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>商品を好きになり、接客で商品の良さを伝えサービスができる。……</li> </ul>
工事	ステップ5	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事課員、工事店の育成ができる。</li> <li>工事担当業務の課題を指導、解決できる。……</li> </ul>
	ステップ4	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事課の柱となり物件管理が効率よくできる。</li> <li>工事店をメインで担当し、問題解決ができる。……</li> </ul>
	ステップ3 (3年次)	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事担当が必要な知識が確実に理解できる。……</li> </ul>
	ステップ2 (2年次)	<ul style="list-style-type: none"> <li>物件管理が一人ができる。</li> <li>検査等決められた行動をやりきる習慣が持てる。……</li> </ul>
	ステップ1 (1年次)	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事担当業務全般の正しい流れが一通り理解できる。</li> </ul>
設計	3年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>旭化成ホームズの設計者として、基本的には単独でお客様に接し、業務を遂行することができる。</li> <li>営業チームを一人で担当できる。</li> </ul>
	2年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>設計業務全般を理解し、自ら業務を遂行できる。</li> <li>事実を正確に把握し、報告、連絡、相談ができる。</li> </ul>
	1年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>設計担当業務全般の正しい流れが一通り理解できる。</li> </ul>

## キャリア研修の展開

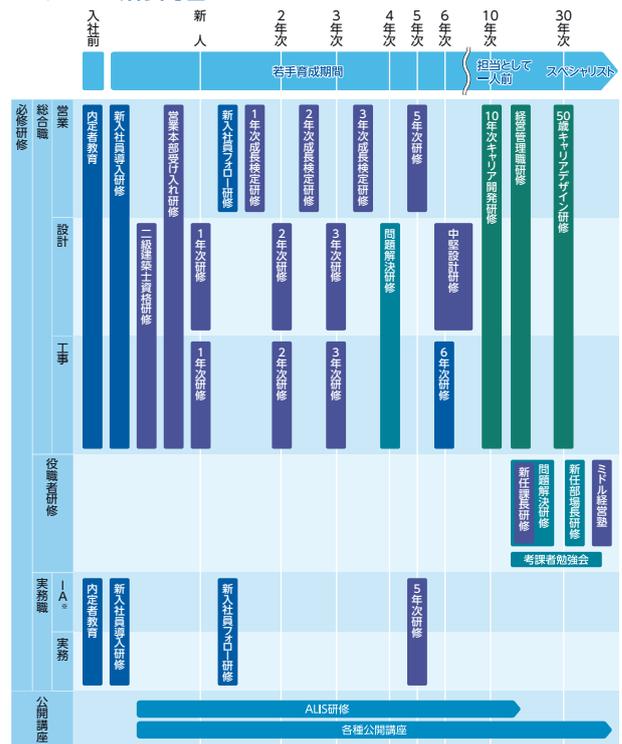
社員自身がキャリアを中長期的な視点で考え、計画を立て、さらなる成長のためのモチベーションを創出するためのキャリア研修を階層別実施しています。研修では個人の成長と組織の成長をマッチングし目標設定を行います。自身の成長について中長期目標とその実現に向けた短期目標を設定し、それらに向かって一歩踏み出すことによって成長を促します。

2013年度に開始した50歳キャリア研修に始まり、女性総合職4年次、実務職5年次と対象者を拡げ、2017年度には総合職10年次のキャリア研修をスタートさせました。

これらの研修参加者は、2020年度時点で延べ1,600名に達し、社員の成長に寄与しています。

今後は、「人生100年時代を見据えた働き方」をテーマに加え、より長いスパンで働くことを考える場としたいと考えています。現在キャリア研修の対象となっていない40歳代も対象としてキャリア研修のラインナップを整え、節目を迎える社員それぞれが、さらに魅力ある目標形成とその実現に向けて研鑽努力を重ねていけるよう、支援を継続していきます。

### キャリア研修内容



※IA:インテリアアドバイザー

事業を通じた社会への貢献

人権の尊重

環境への配慮

労働慣行および労働安全

社会とのコミュニケーション

## 有功賞制度

有功賞は、「①業務上有益な発明・発見、特に特許・実用新案・意匠の発明、考案」「②品質・生産性向上への多大なる功績」「③新しいビジネスモデルの創出」の各分野において多大な貢献をした社員・グループを表彰する制度です。申請級は特級、1級、2級、3級と4段階に分かれており、旭化成ホームズ経営会議にて審査されます。

2020年度は、旭化成ホームズの技術・商品企画・購買生産部門および旭化成住工の製造部門が協働した「高断熱サッシ開発ワーキンググループ」が特級を受賞しました。受賞のポイントは、これまで以上の高断熱性能を持ったアルミ樹脂複合サッシ(特許登録済)の開発です。

旭化成ホームズではヘーベルハウスの性能を高めるために部材の機能の向上に取り組み、お客様に快適な「暮らし」を提供するため、日々の研鑽と研究を続けています。



写真中央が受賞者代表の山田さん

## 自己研鑽支援制度・ ホームズ国家公的資格取得支援制度

旭化成グループでは、社員のスキルアップを目指し、業務に貢献するテーマの資格取得や外国語習得のための学習について、外部教育機関の受講料・資格試験受験料・資格登録料などを補助する支援制度として「自己研鑽支援制度」を導入しています。また、旭化成ホームズ独自の支援制度として「国家公的資格取得支援制度」があります。本制度は、住宅事業に特に関連の深い一級建築士や宅地建物取引士等の資格に合格した際に、祝金を支給する制度です。2020年度は両制度で延べ351名の社員が利用しました。社員一人ひとりが自らを磨き「住宅のプロ」として成長し、組

織全体がより一層高いレベルに成長することを支援しています。



## 資格取得支援

お客様からの高い満足や社会からの高い評価を得て事業を発展させていくためには、より高い住宅のプロであるレベルの社員・組織を目指すことが必要です。その推進のために旭化成ホームズでは、住宅事業において有益な国家・公的資格を、社員全員が早期に取得できるよう支援しています。

事務系社員は宅地建物取引士、技術系社員は一級および二級建築士について、資格学校と連携し、自社開催で特別講座や特別模試を実施することで、資格取得を促進しています。

2021年度新たに設けた特別宅建講座では、300名を超える応募があり、社員自身も積極的に制度に参加しています。

加えて、ファイナンシャルプランナー、一級および二級建築施工管理技士、インテリアアドバイザー等、各種資格取得に際しては、自己研鑽支援制度や国家公的資格取得支援制度も併用することができます。これらの制度によって通学費・通信学習費、受験・登録料の一部を会社負担とすることに加え、合格祝い金の贈呈などを行い、社員(特に若手)の金銭的負担軽減を図りながら、プロフェッショナルとしてのスキルアップに積極的に取り組んでいます。

## その他の制度について

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で残念ながら以下の制度を中断しました。2021年度以降、世界情勢に鑑みながら、再開を目指します。

### ●海外トレーニー制度

将来の海外事業を担う人財の育成を目的に、2019年度から新たに導入した制度です。海外事業に意欲のある社員を語学学校へ通学後、M & A 提携先等の海外現地法人に派遣し、海外でのOJT体験を通し、語学力向上と海外の環境に順応した社員の育成を目的としています。

### ●公募留学制度

「主体性とチャレンジ精神」を持つ人財の育成と支援策として、「公募」による留学制度を導入しています。国内・海外を問わず、学部や分野も応募する本人の意思を尊重し、学びたいと思う留学先を自由に本人が選択できる制度です。

## 働き方改革



長時間労働削減に向けた社会的要請に応えるべく、旭化成ホームズグループは、3つの指針【①正々堂々と生産性で競い合う。②チーム一丸となって「改革」に取り組む。③「36協定」は絶対を守る、守らせる。】を掲げ、企業風土の改善に努めています。また、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言を受け、多くの事業活動に制限が課せられる中でも、さまざまな新しい働き方に挑戦しています。

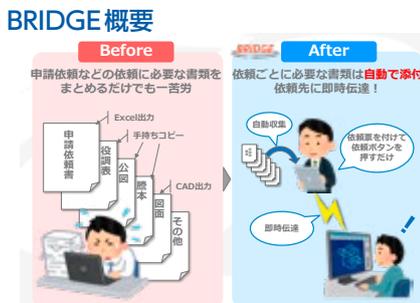
### 働き方改革

旭化成ホームズでは2015年11月に「働き方」に関する方針を掲げ、効率的に時間を使う意識・風土醸成と生産性向上に向けた改革に取り組んでいます。

#### 文書管理の電子化など(BRIDGE等の導入)

2019年度の邸別の図面・文書類を電子化して一元管理を行う「BRIDGE(ブリッジ)」の導入に続いて、2020年度には、全社的なリモート会議システムの整備や、モバイルタイプの

シンククライアントPCを全支店社員が標準装備することで、さらなる業務改善を行いました。



#### 新・出退勤管理システム(TIME3)導入

2021年度からコンプライアンス強化とともに従業員の利便性向上を狙いとして勤怠管理システムを刷新しました。システムの操作性・レスポンスを大幅に改善し、日々の入力と上司の確認をスムーズに行うことが可能になりました。これによって、上司・部下双方の労働時間と生産性への意識が高まっています。またモバイル端末での利用も可能にしたこと

で、在宅勤務時の利便性向上に加え、外勤時のすき間時間を有効活用できるようになりました。



参考) TIME3の入力画面

### さまざまな働き方の支援

#### 勤務地配慮申告制度

育児・介護・配偶者の転勤等によって通勤圏外エリアへ転居することになった社員が、転居先から通える勤務地への転勤を希望することができる制度です。

2015年4月の開始以降、約40名程度の社員がこの制度を利用しました。

#### 退職者復職登録制度

退職した社員が、退職後の状況変化で復職可能になった場合に会社へ復職できる制度です。

勤務地限定職を対象としてスタートしたこの制度は、2017年4月からは対象を総合職にも拡大しました。これまでに約60名の社員が本制度に登録し、その内5名が復職し活躍しています。

#### 育児・介護支援制度

近い将来、育児と介護を同時に担う「ダブルケア」をする人が増えてくることが予想されます。旭化成ホームズでは、どのような状況であっても働きやすいよう、育児・介護制度ともに法律の基準を超える手厚い制度を準備しています。

特に、育児のための短時間勤務は、最長で小学校6年生まで利用可能とし、シッターやヘルパーの補助や、内閣府のベビーシッター割引券などの補助も充実させています。また育児休業から早期復帰した社員には早期復帰支援金を支給し、仕事と育児の両立を支援しています。

2020年度は、介護休業制度については2名、育児休業制度については183名(男性27名、女性156名)の社員が利用し、2021年4月末時点で育児休業から復帰して働く女性社員(※正社員)は26%となりました。今後もこれらの制度が利用しやすい環境をつくり、社員の働きやすさ向上に取り組んでいきます。

### 私たちの 想い

私たちは、気候変動への対応が急務であると考えます。その緩和策として再生エネルギー活用によるCO<sub>2</sub>排出抑制等を、適応策として防災力の高い住宅の開発や地域社会も含めたBCPの構築等を進めています。また、生物多様性の保全に関しても、経験・知見をもとに社会と協働しながら継続的に取り組んでいきます。

### 主な 取り組み

- RE100 イニシアチブ加盟による再エネ推進（気候変動の要因緩和）
- レジリエンス住宅の普及と、災害支援等のBCP活動推進（気候変動の被害抑制）
- HEBELHAUSを主軸とした、GHG抑制活動およびLCA貢献商品の促進
- 生物多様性への取り組み（まちもり計画、あさひ・いのちの森、湯屋のヘーベルビオトープ）

## 環境理念・環境目標



持続可能な社会の実現に向けた取り組みが進む中で、旭化成グループは、「世界の人びとの“いのち”と“くらし”に貢献します。」というグループ理念のもと、「マテリアル」「住宅」「ヘルスケア」の3領域で事業を展開しています。旭化成ホームズグループは、その住宅領域の中核として、LONGLIFEな住まいとくらしの提供を通して、さまざまな社会課題・ニーズに答えていきます。

## 環境方針

私たちは、2005年に旭化成ホームズグループとして初めて「環境方針」を掲げました。そして、2005年から現在に至る間に、世界の環境課題に対する意識は大きく変化し、特にこの数年では、SDGsが世の中へ急加速に浸透するなど、世の中の常識は確実に、かつ大きく変化を遂げてきています。

私たちを取り巻くそうした変化の中で生まれた、ALL for LONGLIFEの「いのちを守る」「くらしを豊かに」「人生を支える」という3つの理念は、いまの旭化成ホームズグループにおけるすべての事業活動の原動力となっています。

そのような、世の中の変化や今後の旭化成ホームズグループの業容の拡大を鑑みて、この度、旭化成ホームズグループの「環境理念・環境方針」を見直し、新しい「環境方針」として刷新することにいたしました。

### 旭化成ホームズグループ 環境方針

私たちは、「お客様のいのち、くらし、人生」を支えるLONGLIFEな事業活動を通じて、サステナブルな社会を実現するために、次世代に豊かな地球環境を引き継ぎます。

#### 1. 脱炭素社会とレジリエンスの推進

- 住宅のライフサイクル及び事業活動の脱炭素化を推進し、再生可能エネルギーを有効に活用することによって気候変動の緩和に貢献します
- 自然災害から「いのち」と「くらし」を守るレジリエントな住まいを提供します

#### 2. サーキュラーエコノミーの実現

- ロングライフな住宅の提供によって、建築から発生する廃棄物を削減します
- 限りある資源を有効に活用するとともに、リサイクルを進めることによってサーキュラーエコノミーの実現に貢献します

#### 3. ステークホルダーと共に進める自然共生

- 生物多様性の保全における知見をより高め、ステークホルダーと共に豊かな自然と調和する暮らしの実現を目指します

## 旭化成グループのカーボンニュートラルに向けた方針について

2021年5月25日、旭化成株式会社(以下「旭化成グループ」)は、カーボンニュートラルに向けた方針を定めました。旭化成ホームズも旭化成グループの一員として、この方針に則りカーボンニュートラルに取り組みます。

### 1. 背景

旭化成グループは「世界の人びとの“いのち”と“くらし”への貢献」をグループの理念として追求しています。そのうえで地球温暖化に関しては、自然環境や社会に大きな影響を与える世界の課題としてかねてより認識しております。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の拡大により世界レベルで経済・社会活動が停滞したにもかかわらずGHG(温室効果ガス)の排出量は大きく減少せず、その後活動再開により再び増加に転じた事実は、地球温暖化対策の難しさを一段と明らかにしており、取り組みをさらに加速させる必要があると考えています。

そこで旭化成グループは、このたびカーボンニュートラルに向けた方針を新たに定め、グループ理念の追求を強化することといたしました。

### 2. 方針

**2050年:カーボンニュートラル(実質排出ゼロ)を目指す**  
**2030年:GHG排出量の30%以上の削減を目指す(2013年度対比)<sup>※1</sup>**

※1) Scope1(自社によるGHGの直接排出) / Scope2(他社から供給された電気・熱・蒸気の使用に伴う間接排出)の絶対量。

旭化成グループはこれまで、売上高あたりのGHG排出量(排出原単位)の削減を目標としていましたが、カーボンニュートラルへの道筋をより明確にするため、排出「絶対量」削減の目標に改めました。

旭化成グループでは、地球温暖化対策には、上記の自社事業活動に伴うGHG排出量の削減に加え、多様な技術と事業をもって、社会のGHG排出量の削減に貢献することが重要と考えています。そのため、2021年4月には社長直轄のプロジェクトとして「グリーンソリューションプロジェクト」を発足させ、社会のカーボンニュートラルに向けた新たな事業創出の検討を開始しました。

当社グループは「Care for Earth」<sup>※2</sup>の視点から、

- ① 自社事業活動で排出されるGHG量の削減
- ② 事業／技術による社会のGHG量削減への貢献

の両面で地球温暖化問題にグループを挙げて取り組んでまいります。

※2 中期経営計画“Cs+ for Tomorrow 2021”では、人と地球の持続的な発展に貢献し続けていく当社グループの姿勢を、「Care for People, Care for Earth(人と地球の未来を想う)」と表現しています。

#### カーボンニュートラルに向けた取り組みのポイント

カーボンニュートラルでサステナブルな社会への貢献

##### ① 自社のGHG排出量の削減

- 2050年  
カーボンニュートラル
- 2030年  
30%以上削減(対2013年)

##### 取り組みの主なポイント

エネルギー使用低減 / エネルギー脱炭素化 / 製造プロセス革新 / R&D / 事業ポートフォリオ転換

##### ② 社会のGHG排出量の削減に貢献

- Energy
- Home & Living
- Mobility
- Life Material

##### 主な視点

再生可能エネルギー、省エネルギー、蓄電、水素、EV、CO<sub>2</sub>分離回収・利用、軽量化、長寿命化、断熱、ZEH、CO<sub>2</sub>センサー、デジタル、循環型経済

など

#### 旭化成ホームズグループの主な取り組み

- ヘーベルハウス・ヘーベルメゾンのZEH推進
- RE100イニシアチブ参加
- 長期優良住宅の推進
- ヘーベル電気
- 邸別住環境シミュレーション(ARIOS)
- 新築産廃のゼロエミ(100%再資源化)
- 静脈輸送を利用した産廃回収での輸送CO<sub>2</sub>削減
- エコリフォームの推進(既存住宅の高断熱化)
- ストックヘーベルハウスの推進(SumStock)
- 工場排水の水質管理

など

## 環境目標

### 2020 中期目標に対する総合評価

2020年度は「環境目標」の中期目標の最終年度となります。今回の報告では中期目標に対する総合評価を報告いたします。

全体として、概ね中期目標を達成いたしました。特に、事業活動におけるCO<sub>2</sub>排出量の削減は、目標値に対して大幅に削減することができました。

当期目標を



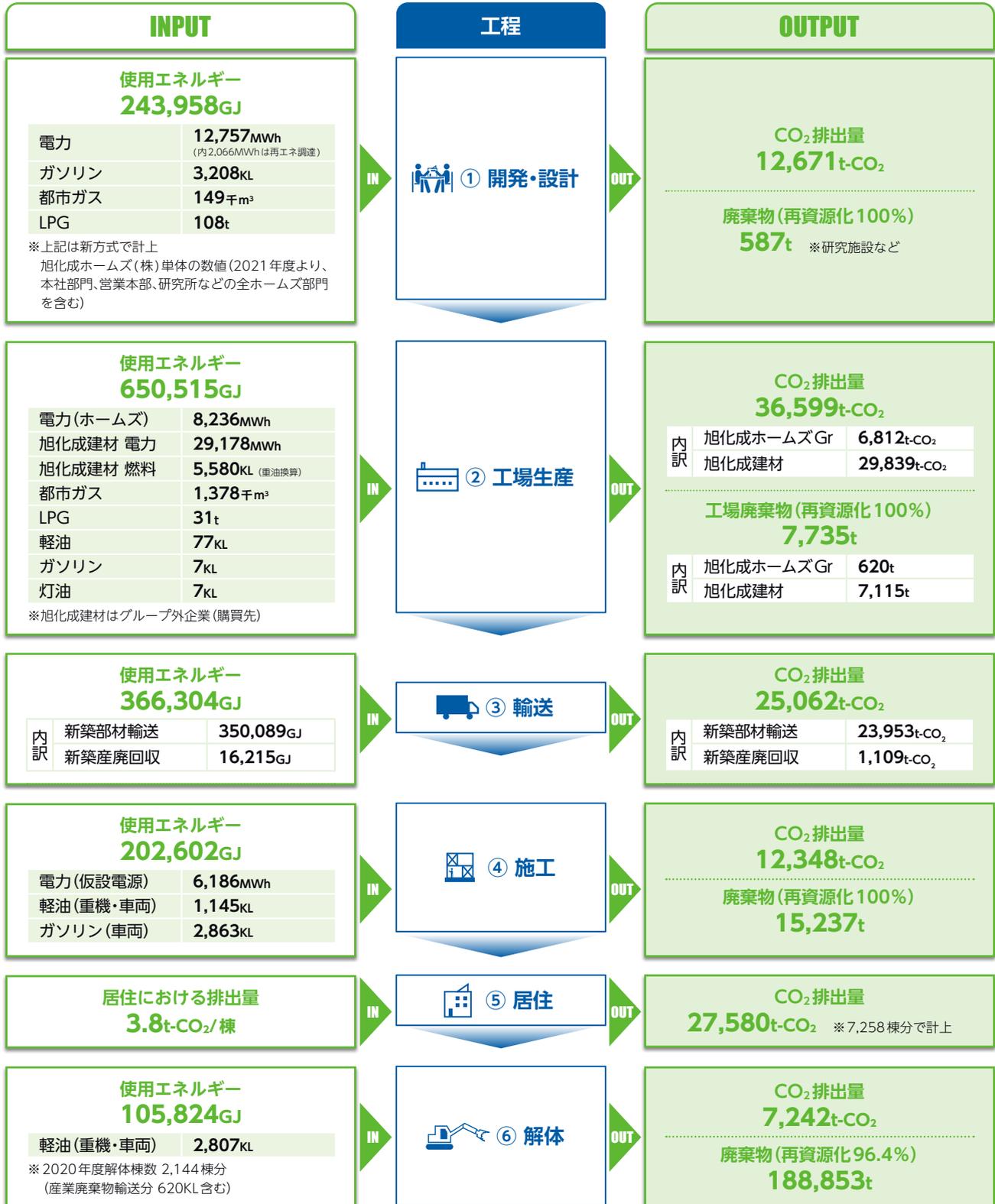
😊:ほぼ達成 (80%以上)

😐:達成なかば (60%以上)

😞:未達成

	テーマ	中期目標 (~2020年度)	総合評価	評価
1 脱炭素社会に向けて	1-1. 環境配慮住宅によるCO <sub>2</sub> 削減貢献と事業活動CO <sub>2</sub> 削減	LCA・CO <sub>2</sub> 削減貢献度 目標 2020年度:14.3 2030年度:15.3	[LCA・CO <sub>2</sub> 削減貢献度]実績 ※2019年時点で目標達成(15.1)	😊
		1) 高断熱化の推進 2020年度:CO <sub>2</sub> 貢献量目標 51万t-CO <sub>2</sub> 2) 自然の恵み・高効率設備搭載による環境配慮住宅の普及・拡大 2020年度:CO <sub>2</sub> 貢献量目標 81万t-CO <sub>2</sub>	1) 高断熱化の推進 ・2020年度:CO <sub>2</sub> 貢献量 39.5万t-CO <sub>2</sub> 2) 自然の恵み・高効率設備搭載による環境配慮住宅の普及・拡大 ・2020年度:CO <sub>2</sub> 貢献量 72.3万t-CO <sub>2</sub>	😊
		事業活動CO <sub>2</sub> 排出削減 2020年度:CO <sub>2</sub> 排出量9.3万t	事業活動CO <sub>2</sub> 排出削減 目標達成 2020年度:CO <sub>2</sub> 排出量8.7万t	😊
	1-2. アフター分野によるCO <sub>2</sub> 削減貢献	ロングライフプログラムの自社実施率向上による長寿命化	・定期点検実施率: 82.95% ・計画修繕実施率 屋上防水工事 79.4% 外装塗装工事 74.7%	😊
		ストックハーベルハウス拡大	ストックハーベルハウス仲介:208棟 (累計3,126棟)	😊
		エコリフォームの拡大	太陽光747棟(受注ベース)	😐
2 循環型社会に向けて	2-1. 産業廃棄物の削減	新築現場の産業廃棄物削減 2020年度:1.60t/棟	新築現場の産業廃棄物削減の継続実施 1.71t/棟	😊
		工場生産の産業廃棄物削減 [住工]:売上高前年度比で削減継続 [建材]:ゼロエミッション達成(~2030年)	工場生産の産業廃棄物削減 [住工]過去5年平均で削減達成 [建材]産廃最終処分率 0.008%(埋立0.6t)	😊
	2-2. 省資源の推進	事業活動における水使用量の削減 [住工]:原単位1%削減継続[対前年度計画比] [建材]:取水量と水使用原単位の把握	事業活動における水使用量の削減 [住工]過去5年平均で削減達成 [建材]原単位の把握継続 ホームズ配賦取水量 1,040Km <sup>3</sup> 2020年度出荷量 370.070Km <sup>3</sup> ・水原単位 2.81m <sup>3</sup> /出荷m <sup>3</sup>	😊
3 自然共生社会に向けて	3-1. 生物多様性に配慮した住まい	生物多様性に配慮した「都市住宅の庭」の実現	生物多様性保全活動としての「まちもり」計画推進 旭化成グループの自社施設・工場に「まちもり」ポットを植樹し、定点観察をコンテスト式に展開	😊
	3-2. 木材グリーン調達の実施	合法伐採木材の使用推進継続	合法伐採木材の使用推進継続 第二種木材関連事業者登録	😊

マテリアルバランスシート



INPUT:投入資源量 OUTPUT:排出量

※2020年度情報より、旭化成ホームズのエネルギー使用量を計上しています。(従来は本社部門等の一部のみ計上)

事業を通じた社会への貢献

誠実な業務遂行

人権の尊重

環境への配慮

労働慣行および労働安全

社会とのコミュニケーション

## 気候変動への対応



気候変動への対応には「緩和」と「適応」があります。緩和は、気候変動の要因となるCO<sub>2</sub>の発生を抑制する対策等で、太陽光等の自然の恵みを利用した設備の導入や自然を享受する住まい方の提案等があります。適応は、温暖化等の気候変動による悪影響に対抗する手段で、ZEHや防災住宅等があります。私たちは、それらの推進を通して、脱炭素社会の実現に取り組んでいます。

### ヘーベルハウスのZEH

「エネルギー基本計画」において政府は新築住宅のZEHに関する目標として、「住宅については2020年までには標準的な新築住宅で、2030年までに新築住宅の平均でZEHの実現を目指す」を掲げています。この政府目標の下に、2020年度までの新築におけるZEH化住宅の比率達成目標が公表されています。住宅のゼロ・エネルギー化を目指すためには、外皮の断熱性能を上げて冷暖房に使うエネルギーを減らすこと、高効率給湯器などを採用し消費エネルギーを減らすこと、太陽光発電システムなどの再生可能エネルギーにより創エネを行うことの3つが必要です。



ZEHの効果は省エネだけではなくありません。太陽光発電があれば災害時に電力供給が停止した場合でも電気を使うことができるなどの利点があり、有事においても安心して快適な暮らしが可能になることがZEHのメリットです。

政府はZEH基準を満たした住宅を建築する際の補助事業を実施しており、2019年度からは、ZEH、ZEH+（ZEH比で

25%以上エネルギー消費量を削減した住宅）にレジリエンス機能を加えた次世代ZEH+や、より気候変動対策への効果が高い住宅（LCCM住宅など）に対する支援制度が拡充されています。旭化成ホームズでもこれらに対応できる仕様の開発やお客様への普及活動を行い、実績を増やしています。

2020年度までに自社が受注する新築物件のうち50%をZEHにするという目標を掲げたビルダーを登録する「ZEHビルダー登録制度」も終わり、年間66%の実績を残しました。今後は2025年度に80%をZEHにする目標を掲げており、太陽光発電パネルの搭載率アップを販売戦略に組み込み目標を達成を目指します。

また、集合住宅においてもヘーベルハウスで培った技術を展開し、ZEH基準の賃貸住宅の普及を進めています。集合住宅は戸建て住宅と異なり太陽光発電パネルの搭載はまだ少ない状況です。旭化成ホームズでは賃貸住宅向けの太陽光発電システム搭載商品「Ecoレジグリッド」の販売を開始しました。「Ecoレジグリッド」によりオーナーだけでなく入居者にも発電電力の使用が可能になり国の目指す発電電力の自家消費を集合住宅で実現しています。これに高い断熱性能を有したアパート住戸に高性能給湯器等を組み合わせ集合住宅における※ZEH-Mシリーズの普及を進め、さらなる脱炭素社会の構築に取り組んでいきます。

#### ヘーベルハウスのZEH普及の達成目標と実績

年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
達成目標	10%	18%	40%	60%	70%
実績	12%	25%	44%	61%	66%

## LCA・CO<sub>2</sub>削減貢献度

LCAとはライフサイクルアセスメント(Life Cycle Assessment)の略で、ある製品やサービスの開発設計から始まり、原料調達、生産・流通、廃棄・リサイクルに至るまでの製品の一連の過程(ライフサイクル)における環境負荷(CO<sub>2</sub>排出量)を評価(アセスメント)する手法です。

旭化成ホームズでは、ヘーベルハウス・メゾンにおけるLCAでの環境負荷を分母とし、基準となるベースライン(通常は一般木造住宅)との性能差による環境貢献(CO<sub>2</sub>削減量)を分子とし、計算した結果をLCA・CO<sub>2</sub>削減貢献度としています。

### 【2020年中期目標に対するLCA・CO<sub>2</sub>削減貢献度】

旭化成ホームズでは、以下の指標で2020年度を中期目標年度とし、LCA・CO<sub>2</sub>削減貢献度評価を行ってきました。

- 環境貢献(分子)
  - ①「省エネ設備による貢献」
  - ②「ZEHなどの断熱効果による貢献」
- 環境負荷(分母)
 

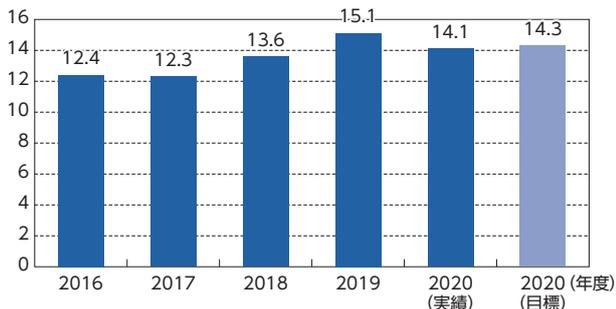
(事業活動の4つの過程に伴う年間CO<sub>2</sub>排出量)

  - ①本社部門の開発・設計に伴う電気・燃料など
  - ②工場生産(旭化成住工)
  - ③輸送
  - ④施工

貢献①(省エネ設備)	=	723,411t-CO <sub>2</sub>	
貢献②(断熱効果)	=	394,763t-CO <sub>2</sub>	
-----			
負荷①(開発・設計)	=	5,391t-CO <sub>2</sub>	
負荷②(自社工場)	=	36,651t-CO <sub>2</sub>	
負荷③(輸送)	=	25,062t-CO <sub>2</sub>	
負荷④(施工)	=	12,348t-CO <sub>2</sub>	
			= 14.1

この結果、2019年度時点で「15.1」となり中期目標(14.3)を達成しました。2020年度はコロナ禍による作業の中断や工期の延長などがありましたが、2020年度目標14.3に対し実績14.1と、ほぼ当初の目標値にすることができました。

### 【LCA・CO<sub>2</sub>削減貢献度の実績と目標】



### 【新・LCA・CO<sub>2</sub>削減貢献度】

2021年度から、より正確なLCA・CO<sub>2</sub>削減貢献度の評価とすため、貢献と負荷の各基準を改善しました。

新基準では、新・環境貢献(分子)を、新④「長期優良住宅による効果」と、新⑤「断熱・省エネ効果(国交省:住宅トップランナー制度のデータ利用)」とします。新・環境負荷(分母)は、①開発・設計に、旭化成ホームズの全部門のCO<sub>2</sub>排出量を反映させ、さらに新たに、資材(購入品)によるCO<sub>2</sub>排出量:負荷⑤を加え、より総合的な環境への貢献を算出します。

### 【新基準によるLCA・CO<sub>2</sub>削減貢献度算出式】

$$\frac{\text{ヘーベルハウスによるCO}_2\text{削減効果} \quad \text{【新・環境貢献基準】} = \text{④} + \text{⑤}}{\text{事業活動に伴うCO}_2\text{排出} \quad \text{【新・環境負荷基準】} = \text{①} + \text{②} + \text{③} + \text{④} + \text{⑤}}$$

この数値が1.0以上となると、ヘーベルハウス・メゾンのCO<sub>2</sub>削減効果(ベースライン比)が、建設過程でのCO<sub>2</sub>発生量を上回ることとなり、環境負荷軽減に貢献すると考えます。

### 【参考:新基準で2020年度を算出した場合】

#### ●新・環境貢献

新④(長期優良住宅効果):CASBEE(キャスビー:戸建(新築)評価マニュアル2016年度版:下表)の数値を基準とし、ベースライン(一般木造住宅)と長期優良住宅(ヘーベルハウス・メゾン)とのCO<sub>2</sub>排出量の差(年)×長期優良住宅耐用年数(Lv5製品寿命100年分)をCO<sub>2</sub>削減量として計上(対象は当該年度の引渡物件の総床面積)

評価製品	項目	躯体レベル	製造寿命	年・mあたりCO <sub>2</sub> 排出量		
				建設	改修・更新・解体	合計
ベースライン		レベル3	30年	13.48kg-CO <sub>2</sub> /年・m	2.67kg-CO <sub>2</sub> /年・m	16.15kg-CO <sub>2</sub> /年・m
長期優良住宅認定未取得のHH及びHM		レベル4	60年	6.47kg-CO <sub>2</sub> /年・m	4.20kg-CO <sub>2</sub> /年・m	10.67kg-CO <sub>2</sub> /年・m
長期優良住宅認定取得のHM		レベル5	100年	4.49kg-CO <sub>2</sub> /年・m	4.73kg-CO <sub>2</sub> /年・m	9.22kg-CO <sub>2</sub> /年・m

新⑤(断熱・省エネ効果):各住戸で採用した省エネ設備によるCO<sub>2</sub>削減量(年)×設備耐用年数(10年分)を計上  
※国交省の住宅トップランナー制度のデータを活用

#### ●新・環境負荷

- 新①(開発・設計):旭化成ホームズの、本社部門・全営業本部・住宅展示場・研究施設など、すべての部門の総計  
(施工会社などの旭化成ホームズグループ会社は含まず)
- ②(自社工場):海外を含む自社グループ工場を対象  
(従来加算していた旭化成建材分は、旭化成ホームズの連結グループ外であるため、今後は購買先=資材として扱う)
- ③(輸送):新築物流(動脈)と産廃回収(静脈)の合計
- ④(施工):建築現場での使用エネルギー由来のCO<sub>2</sub>排出量
- 新⑤(資材):GHGのスコープ3-C1(購入資材)を新規に加算

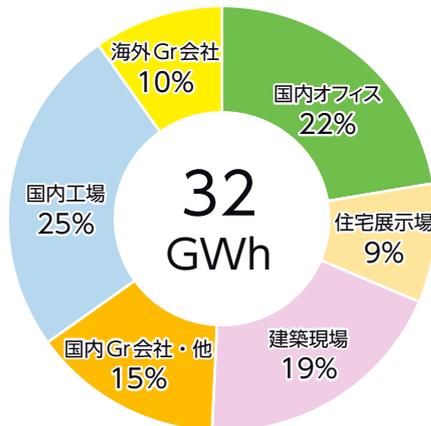
貢献④(長期優良住宅)	=	759,805t-CO <sub>2</sub>	
貢献⑤(断熱・省エネ)	=	287,484t-CO <sub>2</sub>	
-----			
負荷①(開発・設計)	=	12,631t-CO <sub>2</sub>	
負荷②(自社工場)	=	6,812t-CO <sub>2</sub>	
負荷③(輸送)	=	25,062t-CO <sub>2</sub>	
負荷④(施工)	=	12,348t-CO <sub>2</sub>	
負荷⑤(資材)	=	707,164t-CO <sub>2</sub>	
			= 1.37 > 1.0

## RE100参加



近年、気候変動の影響により引き起こされている、大型台風や記録的集中豪雨、それに伴う河川の氾濫、土砂災害などの甚大被害は“気候危機”とも言われ、大きな社会問題となっています。旭化成ホームズグループは、気候危機に対する取り組みとして、自社の事業活動におけるCO<sub>2</sub>排出を極力抑える活動である、RE100イニシアチブに2019年9月10日に参加しました。

旭化成ホームズグループでは、2020年度で年間約32GWhの電力を事業活動で消費しています。



イニシアチブ参加当初、2038年度をRE100達成(再エネ調達100%)の目標年度としていましたが、それを2025年度に繰り上げることとしました。

再生可能エネルギーを調達する手法は、戸建住宅「ハーベルハウス」および賃貸住宅「ハーベルメゾン」のお客様から、卒FIT※となる太陽光発電の自家消費後の余った電力(太陽光発電による再生エネルギー)を、「ハーベル電気」が買い取り、旭化成ホームズの事業で消費する電力に充当するという方法です。

お客様と当社との協働によって、RE100の目標達成に向けた活動を進めています。

※卒FIT:太陽光発電で得られた電力を10年間は価格を固定して買い取るという国が進めた施策(FIT法)が期間満了により終了すること。2019年11月より発生。

## ハーベルメゾン「Ecoレジグリッド」

いま日本では、脱炭素社会の実現に向けて、住宅のZEH化が求められています。

戸建て住宅ではZEHが増えている一方で、集合住宅では、建築主にとって太陽光発電設備などの初期投資や維持管理費用の負担が大きいことなどから、ZEHの普及が進んでいません。旭化成ホームズでは2017年以降、戸建て住宅のZEHだけでなく、集合住宅「ハーベルメゾン」の外皮性能をZEH基準にするなどの対策を行ってきました。

2021年3月、「都市の屋根で環境貢献と防災力強化を実現する賃貸住宅経営システム」をコンセプトとし、新築のハーベルメゾンにおいて、「Ecoレジグリッド(Ecology Resilience Power Grid)」という、新たな取り組みを始めました。

Ecoレジグリッドは、ZEH要件を満たすハーベルメゾンの建築主から、旭化成ホームズが30年間屋根等を賃借し、太陽光発電設備と蓄電池の設置・所有・維持管理を行う取り組みです。Ecoレジグリッドの太陽光発電から創出されるクリーンな電力を、電力小売事業者であるハーベル電気が購入し、その電力を含めてハーベルメゾンの全入居者に電力を販売し、余剰電力は旭化成グループの事業活動に利用するという、環境にも配慮した新しいビジネスモデルです。

旭化成ホームズは、住宅のZEH推進と再生可能エネルギーの有効活用を図りながら、脱炭素社会の実現に取り組んでいきます。

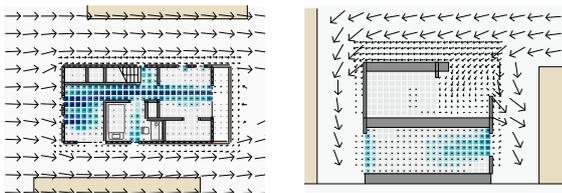


## 邸別住環境シミュレーションシステム

旭化成ホームズでは、気候変動対策のひとつとして、邸別住環境シミュレーションシステム「ARIOS」(アリオス)を用いて、省エネルギーで快適な住まいづくりを実践しています。ARIOSは建物内部だけではなく、隣家建物の配置や高さ、建設地の緯度経度および気象条件を含めて総合的に住環境を検証し、設計段階から外部環境も考慮した「家を建てた後の」暑さ・寒さを、そして、コロナ禍でのニューノーマルな生活様式で重要となる「換気」を促す建物内外の「風の流れ」も邸別に見える化することができます。

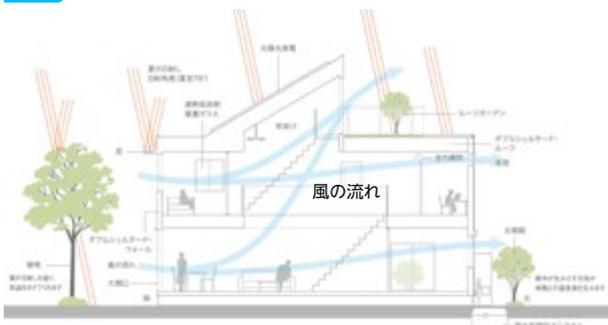
ARIOSにより、お客様一人一人の立地とプランに合わせた、快適で健康的な住環境の実現を可能にしています。

### [ARIOSで風の流れをシミュレーション]



地形や時間帯による風向きに、隣家の影響も加味して分析することで実際の風の流れに近いシミュレーションができます。そのため、風通しをよく考えたプランニングや窓設計をすることができます。

### 夏 強い日射しを遮り、さわやかな風の流れをつくる



### 冬 日照を取り込み、暖められた空気を逃さない



## 省エネ優良事業者 Sクラス(経産省)を4年連続で達成

省エネ法は、企業より提出された報告書をもとに、企業の省エネ活動の成果を評価する「事業者クラス分け評価制度」を導入しています。

第一種エネルギー管理指定工場である旭化成住工は、対前年比でエネルギー原単位(売上高比)1%以上の省エネに取り組み、2020年3月に導入した発電能力400kWのガスコージェネレーションシステムの活用などにより、2020年度の定期報告(2019年度実績)において、事業者クラス分け評価制度の最優秀ランクである「Sクラス」(省エネ取り組みが優良な事業者・目標達成事業者)となり、4年連続のSクラス評価を受けました。

これからも積極的に省エネルギーの推進に取り組みでいきます。



ガスコージェネレーションシステム

参考) 資源エネルギー庁WEBサイト  
[https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving\\_and\\_new/saving/enterprise/overview/institution/](https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saving/enterprise/overview/institution/)

## 旭化成住工と東近江市の災害時協定

旭化成住工滋賀工場と滋賀県東近江市は、同地区で地震や風水害などの災害時や広域的な停電が発生した場合、旭化成住工の工場内で稼働するコージェネレーション設備2台の発電電力により、施設内のシャワー、トイレ、コンセント電源、食堂、厨房設備等を、被災者が利用できるように準備しています。これは「災害時の設備利用等に関する協定書」(2019年11月11日締結)に基づいており、有事の際に円滑に利用ができるよう維持管理に努めながら、地域のレジリエンス強化を目指しています。



災害時避難場所の厚生棟(左)と、シャワールーム(右)

## 循環型社会への貢献



事業活動に伴って発生する産業廃棄物の削減とリサイクルの推進は、循環型社会の実現には欠かせません。産廃削減のため施工現場では、部材プレカット等のリデュース、梱包材のリユース、すべての現場産廃を再資源化するリサイクルを行い、この3Rでゼロエミッションを推進しています。また工場では、生産工程で発生した汚水の自社施設での浄化処理も実施しています。

### 建物定期点検サービスの60年間無償化

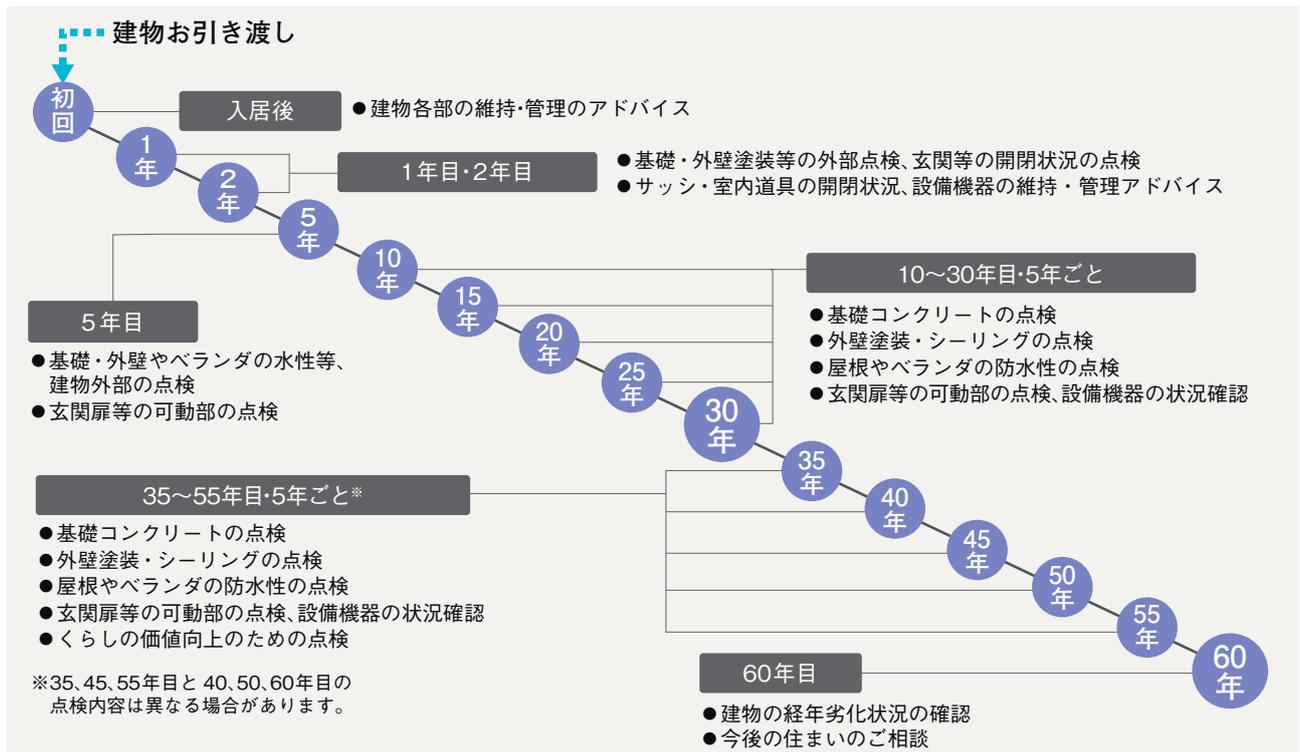
循環型社会を形成するために、定期的で適切なメンテナンスを行うことによって建物の寿命を延ばし、解体で発生する産業廃棄物を減らすことが重要と考えています。

2019年11月から「ヘーベルハウス」および「ヘーベルメゾン」の新築契約物件について、お引き渡し後の定期点検サービスの無償提供期間を、これまでの30年間から60年間に延長しました。一方で、当社はこれより前に建設した物件についても長期に安心できる品質を提供していることから、2020年4月から対象範囲を拡大し、すべての顧客に対して60年間の無償定期点検サービスを拡大しました。これによ

り、1972年の創業以来、これまでに供給した全物件約29万棟に対して、定期点検サービスの60年間無償提供を実現しました。

今後は築30年を超えるお客様が約6万棟に達し、建物のメンテナンスに関する需要だけでなく、ライフスタイルの変化に応じた改装リフォームや、所有者の世代替わりによる住み替えなどの需要が増加していくと考えます。60年までの定期点検サービスを無償化し、こういったニーズに応えながら、すべてのお客様に、安心して快適な生活をサポートできるよう努めていきます。

#### [60年無料点検システム]のメンテナンススケジュール



## 現場の産業廃棄物の削減(AHS-one活動)

施工部門では循環型社会の実現に向けた廃棄物削減活動を「AHS-one(アースワン)活動」と名付け、新築現場から発生する産業廃棄物の総重量を、1t/棟(45坪換算)とする目標を掲げ、全社を挙げて取り組んでいます。

特に3Rの観点から、施工現場ではリデュース(発生抑制)・リユース(再利用)を実現するため、資材の適量搬入および有効利用を行い、資源循環センターでは現場から排出される廃棄物のリサイクルに重点を置いた分別の徹底を行っています。

2020年度は4年前と比較し、さまざまな活動の成果により、廃棄物を130kg/棟(45坪換算)削減することができました。

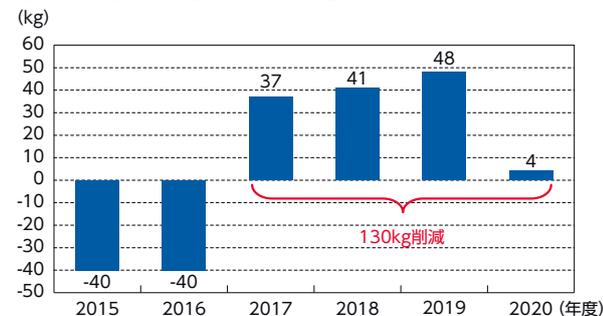
### ●適正数量の資材搬入

現場に余分な資材を搬入しないよう過去の実績をもとに、必要数量を適正に拾い出すべく日々改善に取り組んでいます。現場からの指摘や要望も反映させううえで、資材の拾い出しルールや各部材の納まりを改善しています。

### ●工場加工(プレカット・プレセット)の拡充

現場に搬入される資材のサイズが適切で現場加工が少なければ端材の発生を抑えることができます。工場における加工(プレカット・プレセット)の対象部材や適用商品を拡充し、精度を高めることで現場における廃棄物の削減に大きく貢献することができます。

### 廃棄物の削減量推移(対前年比)

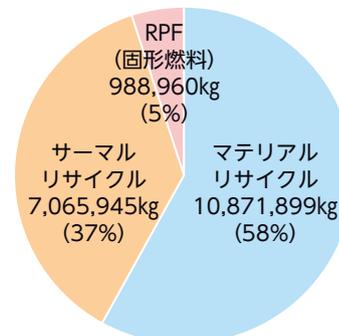


今後も旭化成ホームズと工事店・職方が一体となり、意識を強く持ち活動することで、廃棄物の発生を抑制し、循環型社会に貢献するとともに持続可能な社会を目指していきます。

## 新築産廃ゼロエミッション

旭化成ホームズでは、新築現場で発生した廃棄物を、現場で25分別した後、自社の資源循環センターへ運び、そこでさらに素材別に60種類以上に細分別して資源の有効活用を進めています。この結果、マテリアルリサイクル(58%)とサーマルリカバリー(37%)、RPF化(5%)を合わせて再資源化率100%を達成しています。

### 《2020年度 新築産廃 再資源化率》



100%再資源化対応

特に、廃プラスチック類はPE(ポリエチレン)やPP(ポリプロピレン)などの素材ごとに分類、圧縮しリサイクルするほか、場内でインゴット化やRPF(固形燃料)を製造し、プラスチック問題の解決に取り組んでいます。

また、資源循環センターでは大型圧縮梱包機を導入し、廃材を場内で圧縮梱包しており、高度熱処理施設などに委託輸送する際にコンテナを使用せず、ベール(結束材で仮状にした)状態で搬出することによって輸送によるCO<sub>2</sub>の排出抑制にも取り組んでいます。



資源循環センター(厚木)内にあるRPF製造機(上)で製造されたRPF(右下)

## 新築産廃重量計測

旭化成ホームズでは新築工事から発生する産業廃棄物の削減活動(通称AHS-one:アースワン)を展開しています。資源循環センターでは、回収された全ての廃材を分別袋ごとに計測し、現場回収時に取得した工事種別データと合わせて基礎データ化してクラウド上に展開しており、翌日には各工事管理部場で工事種別ごとの廃棄物情報を確認できます。これにより、日々の産廃の増加に対して迅速かつ適切な対応が可能になります。このデータは電子マニフェストの登録にも利用しており、業務効率化にも貢献しています。



資源循環センターでの重量計測作業

## 産廃RC&RD:PSインゴット製造

資源循環センターでは、新築現場の廃棄物として回収したポリスチレンフォーム(PS:発泡スチロールやスタイロフォームなど)を、各地区の主だった集荷施設でインゴット化し、それをリサイクル品として流通させてマテリアルリサイクルを推進しています。インゴット化で容積を40分の1から80分の1程度に縮減できるため、輸送量も飛躍的に減量化することができ、輸送時のCO<sub>2</sub>の排出抑制にも貢献しています。



PS溶融機(左)でインゴット化されたPS(右)

## 賃貸物件入退出リフォームのゼロエミ

旭化成ホームズ資源循環センターと旭化成不動産レジデンスでは、旭化成不動産レジデンスが管理する集合住宅(ヘーベルメゾンなど)の賃貸物件の入退出時のリフォームにおいて、ゼロエミッションの取り組みを2020年11月より試験的に開始しました。

入居者が賃貸物件から退出された際、壁紙の張替え工事やトイレなどの住宅設備の入れ替え工事などが発生します。その時の廃材をすべてリサイクルルートに乗せることで、賃貸物件での入退出時のリフォームでも100%リサイクルのゼロエミッションを目指します。

試験運用で課題などを確認し改善しながら、2021年度以降、段階的に全国に展開していきます。

## ストックヘーベルハウス



ストックヘーベルハウスは、高耐久で長寿命なヘーベルハウスの中古物件を取り扱う、旭化成不動産レジデンス独自の売買仲介システムです。(ストックヘーベルハウスは優良ストック住宅推進協議会(スムストック)にも参加しています)

2020年以降、仕事がテレワークにシフトしたことで、住環境の選択肢が大きく広がり、理想のライフスタイルを実現するために都心から郊外へ近距離移住する人が増えています。郊外の物件は都心よりも住宅にかかる生涯コストを大幅に下げられます。さらに、同築年数の木造住宅と比較して残存の耐用年数が高いストックヘーベルハウスを選ぶことで、コスト抑制だけでなく、旭化成ホームズが提供するさまざまなサービスを長期にわたり受けることができるメリットもあります。

ストックヘーベルハウスは既存住宅の利用促進による環境負荷削減と同時に、お客様にとって最適な住環境とサービスを長きにわたり提供することにより、長く住み続けられる街づくりを促進し、これからも循環型社会の構成に貢献していきます。

## 旭化成住工の取り組み

省エネ法の第一種エネルギー管理指定工場である旭化成住工滋賀工場は、対前年度比でエネルギー原単位(売上高比)1%以上削減を目標に省エネ活動に取り組んでいます。

2020年度は、2020年3月より電力のピークカットを目的とした発電能力400kWのガスコージェネレーションシステムを1台を追加稼働しました。既設の1台と合わせて約1,980Mwhの発電を行ったことにより前年度比で2.48%削減し、エネルギー原単位の削減目標を達成しました。



ガスコージェネレーションシステム

滋賀工場および厚木製造部に設置している太陽光発電パネルは、2020年度の1年間で約914MWhの売電を行いました。引き続き太陽光発電など再生可能エネルギーの導入を検討中です。



J棟太陽光発電パネル



K棟太陽光発電パネル

また、旭化成住工では、2003年度から3R推進によって最終埋立て処分量を0にするゼロエミッションを継続しています。生産計画と調達計画を連動させ、原料・資材(鋼材・梱包材)の工場受け入れのムダを減らす活動や廃棄物発生抑制を行いつつ、発生した廃棄物は再使用、再生利用に努めています。2020年度は、旭化成住工ベトナムからの製品輸送時に使用する木製パレットに由来する「木くず」の廃棄量が減ったことなどもあり、廃棄物原単位(売上高比)で前年度比1%削減となりました。



ベトナムからの木製パレット

場内の排水管理として、滋賀工場では生産に使用した排水を、法令基準より厳しい独自の排出基準の下に場内の排水処理施設で浄化した後、河川へ放流しています。パックテストによる日常点検、環境計量証明業者による月一度の水質測定により監視管理を行っています。



排水処理場の  
パックテスト



これからも旭化成住工では、環境課題の改善に向けて積極的に取り組んでいきます。

### 自然共生の取り組み



企業の活動(特に建設工事や土木工事)では、少なからず自然破壊のリスクを抱えています。だからこそ、自然との共生を目指し、自然を大切にす社会の実現に向けた企業の取り組みは重要と考えます。そのために私たちは、自然環境施設として「あさひ・いのちの森」と「湯屋のビオトープ」を創設し、地域社会の皆様とともに生物多様性の研究と保全に取り組んでいます。

#### あさひ・いのちの森

あさひ・いのちの森は、静岡県富士市の田子の浦地区の里山・里山を再生し、地域の生き物たちと生態系の保全を目指したエコトープです。2年間に及ぶ事前の地域植生調査を経て、2007年に旭化成富士支社内の旭化成ホームズ住宅総合研究所に隣接する工場跡地(1haの更地)に盛土・客土を施して完全な人工の森を創りました。



現在のアサヒ・いのちの森

2007年の植樹から2019年までの13年間は、森の成長を見守る第1ステージでした。この期間では主に、森の成長に伴う植生の変化や、10m以上に育った里山林を一部計画的に伐採し、その後の植物の再生(萌芽)を観察する調査や研究も行ってきました。また、森に飛来してくる鳥類や蝶、棲みつく昆虫類、動物の調査・観察を行い、その結果、多くの種類の昆虫や、静岡県で絶滅が危惧されているような希少な小動物や植物の生息を確認することができました。



田植え後、森を訪れた赤トンボやカルガモ

この生物多様性に富んだあさひ・いのちの森を新しい世代に確実に継承していくことは、私たちの使命と感じています。

#### ● 次の10年に向けた新たな活動

私たちは、2020年度からの10年を、あさひ・いのちの森の“第2ステージ”と位置付け、新たな活動を開始しました。そのひとつが、旭化成ホームズ・旭化成富士支社・常葉大学の三者共同で行う、富士地区の自然環境の復元や回復を目指した研究です。(P54参照)また、この新たな研究開始に伴い、観察のため敢えて放置していた枯木や倒木の撤去や整備を初めて行いました。

#### 専門家による評価



常葉大学 大学院  
環境防災研究科  
あさみ かよ 准教授

2021年開催予定の生物多様性条約の第15回締約国会議に向けて、愛知目標に替わる「ポスト2020生物多様性枠組み」の策定に向けた議論が進められている。この検討のひとつに、民間取り組みなどと連携した自然環境保全(OECM: other effective area-based conservation measures)がある。OECMの規格は現時点ではまだ整理されていないが、エリアベースのOECMの設定は、生物多様性の減少を食い止めるとしてその運用が注目されている。創出から13年を経た「あさひ・いのちの森」は、地域の原風景を彷彿とさせる立派な森へと成長しつつあり、将来的に地域の生物多様性の拠点となる可能性を秘めている。この森が生物多様性の域内保全に効果的な空間として機能していくことを期待する。

#### ● 森の整備前後の様子



整備前



整備後

## 『まちもり』計画の推進

あさひ・いのちの森での長年の植生調査・研究の結果から、高さの違う階層的な緑の存在があれば、その緑に多様な生き物が引き寄せられて、動植物の連鎖である「エコロジカルネットワーク」が生まれることを確認しました。都市の限られた住宅の敷地でも、階層的な植栽を人工的に創ることで、そこに鳥や昆虫などの多様な生き物を誘致することが可能です。特に生態系の頂点のひとつとされる鳥が戻ってくることは、その地域に豊かな生態系が育まれていることを意味します。私たちは、緑を育てる庭づくりの提案により、緑を纏ったヘーベルハウスの一軒一軒が、都市の緑のネットワークを構成する一部となり、やがて街一帯が緑でつながったエコロジカルネットワークを構成すると考えています。そしてこの思想を『まちもり』計画と名付け、都市の豊かな生活環境の実現を推進しています。

### ヘーベルハウスの緑を起点とした都市のエコロジカルネットワークイメージ



エコロジカルネットワークとは：人と自然の共生を確保していくため、原生的な自然地域等の重要地域を核として、生態的なまとまりを考慮した上で、有機的に繋いだ生態系のネットワーク。(環境省HPより)

都市の限られた外構空間でも『まちもり』計画の思想を取り入れやすくするため、階層的な植栽の組み合わせを、1つの単位空間として設計アイテム化した『まちもりポット』を考案しました。特にヘーベルメゾンで『まちもりポット』が採用され、集合住宅営業本部では外構計画全体の30%以上で採用されています。



植物の4階層構造

また、国内50か所以上の旭化成グループの工場や施設内に、その地域環境にあった在来種の植生で計画された『まちもりポット』を植樹し、旭化成グループ全体での生物多様性の啓発活動を『まちもりアクション』と称して推進しています。

2021年度からの新たな活動として、この『まちもり』計画を、旭化成不動産レジデンスが提供するマンション、アトラスシリーズの外構計画にも本格的に展開しています。大規模な開発を伴うマンション建設での外構計画には、従来から『まちもり』の基本設計コンセプトでもある植物の4階層構造は取り入れられていましたが、今後のアトラスシリーズの外構計画では、地域特有の在来種の樹種を多く選定していくなど、建設地の地域環境や生態系にも配慮した生物多様性への取り組みを推進していく予定です。

## SEGES (そだてる緑)

旭化成ホームズでは、「あさひ・いのちの森」におけるこれまでの森の成長過程の調査・研究の成果を、植生学会と生態学会に発表してきました。このノウハウは、都市の住まいにおける植栽の提案である『まちもり』計画として、ヘーベルハウスの外構計画に現在も活用されています。その活動が認められ、2017年に、国が定める「生物多様性国家戦略2012-2020」の施策の一つである「SEGES(シーズェス:社会・環境貢献緑地評価システム/公益財団法人都市緑化機構)そだてる緑」部門でStage 2認定を取得し、2019年10月にExcellent Stage 3に昇格しました。2021年もそのレベルを維持しています。



### 産学共同研究

あさひ・いのちの森を活用した生物多様性への取り組みは「田子の浦の原風景再生」を目指しています。それに加え、2020年度から学術分野への貢献および、地域社会への環境教育の場の提供を目的として、旭化成ホームズ、旭化成富士支社、常葉大学(浅見研究室)による“3者共同研究”として、新たな3つのテーマについて調査・研究を開始しました。

#### ●自然林再生区の種多様化実験

富士地区周辺域の寺社を調査した結果、倒木や伐採による森の消失、ナラ枯れによる着生植物の生育空間の減少など、自然林の種多様性が激減しつつあることが分かりました。これらの減少傾向にある種を、あさひ・いのちの森で増殖することにより、あさひ・いのちの森が田子の浦地域に生育する種のいのちをつなぐ箱舟として機能することを目的としています。



#### ●里山林再生区の種多様化実験

富士地区周辺域の里山林では、シカの食害により林床植生の種多様性が減少しつつあります。これらの減少傾向にある種をあさひ・いのちの森で増殖させることで、田子の浦周辺の里山林を構成する低木、草本、着生植物などの種群の多様化を図り、その研究成果により田子の浦地域の原風景の再生に貢献していきます。



#### ●湿地再生区の植生管理手法の検討

あさひ・いのちの森が目標とした「浮島ヶ原」がいま、植生の変化や陸地化により、湿地消滅の危機にあります。しかし、浮島ヶ原そのものは富士市指定の天然記念物に指定されていることから大胆な検証や試験施工は行えません。そこで、浮島ヶ原の土壌を譲り受け、植生も近似しているあさひ・いのちの森で、湿地の維持に向けて効率的な植生管理手法を検討し、その研究成果をもって、浮島ヶ原の保全管理に役立たせたいと考えています。



### 重要種・ヨツボシトンボの保全

旭化成住工滋賀工場では、周辺のトンボ調査の結果から近年、生息環境が悪化し絶滅の恐れがある滋賀県レッドデータ・重要種であるヨツボシトンボを対象(推しトンボ)として、重点的に保全活動を行っています。

ヨツボシトンボの積極的な保全のため、専門家の指導のもと、近隣の生息地のヨツボシトンボより採取した卵から孵化したヤゴを滋賀工場敷地内のコンテナビオトープへの移植を継続実施しています。2020年は280匹のヤゴの移植を行い、1年後の2021年5月～6月に約100匹の羽化を確認しました。羽化数は前年度に比べ約2倍に増えています。羽化した成虫には腹部背面にマーキングを施したのち、ヘーベルビオトープに放流しました。後日、放流したヨツボシトンボ(マークあり)の一部を含む50匹ほどの成虫がビオトープの溜池に飛来し、繁殖活動を行っていることを確認しました。ビオトープの溜池への飛来数は前年度比の約5倍と大幅に増加しました。

また、2020年と2021年の3月には、自然産卵したヤゴの生息環境改善を目的に、生物多様性びわ湖ネットワーク(BBN)参加企業のメンバーにも協力いただいて、ビオトープ溜池の水を抜いて底に溜まった泥を除去する「池干し」を実施しました。池の底を空気にさらして微生物による分解を促進することで、水質を浄化する効果があると言われています。

2021年度もこれらの生物多様性の活動を継続するとともに、羽化後の移動分散状況の確認やビオトープ周辺の実生調査などを計画しています。



BBNメンバーも参加した溜池の池干し作業



ヘーベルビオトープの溜池で羽化したヨツボシトンボ

## 日本自然保護大賞 2021

2016年4月より、滋賀県の生物多様性保全を目的とし、旭化成住工滋賀工場・旭化成守山製造所、ダイハツ工業株式会社、積水樹脂株式会社など、企業8社と行政や専門家が連携して「生物多様性びわ湖ネットワーク(略称 BBN; Biodiversity Biwako Network)」を立ち上げました。

BBNの活動では、水とのかかわりも深く、環境の健全性を表す指標種とされているトンボを共通テーマにした活動「トンボ100大作戦!～滋賀のトンボを救え!」に取り組んでいます。

2020年度は琵琶湖博物館での活動展示やトンボフォトコンテストのほか、新たにInstagramトンボ図鑑を作成・公開し、地域の皆様をはじめとする多くの方へ、滋賀県の生物多様性の情報発信を続けています。



Instagramトンボ図鑑

これらの活動実績が評価され、公益財団法人日本自然保護協会が主催する「日本自然保護大賞2021」(2021年3月13日開催)では、教育普及部門の大賞を受賞しました。



「日本自然保護大賞2021」教育普及部門受賞

今後もBBNの活動を通じて、滋賀地区の生物多様性を守り活性化させ、次世代の子供たちにも豊かな自然環境を残せるよう、活動を続けていきます。

## エコライフ・フェア 2020 Online (BBN)

環境省が主催して、環境に関する全国各地のさまざまな取り組みを発信している環境展示会「エコライフ・フェア」は、2020年度は新型コロナウイルス感染症のため、2020年12月19日～2021年1月17日にオンラインで開催されました。

旭化成住工滋賀工場は旭化成守山製造所などとともに、生物多様性びわ湖ネットワーク(BBN)の一員として「エコライフ・フェア 2020 Online」にバーチャルブース出展を行い、生物多様性保全アクション大賞2019で審査員賞を受賞したBBNの活動成果を全国へ情報発信しました。

期間中には、小泉環境大臣などが出演されるさまざまなオンライン・イベントも開催され、沢山の方がBBNのブースにも立ち寄られました。これからの時代の情報発信のあり方を考える貴重な機会となりました。



## 木材調達における取り組み

旭化成ホームズでは責任ある木材調達を推進するために、「合法伐採木材等の流通および利用の促進に関する法律(通称クリーンウッド法)」に基づき、第二種木材関連事業者に登録しています。社内での運用規定として、木材グリーン調達方針を掲げ、森林生態系の保全に配慮した調達の確保のために、毎年、購買・生産技術部により取引先に対して木材調達の実態調査をするとともに、必要に応じて現地確認を行っています。併せて、国産材の利用率の向上活動にも積極的に取り組んでいます。

今後も責任ある調達と管理を継続することにより、森林生態系の保全に配慮した木材利用の確保を目指した取り組みを進めていきます。

### 木材グリーン調達方針

- ① 合法伐採木材を調達する  
(森林供給源が明らかで、適切に管理された木材)
- ② 森林生態系の保全に配慮した木材を調達する  
(森林生態系や貴重な天然林等を破壊しない伐採による木材)
- ③ 絶滅の恐れがある樹種(絶滅危惧種)以外の木材を調達する  
(国際条約で制定されている絶滅危惧種以外の木材)

# 労働慣行及び労働安全

旭化成グループ全体での活動

## 私たちの 想い

ともに働くすべての人の心身の健康と幸せを願い、労働時間や作業環境の改善、健康管理の徹底、資格取得の支援等を行い、働きがいのある職場づくりを推進していきます。また同時に、重篤な労働災害を無くすために、建築現場や工場の保安・防災を徹底し、地域社会の安全の確保に努めていきます。

## 主な 取り組み

- ・ 施工現場での労働災害防止活動
- ・ 工場地区における労働安全と保安防災および、技能訓練などの活動
- ・ 生活災害や通勤災害、および業務中の交通違反事故などの防止に関する活動
- ・ 働き方改革（社員の労働時間管理など）

## 旭化成グループ全体での活動



旭化成グループでは、従業員と家族の健康保持・増進を経営の重要課題としてとらえ、健康経営をさらに進めるため、2020年10月7日「旭化成グループ健康経営宣言」を制定しました。

これは、従業員の活躍・成長、働きがい・ワークエンゲージメントの向上を図り、さらなる生産性向上の実現に寄与するものと考えています。従業員とその家族の健康保持・増進に関心と価値を高めて経営を進めてまいります。

## 旭化成グループの健康経営<sup>(※)</sup>

旭化成株式会社は2020年10月に、【健康経営宣言】を発表しました。旭化成ホームズグループもその宣言に則り、旭化成グループ健康経営ビジョンを促進していきます。

### 【健康経営宣言】

旭化成グループは、強みである「多様性と変革力」を武器に「持続可能な社会」の実現に貢献し、「企業価値の持続的向上」を目指しています。そのためには、「人財」がすべてであると考えます。従業員が心身ともに健康で活躍できる環境を会社として整備することが今後、ますます重要になります。これまで展開してきた健康保持・増進の取り組みをさらに発展させた「健康経営」を、「グループ健康経営ビジョン」を掲げて推進することを宣言します。

### 【グループ健康経営ビジョン】

#### 健康経営ビジョン

旭化成グループは、「一人ひとりの活躍・成長」と「グループの生産性向上・発展」を通じて、さらに「持続可能な社会」の実現に貢献します。そのため会社は、従業員と家族が心身ともに健康で、従業員の働きがいと生きがいを高めていきます。

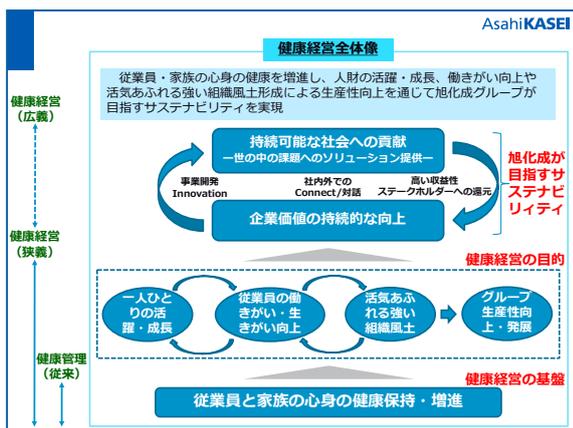
#### 行動指針

- 1) 会社は、健康保険組合・労働組合と連携し、従業員一人ひとりへの継続的な支援のみならず、職場ごとの活動、旭化成グループ全体の環境整備や従業員を支える家族の健康保持・増進等、各種活動に取り組んでいきます。
- 2) また、一人ひとりが、それぞれの人生を豊かにするために、健康づくりの主体は自分自身であるという自覚を持つことも大事であり、そのための支援も実施します。

#### 当面の目標(実現したいこと)と活動

人財の活躍・成長とグループ生産性向上・発展のため、当面は「①メンタルヘルス不調、②生活習慣病およびメタボリック症候群、③がん疾患、それぞれの減少」に加えて、従業員のワークエンゲージメントの向上に向けた各施策・活動と上記疾患の予防の基盤となる健康保持・増進に取り組んでいきます。

※「健康経営」は、NPO法人健康経営研究会の登録商標です。



## 旭化成 ライフセービング・アクション(LSA)



**Life Saving Actions** : 自分と仲間の、「命を守る」ことを最優先に  
: 最後の砦は自らの「行動」

旭化成ライフセービング・アクション(以降、LSA)とは、旭化成グループの中で働くすべての人の「命を守る(Life Saving)」ことを最優先に考え、旭化成グループの全社的な安全文化構築を目指した取り組みです。

LSAでは、守らないと命を失うおそれがある4つの『禁止行動』を制定して、安全遵守の啓発を行っています。

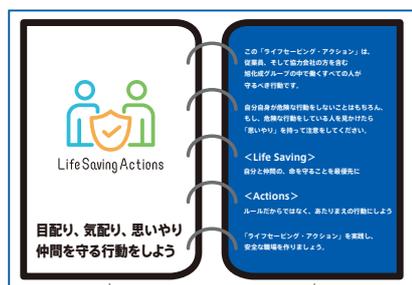
### ■4つの「禁止行動」

1. 可動部への近接作業禁止
2. 吊荷の下は立入禁止
3. 安全帯なしでの高所作業は禁止
4. スピード違反禁止、運転中の携帯・スマホ禁止  
シートベルトせずの乗車禁止



●啓発ポスター

また、これらの活動趣旨と4つの禁止事項をいつでも社員が確認できるように「ガイドブック」と「携帯カード(ポケットサイズ)」を発行し、周知徹底を図っています。



●ガイドブック(A5冊子)



●携帯カード

### ■旭化成ホームズの取り組み

旭化成ホームズでは、LSAの具体的な取り組みを通して、現場安全を徹底しています。

#### ◀吊荷の下に入らないための活動>

##### ●無線機で作業員間のコミュニケーションを図る

通常はクレーンオペレーターと合図者(躯体工)のみが無線機を使用しますが、ドライバーや合図者以外の躯体工にも無線機(子機)を持たせ、円滑なコミュニケーションが図れるように改善し、安全性を向上しました。



##### ●「吊荷進入!」の声かけにより退避行動をとる

吊荷が足場内に入る際に、クレーンオペレーターが「吊荷進入!」の声かけをし、その時は作業員全員が一旦手を止めて吊荷を確認し、安全確保を徹底します。

#### ◀巻き込まれ防止対策(可動部への近接作業禁止)▶

##### ●ポンプ車の攪拌羽根(ホッパ)部の巻き込まれ防止

以下の3項目を徹底し、巻き込まれ事故を防ぎます。

1. ホッパスクリーンは必ず設置する(使用前に確認)
2. ホッパ回転中はホッパスクリーンを開けない
3. ホッパ内作業はホッパが完全停止してから行う



生コンポンプ車の攪拌羽根(ホッパ)を覆うホッパスクリーン

## 現場での労働安全衛生への取り組み



日本の全産業の中で、死亡災害が最も多いのが建設業であり、その要因の中で最も多いのが墜落・転落事故です。私たちの工事現場も例外ではありませんので、特に安全帯の使用は建築現場で働く関係者全員で徹底しています。また、現場の重機等による物損事故や、台風による被害等に対しても過去の事例を教訓とし再発防止に努め、ゼロ災害達成を目標に行動をしています。

### 安全・快適現場

これまで「凛とした現場づくり」をキーワードに、現場の作業を行う職方へ、「ルールを守り危険な行動をしない」という風土を根付かせるよう取り組んできました。しかし、2020年度はコロナ禍で直接会えない環境が続きました。そのような中で安全意識を根付かせるために、テレビ会議などを活用し職方のリーダーである職長と直接安全対話をする事に取り組みました。職長・職方を管理する工事店も自ら工夫して取り組み、緊張感のある現場の雰囲気定着しています。

さらに、職方の健康を守るため、「快適現場」をキーワードに、夏場の「空調服」の支給に加えて「スポット冷暖エアコン」を全施工現場に導入しました。夏の冷房による熱中症対策だけでなく、冬の暖房としても活用し、年間を通して「快適現場」を実現しました。屋内作業時の環境整備としてはもちろん、作業者の「休憩所」も兼ねることができ、より厳しい環境で作業している屋外作業者からも大変好評です。また、エアコン導入を機に仮設コンセントを標準化することで、仮設電源からの電源ドラムを中心に配線が床を這っている現場の

環境が改善し、作業時の移動に危険が少なくなりました。

この活動は、働く職方を幸せにするだけでなく、「労災の削減」「職方の確保」にも寄与します。まさに「安全・快適現場」として新規入場者から高齢のベテランの職方まで、ヘーベルハウスの建築に携わる全員が働きやすい環境づくりに取り組みます。



スポット冷暖エアコン(上)  
を現場標準設置



空調服は予想  
最高気温 27℃  
以上か現場内  
WBGT 値  
28℃以上で着  
用するルール

### 台風対策

旭化成ホームズは、災害レベルの大型台風や集中豪雨などが頻繁に発生している昨今、事前の備えと、被害からの早期復旧が重要と考えています。2019年に、事前対策(防災)のための「現場台風対策ガイドライン」と、被害対応(復旧)のための「台風対策・復旧行動フロー」を制定し、現場の対応を明確化しました。これにより、物損被害の減少と、より早期の復旧が可能になりました。今後も、「物損被害」や「第三者被害」をゼロにすることを目標に取り組みを進めていきます。

#### 台風対策・復旧行動フロー



## 新規入場者教育の徹底に向けて

新規入場者教育とは、建設工事現場に作業員が初めて入場する際に行われる教育です。この教育は、雇い主が該当する作業員に対し行うこと(または元請事業者が行ってもよい)とされており、労働安全衛生規則(第642条の3)により義務化されています。

統計的にも新規入場者(初心者)の労働災害発生率は高く、その要因のひとつに、安全の基本事項に関する基礎知識がない、または安全教育を受けていないという理由があります。すなわち、労働災害防止のためには、雇い主が新規入場者に対し、確実に安全教育を実施したうえで現場入場させることがとても重要になります。

元請事業者は関係請負人に対し、新規入場者教育の適切な実施のために、資料提供等の援助を行うとともに、実施状況について報告等で適切に把握しておく必要があります。

旭化成ホームズは元請事業者ですが、教育の対象は主に施工を担う協力会社(工事店)の新規入場者であるため、工事店が行う教育の支援を行っています。どのような場合でも適切かつ円滑で確実な安全教育が実行できるよう、新規入場者教育の講師資格である「インストラクターの育成」、安全教育ビデオ等の「教育資料の整備」、工事店の雇入教育時に同時実施させる等の「実施ルールの規定」の3つです。

教育完了後は、安全作業の誓約とともに情報登録を行い、新規入場者が漏れなく安全教育を受講し、必要な資格を所持していることを確認しています。また、近年増加している外国人労働者に対しても、建築現場での正しい安全知識を理解してもらうために、「言葉」のみならず、「映像」で見学する教育ビデオを作成し、安全文化の構築に努めています。これからも、災害のない現場を目指して、労働安全の啓発活動を関係者一同で推進していきます。



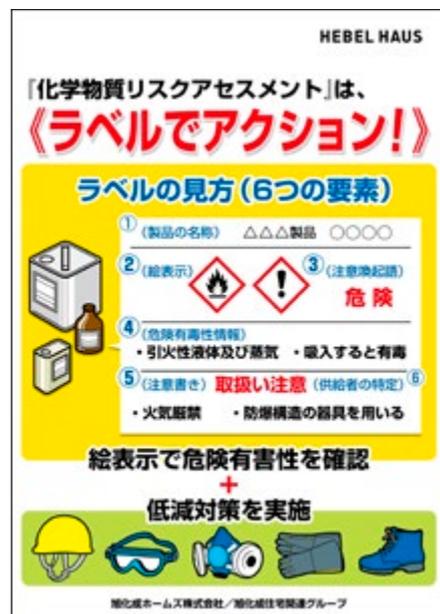
## 化学物質リスクアセスメント

労働安全衛生法が2016年6月1日に改正され、SDS(サーフティデータシート)交付義務の対象となる物質(2021年1月1日時点で674物質)に、事業場でのリスクアセスメント(リスク評価)が義務付けられました。建設業でも、さまざまな化学物質を含む製品が使われており、労働災害のリスク低減のため、化学物質を取り扱う事業者は、その責任として、建設物・設備等や作業行動、その他業務に起因する危険性または有害性等を調査し、その結果に基づき、法令などの規定による措置を講じなければなりません。

旭化成ホームズでは、新しい商品・材料に対しては本社管轄にて「化学物質リスクアセスメント」を行い、その結果を全国の工事現場へ周知しています。

そして現場では、周知された結果をもとに、厚生労働省の推奨する「ラベルでアクション」(取扱説明書や部材梱包に印刷されている表示(イラストなど)を見て安全性を確認する活動)を行っています。

さらに、作業員が日々の作業前に行うKY(危険予知)活動の中でも「化学物質リスクアセスメントを実施したか?」という項目を毎回チェックし、危険または健康障害を防止するために必要な措置を作業員自身で確実に講じるよう意識づけを行い、日常的なリスクアセスメントの定着を図っています。



## 工場での労働安全衛生への取り組み



日本の全産業の中で、怪我を含む死傷災害が最も多いのが製造業です。その要因の中で最も多いのが、機械への「挟まれ・巻き込まれ」です。旭化成ホームズグループでは、工場の機械設計には「本質安全設計」を取り入れ、事故の原因となる危険源自体をできる限り排除するとともに、保護具着用等の「基本安全行動」の徹底を図り、工場の労働環境の改善を推進しています。

### 安全道場の活用

旭化成住工滋賀工場では安全最優先を念頭に置き、安全道場を設置しています。2020年度は事故の疑似体感を通して心理的に『怖い・嫌だ!』と感じさせ、危険の感受性をより高めることを目的に安全道場のリニューアルを行い、新規にVR体感機を導入しました。従来から運用している危険体感機の指導者(各部署の責任者および班長)がVR体感機の指導者となり、各課員の皆さんにVRを使った安全研修を実施しました。この体験学習での経験を活かし、3現主義で自部署の不安全行動の撲滅を日々目指しています。



VR体感機では7種類のコンテンツを体感可能

また、従来から設置している危険体感機7台については、旭化成住工内で過去10年間に発生した労働災害状況をパネル化した事例集と併せて継続して活用しています。

これらの施設を活用し、現場責任者である班長は班員一人ひとりに分かりやすく安全教育をすることで、自分が受け持つ課内でのコミュニケーション能力を向上し、ヒューマンエラー対策につなげ、併せて課員の理解度を確認しています。

今後も、全社員に対し安全の啓発を推進し、無災害の実現に向けて取り組んでいきます。



労働災害の事例集を掲示した安全道場の全景(上)と、手動式のローラー巻き込まれ体験機(右下)

### 製造現場における安全対策

旭化成住工では、工場内での機械設備の安全総点検を適時実施してきました。2020年度は非正常作業(トラブル、調整等)が発生した場合の対応の改善を行いました。

一般的に工場の製造ライン(機械)周囲には、通常は安全柵が設置されており、機械の作動中はその柵中には入れないように対策しています。そのため、点検(非正常作業)などの際は、その安全柵の扉を開くと自動的に機械が止まる安全ガード(安全機能)が付いた専用の侵入扉から入る仕組みになっています。さらに1段階上の安全対策として、安全ガード付きの扉が開いているときは、機械を自動運転モードから手動運転モードに切り替え、自動的に機械の電源が入らないように設計されています。

2020年度の機械設備の安全総点検において、一部の製造ラインで、安全ガード付きの扉が開放されているときに、操作パネルを手動モードに切り替えると設備が単独で動いてしまうことを確認しました。今回は手動運転モードに切り替えても関係する安全装置がすべて有効でなければタッチパネルの画面が手動運転モードに変更されない仕組みに改善しました。

今後も定期的な機械設備の安全総点検を実施し、ヒューマンエラーがあっても、基本的な安全上の問題が発生しない安全面のハード対策を推進し、無災害を目指していきます。



タッチパネル画面(上)と安全ガード付きの扉(右下)



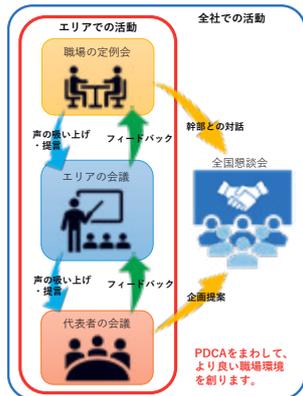
# オフィス等での労働安全衛生への取り組み



労働災害のリスクがあるのは建築現場や工場だけではなくありません。私たちが働くオフィスや住宅展示場にも、さまざまなリスク（例えば、階段で足を踏み外す、段差で躓くなど）が潜んでいます。また、営業活動や現場管理で自動車を運転する社員には、交通事故に遭うリスクもあります。そのような、社員の日常業務の中に潜むリスクに対しても、さまざまな安全対策を行っています。

## 職場環境向上委員会と衛生委員会の活動

職場環境向上委員会は、「社員が安心していきいき働き続けられる職場環境をつくる」ことを目的に活動し、①社員自らの手で働きやすい職場環境をつくることを推進する（ES向上）、②経営と社員のパイプ役となり、現場の生の声を経営サイドに届ける（経営参画）といった役割を担っています。日常のさまざまな問題を解決することと並行し、ここ数年は働き方改革の推進役として時活や業務改善をPDCAを回しながら積極的に行っています。



職場環境向上委員会のつながり

2020年11月の全国職環懇談会は初めてオンラインで開催し、全国の議長が各事務所から参加しました。懇談会では「議長からの質問に社長がライブで答える」という形式が好評で、オンラインという環境の中において「経営と社員の対話」を実現できました。2021年度は大きな組織改編があり、新しい体制での働きやすい職場環境づくりに向けて職場環境向上委員会の活躍がさらに期待されています。



川畑社長(左上)と全国から参加の代表社員とのリモート対話の様子(下)

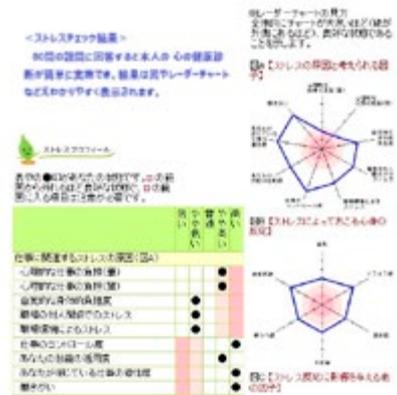
衛生委員会は、「各事業所の安全衛生管理体制を整備する」ことを目的に、安全・衛生・健康に関する事項を議題とした会議を毎月1回開催し、安全衛生管理体制を整備・運営しています。

## ストレスチェック(e診断)について

旭化成ホームズでは、社員一人ひとりが健康で快適に働き続けられる環境づくりを目的とし、ストレスチェックが法令で義務化される以前の2011年より、毎年ほぼ全社員(受診率90%強)が受診しています。インターネット上で80問(4択)に回答したのち、ストレスプロフィールですぐに結果を知ることができるため、セルフケアに活かすことができます。

また、各人の結果をもとに組織診断も行っています。会社全体として、総合健康リスクについて、世間の平均より約15%低いという結果でした。組織ごとに個別の傾向をみると、高リスク部署もあるため、内容を分析し、対策として各種支援や研修を行っています。

### 【e診断によるストレスチェック結果の例】



### 職場復帰支援について

病気により長い期間休働していた社員が職場に復帰する際は本人にも周囲にもストレスや思わぬ負担がかかることがあるため、スムーズに復職復帰を行うための支援を行っています。

職場復帰する際には、職場の受け入れ態勢を整え、円滑な職場復帰を支援することを目的に本人、産業医、上司、保健師、人事担当が出席する「復職支援会議」を開催しています。

2020年は新型コロナウイルス感染症予防対策のため、健康管理室での面談もオンライン化がすすみ、復職支援会議も適宜直接面談とオンライン面談を組み合わせながら実施をするようになりました。

また、職場に復帰する際にリハビリ勤務制度(時短勤務制度)を設けています。長期の休職から復職を希望する社員に対して、必要に応じて業務負荷を適切に調整することで傷病の再発を予防しつつ完全復職を実現するための制度です。

#### 休職から復職へのステップ

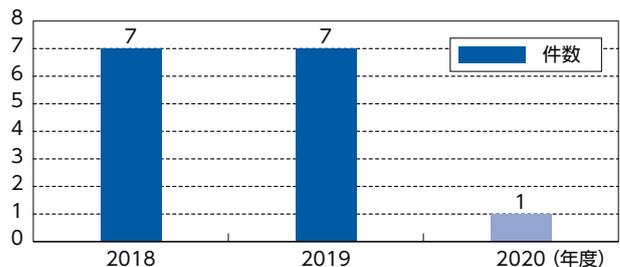
面談	過ごし方	通院・自宅療養	参考資料	
<ul style="list-style-type: none"> <li>1カ月1回、定期的に上司への報告</li> <li>産業医or保健師との面談</li> <li>中間面談</li> <li>復職支援会議</li> <li>定期的に産業医or保健師との面談</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>しっかり休養</li> <li>復職に向けて体調や生活を整える</li> <li>生活記録表</li> <li>リワーク通所など</li> <li>振り返り、通勤訓練</li> <li>リハビリ勤務</li> <li>残業制限なし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主治医との復職に向けての相談</li> <li>受診</li> <li>通院・服薬治療</li> <li>復職の診断書</li> <li>復職後の勤務について、体調について相談</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活記録表</li> <li>勤務記録表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>↓休働</li> <li>↓復職</li> </ul>

### 通勤途上・事務所・展示場等での社員労災の撲滅活動

旭化成ホームズでは社員(派遣社員含む)が通勤途上や事務所、住宅展示場での転倒などによる骨折・捻挫類の労働災害が多く発生していました。そこで3年前から毎年7月を「社員安全衛生強化月間」と指定して、日常業務の中で起こりうる生活災害を防ぐための活動を実施しています。自動車通勤時の交通事故対策、自転車通勤利用者の登録制度・自転車保険加入の義務化、危険な事例を例示したポスターの掲示、朝礼や部会で一人ひとりの安全意識の啓発、事故事例を取り上げた啓発用DVD(2016年より導入)の配信、全国の展示場の安全巡視などの取り組みを行っています。

また、住宅展示場でのハウスマンアドバイザーの転倒事故の防止のため、全担当者にかかるとが固定する履物を配布しました。さらに滑り止めのすり減り具合を年1回チェックして傷んだものを買い替える対応を行っています。これらの活動の結果、2020年度は住宅展示場内でのハウスマンアドバイザーの転倒事故を大幅に削減することができました。

#### 住宅展示場でのハウスマンアドバイザーの転倒事故など



啓発ポスター



啓発DVD

## 定期健康診断・がん検診

2020年は新型コロナウイルス感染症の影響により、健康診断が実施できない時期もありましたが、感染症対策を講じ、受診期間を延長するなどの措置を実施し、旭化成ホームズグループ全体としては当初の予定期間で受診率99.7%を維持でき、残りは日程調整して、100%実施としています。

今後も当社グループでは受診率100%を目指すとともに、健康診断の大きな目的のひとつである、病気の早期発見・早期治療・健康リスクの管理という点から、有所見者の再検査を推奨し、社員の健康保持や改善を目指します。

### ■がん検診

旭化成ホームズグループのがん検診は、従業員の健康管理を支援することを目的に実施しています。特長としては、各種専門機関のガイドラインが推奨している対象者に加えて、若年からがん検診が受けられるように定めています。年々受診者数は増加してきており、それに伴いがん発見率も上昇することが予想されます。今後は、がん治療と仕事の両立を目指し、より働きやすい環境づくりに取り組んでいきます。

## 禁煙推進活動

2020年4月1日より健康増進法の一部を改正する法律(厚労省)が全面施行されました。本法律により、望まない受動喫煙を防止するための取り組みは、マナーからルールへと変わりました。旭化成ホームズでは、厚労省の指導に則り受動喫煙防止対策を実施しています。

自社研究施設やグループ工場においては、建物内の室内型喫煙室をすべて廃止し、屋外型の喫煙専用室(もしくは専用喫煙場所)にするとともに、喫煙室の入場人数制限や、喫煙室も含めて特定曜日に禁煙時間帯を設定するなどして、禁煙推進活動に取り組んでいます。



厚労省「なくそう！望まない受動喫煙」Webサイト



旭化成ホームズ健康管理室作成のポスター

## 交通安全推進

旭化成ホームズでは、営業活動や現場施工、アフターサービスなどで自動車を使う機会が多いため、交通事故防止のためにさまざまな活動を行っています。以前から推進しているリースカーへの前方衝突回避装置の設置は、2020年度ではほぼ全車両(旭化成ホームズ部門では99%、施工会社などを含む旭化成ホームズグループ全体では95%)へ対応しました。現在は、社員の私有車借上制度(新規申込および更新時)の条件にも前方衝突回避装置搭載を付加しています。

2020年度3月から、業務で利用する車輛を管理する「業務利用車システム」を導入しました。このシステムの導入により、免許証・車検証・各種保険の有効期限を把握し、有効期限の切れた状態で業務を行わないよう、利用車に対して自動で有効期限一か月前よりアラートを発信しています。(順次リースカーやレンタカーにも利用を拡大していく予定です。)

交通事故削減のための啓発活動として、定期的に人事部より、前月に起きた事故の件数や事故事例を周知するとともに、社内ルールを提示し、加害・被害事故を起こさないように、安全運転を呼び掛けるメールを発信しています。

これからも社員の運転マナー向上に努め、交通安全の推進に取り組んでいきます。

### 【業務利用車システムの申請WEB画面】

<p>運転証</p> <p>運転証の完了済み番号: #012030030</p> <p>運転証申請番号: [ ]</p> <p>車名: [ ]</p> <p>車体形式: 25cc以下車体 <input type="checkbox"/></p> <p>3cc: 1800cc以下車体 <input type="checkbox"/></p> <p>車検年度: 6月～25日 <input type="checkbox"/></p> <p>燃料の種類: ガソリンまたは軽油の2種類あり <input type="checkbox"/></p> <p>所在地: 東京都 中央区 申請者本人 <input type="checkbox"/></p> <p>本[ ]店舗が最寄駅 (Km): [ ]</p> <p>車検年度: [ ]</p>	<p>免許証</p> <p>免許証の完了済み番号: #012030030</p> <p>免許証申請: [ ]</p> <p>運転者情報</p> <p>内閣府登録番号: [ ]</p> <p>運転者情報登録: [ ]</p>
<p>車両</p> <p>車種: [ ]</p> <p>ハンドル: 右ハンドル <input type="checkbox"/></p> <p>右ハンドル設置: 装着している(原付タイプAの場合) <input type="checkbox"/></p> <p>左ハンドル設置: 装着している(原付タイプAの場合) <input type="checkbox"/></p> <p>その他: [ ]</p> <p>人身傷害: 3000万円以上である <input type="checkbox"/></p> <p>自賠付: 申請者本人 <input type="checkbox"/></p> <p>申請者本人は保険の適用対象である <input type="checkbox"/></p> <p>自動車損害賠償責任: [ ]</p>	<p>保険会社</p> <p>保険契約会社: #012030030</p> <p>対象の自動車: 同上申請と一緒にして <input type="checkbox"/></p> <p>使用目的: 業務利用(原付タイプAの場合) <input type="checkbox"/></p> <p>利用: 非利用 <input type="checkbox"/></p> <p>人身傷害: 3000万円以上である <input type="checkbox"/></p> <p>自賠付: 申請者本人 <input type="checkbox"/></p> <p>申請者本人は保険の適用対象である <input type="checkbox"/></p> <p>自動車損害賠償責任: [ ]</p>

# 社会とのコミュニケーション

地域貢献および、スポーツ・文化・教育への支援・協賛

## 私たちの 想い

私たちは、地域社会の皆様とのコミュニケーションを深め、地域の発展に貢献する企業でありたいと願っています。そのために、自社施設を一般開放して行う地域イベントの開催や、出張授業等の学校教育への支援を積極的に行っています。これからも、地域の発展のために貢献していきます。

## 主な 取り組み

- ・自然環境施設を活用したイベント（旭化成ホテル祭り、湯屋のピオトープでの自然観察会等）
- ・アフターサービスの充実および、ご入居後のお客様への生活サポートの充実
- ・学校教育への支援（地球環境教室、大学との共同研究）
- ・災害時の被災地支援
- ・新型コロナウイルス感染症に対するBCP対応

## 地域貢献および、 スポーツ・文化・教育への支援・協賛



「あさひ・いのちの森」や、旭化成住工での様々なイベントは、いまや地域の代表的なイベントになっています。また、事業活動や研究を通して得た知見や技術を活かし、小中学校での環境教室開催や大学との共同研究等、学校教育への支援も積極的に行っています。これからもこれらの活動を継続していき、地域社会に貢献していきます。

## 母力えほん箱プロジェクト



2020年の緊急事態宣言発令以降、外出機会が減り、小さな子供を持つ皆様は図書館や書店に足を運ばず、新しい絵本を読みながら親子でコミュニケーションをとる機会が減っています。そうした背景を受け、旭化成ホームズでは、子育て共感賃貸住宅「ハーベルメゾン 母力(BORIKI)」の入居者を対象に、「母力えほん箱」プロジェクトを2020年11月より開始しました。この活動は、お母さん大学(株式会社お母さん業界新聞社)のプロジェクト)および、出版社などの協力を得て、親子間や入居者同士のコミュニケーションの活発化を目指して子育て世代に絵本を無償提供でお届けする取り組みです。10冊の絵本が入った「母力えほん箱」を設置し、3か月ごとに巡回のうえ、えほん箱の内容を更新。1年3か月をかけて、50冊の絵本を提供しています。

入居者には、貸し出す予定の絵本50冊の一覧票を配り、読みたい絵本を予約できるようにしています。また、読み終わった絵本の好きな部分にシールを貼るなど、お子様とコミュニケーションを取りやすくする工夫を施しています。えほん箱の情報は、お母さん大学が運営するコミュニティメディア「BORIKI新聞」や「BORIKI通信」でも紹介し、絵本を楽しむ写真や感想文などを募集することで一層の交流活性化を図っています。絵本を通して、親子のふれあいや母力内のコミュニケーションが活発化されることを目指し、今後も活動を続けます。

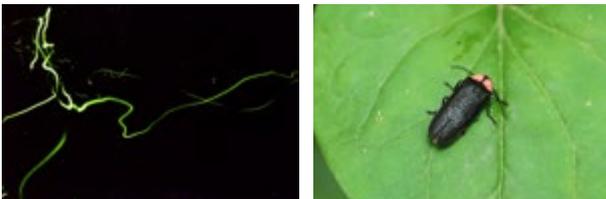


【母力えほん箱の一例】  
絵本の表面は保護フィルムでカバーリングし、殺菌スプレーや除菌シートも使用可能にするなど、感染防止対策も実施しています。

## あさひ・いのちの森のホタルまつり

あさひ・いのちの森では、旭化成富士支社(富士市鮫島)の主催で生物多様性への取り組みと、地域への社会貢献の一環として、毎年5月末～6月初めに「ホタルまつり」を開催しています。2019年はホタルの生育不良で、2020年は緊急事態宣言により2年連続で開催中止となってしまいましたが、2021年は5月26～28日の3日間で開催することができました。(感染予防のため、来場者を「社員とその家族限定、かつ予約制で同時見学7名以内の人数制限」を徹底し、例年は3日間で約3～4000人の来場者を約500人に制限しての開催となりました。)

今後も、ホタルまつりや森を使ったイベントなど、自然とのふれあいの場を提供していき、地域の方々とともに生物多様性への取り組みを推進していきます。



あさひ・いのちの森のなかで舞うホタル(2021年5月撮影)

## キッズデザイン協議会への加入



旭化成ホームズは、2021年4月、キッズデザイン協議会の正会員になりました。

キッズデザイン協議会は、次世代を担う子供たちの安全・安心の向上と、健やかな成長発達につながる社会環境の創出のために、企業、団体、自治体、個人が業種を超えて集うNPO法人です。

旭化成ホームズはこれまでも家族の安全・安心環境、家族コミュニケーション促進による子供たちの健やかな成長環境を実現できる住まいの提供を推進してきました。

今回の正会員としての加入を機に、今後さらに、広く多様な企業・団体等と協力し合い、安心で長く住み続けられる地域社会の構築に貢献できるよう取り組んでいきます。

## 地球教室① かんきょう1日学校

旭化成グループでは、子供たちの環境意識向上のため、環境教育プロジェクト「地球教室」(朝日新聞社主催)に協賛しています。その活動のひとつに「かんきょう1日学校」があります。2020年度は有楽町朝日ホールで9月20日に開催されました。住宅総合技術研究所の所員が講師を務め、会場参加約50人とリモート参加約400人の小学生(4～6年生)に向けて地球温暖化対策等の講義をリモートで行いました。家庭で簡単かつ快適に住まいながらできるエコ生活や、ゼロエネルギーハウスについての講義を通して、子供たちとともに脱炭素社会に向けた将来を考えました。



## 地球教室② 出張授業

地球教室(朝日新聞社主催)には、かんきょう1日学校とは別に、小学校に出向いて行う出張授業があります。2020年度は2021年1月22日にリモート形式で開催されました。千葉県市川市立稲越小学校と住宅総合技術研究所(静岡県富士市)をリモートでつなぎ、約40人の4年生に向けて、家の模型を使った夏季の日射遮蔽効果の実験や木材と金属板を使った体感の温度比較など、家庭でできる地球温暖化対策について授業をしました。学校では体験できない実験を通じて、子供たちには楽しみながら環境問題を考えてもらえる時間になりました。



## お客様とのつながり



私たちの主力事業である、注文住宅の「ヘーベルハウス」、賃貸住宅の「ヘーベルメゾン」、そして分譲マンションの「アトラス」では、すべてのお客様に、生涯を通して安心できる“住まい”と“暮らし”を提供できるよう、ご入居後の定期点検や、コールセンターでの相談対応はもちろんのこと、オーナーサービス部門を中心に、さまざまな生活サービスの提供を行っています。

### アフターサービス活動

旭化成ホームズの「アフターサービス」を担っているのが、お住まいのお客様からのご連絡を受ける「ヘーベリアンセンター」と、定期点検や修理など現場サポートを担う「ホームサービス課」です。

全国2カ所のヘーベリアンセンターでは、年間約30万件を受電します。内容はガス、給湯設備のトラブルなど緊急を要するものから、浄水器カートリッジの購入や、インターホンの交換、インターネット回線への加入、確定申告に必要な書類の相談まで多岐にわたります。これらを、ワンストップで対応するため、電話対応の専門家であるコミュニケーターと現場知識が豊富なスーパーバイザーが協力し、速やかで適切な対応を行っています。

全国28カ所の「ホームサービス課」は、年間約6万件の定期点検を中心に、修理手直し工事の管理などを受け持っています。ヘーベルハウスの定期点検は、一定の知識と技術を習得した「認定点検技士」という社内認定資格を持った点検員が行います。この認定点検技士制度は、3年ごとに更新試験が義務付けられており、点検員の知識や診断技術、お客様対応力を確認しています。また認定点検技士を評価する指導者も、本社が行う点検技能検定士試験に合格した者に限定しています。

「家は建てた後が大事なんだ」という信念の下、質の高い定期点検を実施し、お客様の大切なヘーベルハウスの資産価値を守っています。



勾配屋根上など、足場がないと行けない高所は、カメラとモニターで確認

認定点検技士による点検



### 旭化成オーナーズ倶楽部の活動

毎年ヘーベルハウスにお住まいのお客様を対象に、各エリアにて「お役立ちフェア」「各種セミナー・イベント」を開催していましたが、2020年度はコロナ禍の影響でほとんどが実施見合わせとなりました。

そこで、各種イベントを、ポータルサイトHEBELIAN NET.を活用したWEB活動にシフトしました。お役立ちフェアに代わるWEBイベント「ヘーベリアンネット祭典」を2020年8月1日～9月30日、2020年10月30日～12月25日、2021年2月12日～3月31日の3回実施しました。

フェア会場に見立てた新しい住宅設備の提案を行うことができるデジタルカタログを開発し、暮らしの価値向上提案を行いました。「いつでも」「どこからでも」アクセスが可能な本イベントは、約15万ページビューがあり、大変好評でした。

さらに、ヘーベリアン限定投稿サイト「来て、見て、ヘーベリアン」にて、自粛期間の自宅での楽しみ方をお客様同士で共有するスレッドテーマ「stay HEBELHAUS」を設け、5月に相互コミュニケーションを行う試みを実施しました。ただ投稿を募集するのみに留まらず、投稿された内容レビューを旭化成ホームズからのメッセージとしてメルマガ発信することで、投稿参加していないお客様からもご好評を受け、当時過去最高となる1日で約5万ページビューを記録、このような新しい取り組みによりHEBELIAN NET.は前年比2倍近いアクセスを実現しました。

今後も、アフターコロナも見据え皆様にお役に立てるWEB活動をはじめ、時代の変化に合わせ、お客様の生活を豊かで快適なものにする企画・開発に取り組みます。



2021年2月12日～3月31日の「ヘーベリアンネット祭典」のWEBサイト

## CS(お客様満足度)評価の現状

お客様満足度は、私たちが「お客様に必要とされ感謝される仕事」ができているかを確認できる重要な指標です。さまざまな職種のつながりによりひとつの建物が出来上がっていく建設業において、お客様に「出来栄え評価」でご満足をしていただくためには、一朝一夕の活動では実現は難しく、社員とともに、本体工事店やメーカーをはじめとするすべての関係者が一丸となって、長い時間をかけ継続して日々取り組むことが重要となります。

### ●極上の引き渡し品質を目指して

旭化成ホームズのヘーベルハウスおよびヘーベルメゾンをご契約していただいたお客様による「入居時総合満足度」は、2020年度下期では、全国平均で84.5%、全体出来栄え満足度は89.3%と、非常に高いご評価をいただきました。

またどちらの指標の評価も近年は常に上昇を続けています。(図A)特に出来栄え評価において、「基礎工事」「躯体工事」「外装塗装工事」の基本品質にかかわる3項目では、90%前後と高いご評価をいただきました。(図B)

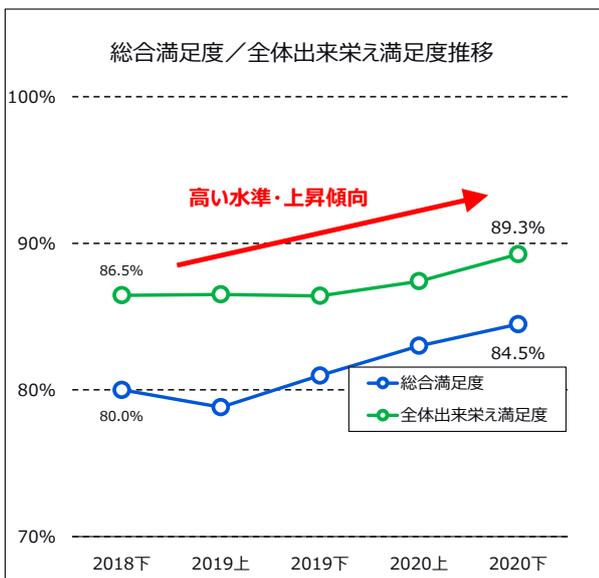
これは、コロナ禍という大変な環境の中でありながらも、

高品質にこだわり、それぞれの仕事にプライドと責任を持って取り組んだすべての工事関係者のしっかりとした施工の成果であることはもちろん、旭化成ホームズ独自の品質管理システムである「LLQCS」(P24参照)に基づく検査体制により、お客様にも品質に関する安心をいただいている結果だと考えます。

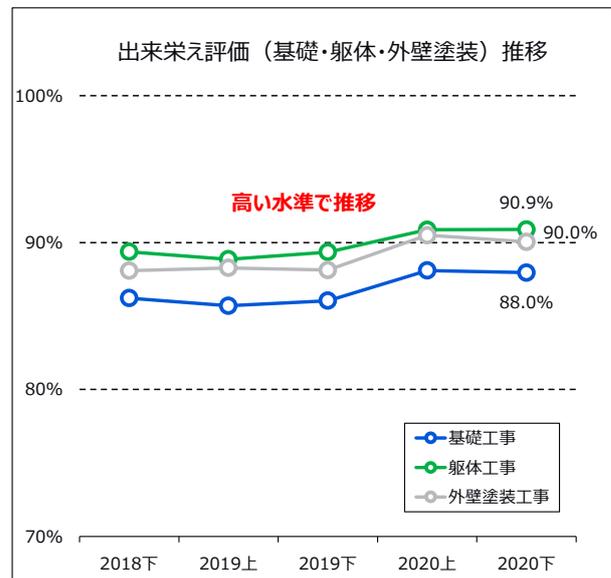
そしてもうひとつ、作業標準に沿った確実な施工、そして、外構工事も含めてすべての工事・工程が完了した状態での完成検査の実施、これも高評価につながった重要な活動と考えています。現在も、お引き渡しまでの工程の中には検査日程をしっかりと確保して確実な検査を行っており、お客様に自信をもって完成したご新居を見ていただけるよう、完成検査には特に多くの時間を費やしています。

今後さらにその安心感を高めるためにも、不具合発生を撲滅し、お客様にご満足してお住まいいただけるよう、ヘーベルハウスの工事に携わるすべての関係者ととも、完成品質こだわり、質の向上に努め「極上の品質」でお引き渡しを行えるよう引き続き取り組んでまいります。

図A



図B



### 持続可能で快適な街づくりを目指して(旭化成不動産レジデンスの活動)

旭化成不動産レジデンス株式会社は、都市開発事業(分譲開発事業:ATLAS(アトラス)など)や、ヘーベルメゾンを中心とした賃貸事業、ストックヘーベルハウスの売買等の仲介事業を展開しています。国内では、全国に100万戸以上存在するといわれる旧耐震マンションの再生や、老朽建物が多数混在する密集市街地の再生が社会的な課題となっています。旭化成不動産レジデンスでは、そのようなマンション建替え事業や再開発事業において、これまでの知見、経験を活かし、関係者の合意形成による円滑な建替えの推進を図ってきました。

#### ●レジリエンス 防災性向上のまちづくりの取り組み

マンション建替え事業として、2019年の「品川区中延二丁目防災街区整備事業」では、東京都の「木密地域不燃化10年プロジェクト」の「不燃化特区」で、近隣の防災拠点と連携した緊急時避難の拠点となるまちづくりに取り組み、2020年の「上熊本ハイツマンション建替え事業」では、熊本地震被災マンション5棟を被災後4年で建替えを行い早期復興に貢献しました。その業績が評価され、品川では第6回ジャパン・レジリエンスアワード(強靱化大賞)のグランプリを受賞、上熊本では同アワードの最優秀賞を受賞し、2年連続受賞の評価を得ました。



【アトラス品川中延】



【アトラス上熊本】

#### ●循環型社会の構築に向けて

管理物件である賃貸アパートの退室時リフォームやリノベーション工事で発生する産業廃棄物の処分については、ゼロエミッションを推進しています。特に処分先は外部委託から自社グループ施設の「旭化成ホームズ資源循環センター」での処分に順次切り替え、旭化成ホームズグループ全体で、環境負荷の低減に取り組んでいます。

#### ●生物多様性への活動

より豊かなライフスタイルの提案と都市の緑の保全、生物多様性という社会貢献の観点から、2021年度より、当社分譲マンション「ATLAS(アトラス)」の外構計画に、ヘーベルハウスで培った「まちもり」の理念に基づいた植栽計画を標準仕様として導入し、旭化成ホームズグループとして新たな環境共生活動を始めました。都市部において多くの開発事業を行う企業の社会的責任として、都心部で特に失われつつある緑の保全・再生を目指し、「ATLAS」計画地周辺の公園・緑地の樹種に配慮し、その地域に適した樹木、地被植物を敷地内に計画的に配置することで、それぞれの地域環境に適したエコロジカルネットワーク形成の促進をしていきます。



【アトラスの「まちもり」計画によるエコロジカルネットワーク】

#### ●住み続けられるまちづくりを目指して

今後も、旭化成不動産レジデンスは、旭化成ホームズグループの生物多様性への取り組みである『まちもり』のコンセプトを取り入れた外構計画、および維持管理で地域の自然環境へ配慮するとともに、高耐久・高性能でレジリエンス性の高い建物とお客様のライフスタイルの変化に合わせた最適で永続的なサービスの提供を行い、カーボンニュートラル推進の軸となる循環型社会の構築を進めながら、アトラス、ヘーベルメゾンにご入居のお客様だけでなく、ご近隣を含む地域の皆様が末永く快適に住み続けられる街づくりに取り組んでいきます。

## 「サステナビリティレポート2021」に対する第三者意見報告書

### 1. レビューの概要と観点

貴社の「サステナビリティレポート2021」(以下「レポート」という。)について、記載情報が事実と相違ないことを前提として、LONGLIFEな商品・サービスの提供、気候変動対応に関する特集内容、及び策定された目標と実績の自己評価を中心に①いのちを守る、②くらしを豊かにする、③人生を支えるという観点からレビューを実施しました。このレビューに当たっては、資源循環を考慮した建築生産システム等について長年研究されてきた角田誠氏(東京都立大学教授)に、建築・環境技術面からのアドバイスを頂戴しています。

### 2. 意見(レビュー結果)

本レポートは、貴社のCSR方針(「事業を通じた社会への貢献」、「誠実な業務遂行」、「人権の尊重」、「環境への配慮」、「労働慣行及び労働安全」、「社会とのコミュニケーション」)を、社会の持続可能な発展を目標とするSDGsの視点から整理されています。加えて、その具体的な取り組みを通じた環境に対する課題とともに広範な社会問題に対して、貴社の貢献内容が示されています。

今回のレポートでは、喫緊の世界的課題である気候変動への対策として、「2050年までにカーボンゼロを目指す」ことを旭化成グループとして表明され、旭化成ホームズとしても環境方針を新たに刷新し、脱炭素社会への推進を明確に表明しています。それを象徴するものとして、RE100イニシアチブでのRE100(再エネ調達100%)達成の目標年度を、当初の2038年度から2025年に大幅に繰り上げられたことが特筆されます。また、廃棄物削減、生物多様性保全の各取り組みに関連するハードな技術の紹介に加え、研究・商品開発や誠実な業務遂行を通じた社会への貢献からダイバーシティの取り組み、働き方改革まで、幅広い取り組みが示されています。さらに、住まい手の暮らしや地域コミュニティへの貢献といったソフト的な要素に対する技術支援を持続可能性の重要テーマとして位置づけ、これらの両面からの取り組みが継続して進められています。

環境への配慮として、脱炭素社会、循環型社会、自然共生社会の構築に向けて設定された環境目標に対し、中期目標の最終年度である本年度では、その総合評価が報告されています。12の目標のうち、脱炭素社会に向けた目標の1項目を除き、全て達成されたことは高く評価できます。

これら3つの社会の実現のための取り組みの中から、環境配慮住宅・ロングライフ住宅によるCO<sub>2</sub>削減、省資源化、さらに生物多様性に配慮した住宅生産体制の確保の観点から、2020年度の特に優れた内容を述べます。

- ネット・ゼロ・エネルギーハウス(ZEH)について、年々その実績を高められ、2020年度は66%を達成しています。ZEHビルダー登録制度(一社)環境共創イニシアチブ公募)が掲げる目標値(2020年度までに50%をZEHとする)をクリアしたことは高く評価でき、今後は2025年度に80%をZEHとする、次の目標の達成が期待されます。
- 賃貸集合住宅「ヘーベルメゾン」の建築主から屋根面を賃借し、太陽光発電設備及び蓄電池を設置する「Ecoレジグリッド」の取り組みを2021年3月より開始し、集合住宅のZEH推進に寄与するとともに、発電された電力を電力小売事業者「ヘーベル電気」が購入した後に入居者への販売する仕組みを構築しています。さらに余剰電力を旭化成グループの事業活動に利用するという、より総合的な自家消費のビジネスモデルに展開していることは、極めて高く評価できます。
- すべての建物に対して定期点検サービスの無償期間を30年から60年間に延長することで、建物の長寿命化への取り組みを進めたことは、CO<sub>2</sub>排出削減だけでなく、産業廃棄物削減の点からも評価できます。今後は、ライフスタイルの変化に応じた増改築・模様替えや、断熱性能向上や太陽光発電設備の設置といった省エネ改修(エコリフォーム)に対する一層の取り組みを期待します。
- 既存住宅の利用促進による環境負荷低減と継続的な住環境サービスの提供を目指したストックヘーベルの取り組みは、一定の実績をあげています。今後とも高耐久・長寿命というヘーベルハウスの特長を活かすことで、中古住宅流通の拡大や新しいライフスタイルの選択肢拡張への展開を期待します。
- 産業廃棄物削減のためのAHS-one(アースワン)活動の継続は高く評価できます。本年度からは、賃貸物件入退室時の原状復帰工事においても100%再資源化(ゼロエミッション)の対応を始められたことや、新築現場での産業廃棄物(PS)のインゴット化による輸送時CO<sub>2</sub>排出削減の取り組みについても、高く評価できます。
- 自然との共生への取り組みである「あさひ・いのちの森」の活動では、2020年からの10年を第2ステージと位置付け、新たに産学共同の、周辺地区の自然林、里山の種多様性の保存や、湿地の植生管理手法の研究を始められたことは高く評価でき、今後の成果が期待されます。

### 3. 今回のサステナビリティレポートの総合評価と今後への期待

サステナビリティレポート2021では、これまでの貴社の長年の取り組みの中から、現在の住宅・住環境をめぐる重要な課題を解決する取り組みを特集するとともに、貴社が設定した環境に関する目標の達成に向けて着実に取り組みが進められていることが報告されています。2021年度は、さらなる課題に取り組むことに加えて、2020年度までの中期目標の結果をふまえ、新たな持続可能な社会の形成に寄与する次の中期目標の方針策定へと結びつけ、取り組むことが望まれます。

一般財団法人 日本建築センター  
理事長



東京都立大学 都市環境学部  
建築学科教授



## 第三者意見を受けて

旭化成ホームズ株式会社 RC管理部長  
(兼)旭化成株式会社 サステナビリティ推進部  
武藤 一巳



橋本様、角田様には、当社グループの活動に対して貴重なご意見をいただき、心より御礼申し上げます。

世界中がコロナ禍との闘いを続けている中、当社グループは社会課題に向き合い、持続可能な社会実現を目指して事業活動を行ってまいりました。特に昨秋の政府による2050年ネットゼロ宣言以降、さまざまな分野で脱炭素への関心が深化する中

で、2019年から参加しているRE100イニシアチブでの目標を大きく繰り上げて脱炭素へ取り組む姿勢をより鮮明にしたことを高く評価いただきました。またZEHの推進、ヘーベル電気の普及、太陽光発電の自家消費モデルの展開などを通じて、HEBELHAUSを選んでいただいたお客様とともに環境貢献についても、さらなる期待も込めて評価いただき、大いに励みになりました。

2020年を区切りとした環境中期目標はほぼ達成できましたが、当社グループへの期待や要求のレベルは今後益々高くなっていくものと考えています。それに応じていくようこのたび環境方針を見直しました。「脱炭素社会とレジリエンスの推進」、「サーキュラーエコノミーの実現」、「ステークホルダーと共に進める自然共生」の3つを軸に、いただいた助言も含めて新たな目標を設定し努力を続けていく所存ですので、今後ご指導よろしくお願いたします。

私たちはLONGLIFEな事業活動を通じて持続可能な社会実現に貢献し、永く愛され続ける企業を目指します。



「LONGLIFE住宅の実現」で、  
低炭素社会へ。  
私たちは、Fun to Shareに賛同しています。

## 旭化成ホームズ株式会社

東京都千代田区神田神保町一丁目105番地  
神保町三井ビルディング 〒101-8101

お問い合わせ先／  
旭化成ホームズ株式会社  
RC管理部  
(03-6899-3072)  
<http://www.asahi-kasei.co.jp/j-koho/>